

平成 27 年

# 消 防 年 報

平成28年度基本姿勢

**「災害に強い地域を目指し**

**消防体制の充実強化」**

**相馬地方広域消防本部**

(平成28年6月刊行)

## 相馬地方広域消防訓

- 一 消防の使命に生きがいを感じ
- 一 民生の安定に寄与しよう
- 一 和衷協同して組織力の効率を高め  
防災体制を確立しよう
- 一 広く消防情報を収集して  
先見的業務を推進しよう
- 一 知と技を備え規律を厳正にして  
親愛される消防人になろう
- 一 職員相互信頼のもと  
明朗清新な職場環境をつくろう

# 目 次

## 総 括

一目統計	1
相馬地方広域市町村圏域の概要	2~3
相馬地方広域消防沿革	4~17
相馬地方広域消防歴代管理者・消防長等一覧表	18
相馬地方広域消防組織図	19
相馬地方広域消防現勢分布図	20
相馬地方広域市町村圏勢の推移	21
消防予算の推移	21
消防施設等整備状況	21
消防庁舎	22
職員配置状況	22
階級別年齢状況	23
職員市町村別居住状況	23
階級別・勤続年数別職員構成	24
年度別職員研修状況	25
職員特殊技能その他の資格取得状況	26
消防相互応援協定状況	27
<b>予 防 統 計</b>	
防火対象物の現況	28
防火対象物立入検査状況	29
甲種防火管理者新規（再）講習実施状況	30
防火管理者の選任及び消防計画の届出状況	31
防火対象物定期点検報告制度実務状況	32
防火対象物階層別調	33
市町村別建築同意処理状況	34
年度別建築同意処理状況	34
用途別建築同意処理状況	35
消防用設備等の着工・設置届出件数	36
火災予防条例に基づく届出件数	37
<b>危 険 物 統 計</b>	
市町村別危険物施設数	38
数量別危険物施設数	39
類別危険物施設数	40
施設別許可・完成検査・廃止届出件数	41
<b>火 災 統 計</b>	
火災発生状況	42
市町村別火災発生件数	42
市町村別損害額	42
市町村別火災発生状況	43
月別火災発生状況	44
月別火災発生件数（グラフ）	45
覚知別火災件数（グラフ）	45
時間別火災発生件数（グラフ）	46

原因別火災件数（グラフ）	46
曜日別火災発生件数（グラフ）	47
過去5年間の火災発生状況	47
<b>警 防 統 計</b>	
消防車両の配置状況	48
消防活動状況(1)	49
消防活動状況(2)	50
消火活動状況	51
救助活動状況	52
訓練実施状況	53
消防資器材の保有状況	54~56
通信系統図	57
消防救急デジタル無線整備概要	58
通信施設状況	59
無線機配備状況(デジタル無線)	60,61
無線機配備状況(アナログ無線)	61
消防水利の現有状況	62
<b>救 急 統 計</b>	
相馬地方救急現勢分布図 救急出場件数及び搬送人員	63
救急隊別事故種別出場件数	64
傷病程度別搬送人員数	64
年齢区分別搬送人員数	64
曜日別出場件数	65
時間別出場件数	65
覚知別出場件数	65
救急隊員の行った応急処置状況	66
福島県ドクターヘリ要請概要	67
常磐自動車道事故対応状況	68,69
過去10年間の救急業務の推移	70
救命講習会の実施状況	71
<b>消防団・関係団体等</b>	
相馬地方広域市町村消防団の組織	72
階級別実員数	73
消防車両の現況	73
福島県消防協会相馬支部顧問	74
福島県消防協会相馬支部役員	74
消防関係団体等の結成状況	75~79
市町村別消防クラブ等結成状況	80
<b>震災関係</b>	
東日本大震災（東北地方太平洋沖地震）概要	81~85
南相馬市消防・防災センター、高機能消防指令施設関係	86~88

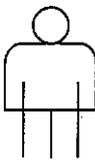
# 一 目 統 計

世帯

一世帯当たり 2.69人
人口 113,494人 世帯 42,153

人口密度

1 km <sup>2</sup> 当たり 130.1人
面積 872.65 km <sup>2</sup>

消防費

住民1人当たり 14,574.6円
当初予算 1,654,134千円

消防職員

住民777.4人に 1人
定員 148人 実員 146人

消防団員

住民51.2人に 1人
定員 2,494人 実員 2,260人

火災

7.5日に1件
件数 49件

火災1件当たりの損害額

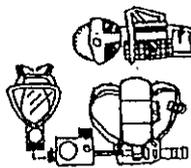
1件当たり 3,009.9千円
損害額 147,486千円

火災による死傷者

年間 9人
死者 3人 負傷者 6人

救急出場

1日に 12.3件
4,513件

救助出動

4.2日に1件
87件

緊急通報受信回数

1日に 18.4回
6,747回 (うち 119は 6,310回)

# 相馬地方広域市町村圏域の概要

## 1 圏域の構成

当圏域は、相馬市・南相馬市（旧原町市、旧小高町、旧鹿島町が合併）を中心に、新地町・飯館村の2市1町1村をもって構成し、その圏域は東西に33km、南北に44km、総面積872.65km<sup>2</sup>、人口は113,494人（平成28年4月1日現在）である。

また、この圏域は、過去相馬藩6万石の領地として22代続いた歴史ある地域であり、運命共同体的な意識の強いところである。

有名な相馬地方民謡の宝庫であるとともに、「世界一の馬の祭典」ともいわれ、一千有余年の歴史と伝統を誇る国指定重要無形民俗文化財の「相馬野馬追」は、全国に名をはせた祭りであり、毎年南相馬市を中心として7月最終土、日、月の3日間、圏域内市町村が一体となって執行されている祭典は、広域行政システムの創始といっても過言ではない。

## 2 圏域の位置・環境

当圏域は、福島県の太平洋沿い北端部に位置し、圏域中心都市の相馬市、南相馬市から県都福島市まで約60km、仙台市まで60～80kmの距離にある。

地形は、圏域西部を南北に縦走する阿武隈高地が尾根となり、この尾根から丘陵が複雑に東走し、一部は海岸まで達している。東走する丘陵の間には河川が東流し、その流域にはそれぞれデルタ状の平地が形成され、市街地集落と耕地が展開している。

太平洋沿岸は単調な南北線で形成され、比較的遠浅の海のため、夏には海水浴、潮干狩り、キャンプなどの観光客で賑わう一方、近海魚の豊富な漁場がある。

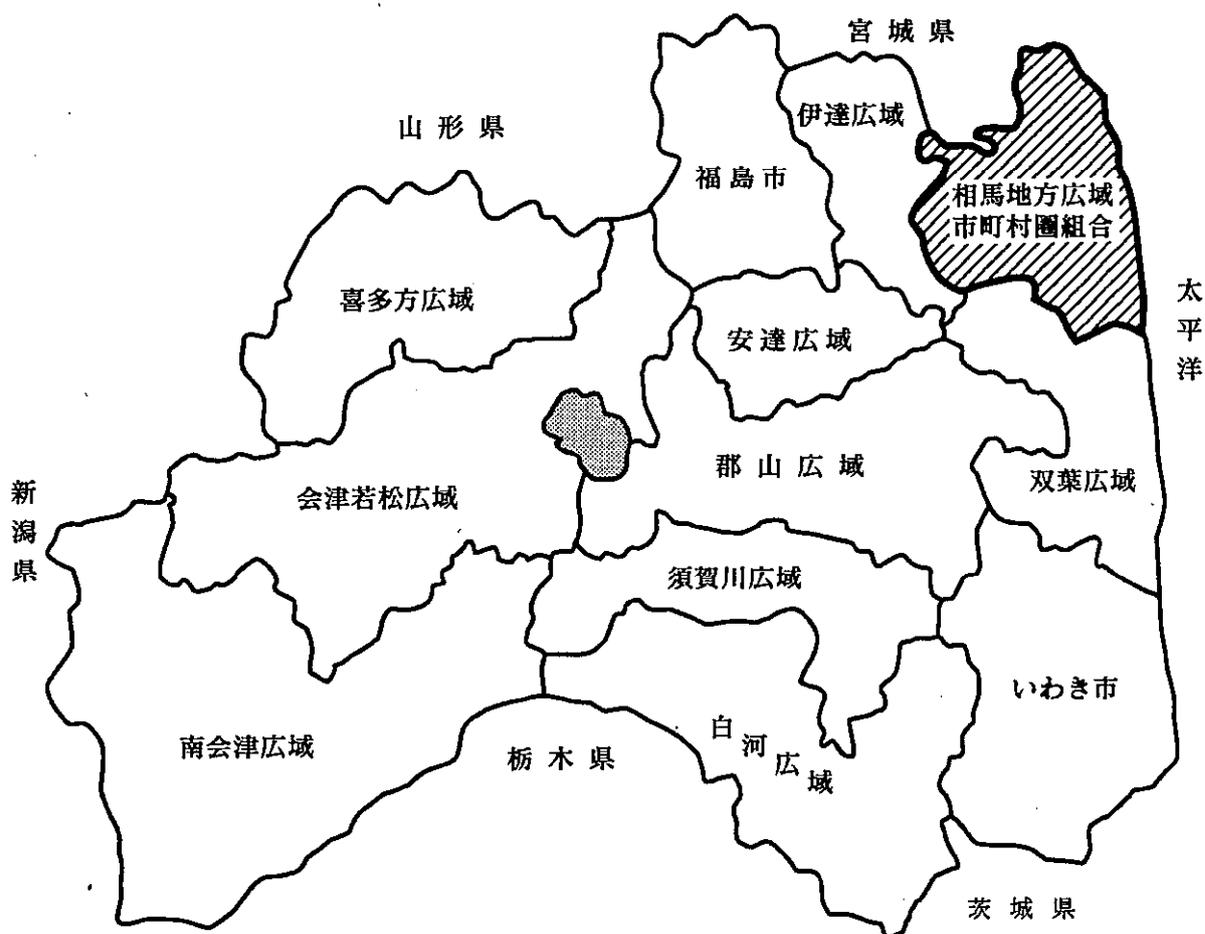
昭和58年から相馬市と新地町を対象に、地域振興整備公団の事業として、相馬中核及び内陸工業団地の整備が行われ、大中小様々な企業の工場が誘致されており、その一つに日本を代表する航空宇宙産業の企業や最先端の化学工場などが稼働している。

また、福島県浜通り一帯は電源基地となっており、新地町では、平成6年から火力発電所（1・2号機）が、続いて平成9年からは南相馬市（旧原町市）でも火力発電所（1・2号機）の運転が開始され、当圏域も電源供給の一翼を担う地域となっている。

## 3 東日本大震災の影響

平成23年3月11日に発生した東日本大震災（平成23年（2011年）東北地方太平洋沖地震）では、震度6強の強い地震と津波が太平洋沿岸部を襲い、当地方の沿岸部は壊滅状態となり、多くの尊い命が奪われた。さらには東京電力福島第一原子力発電所事故が発生し、大量の放射性物質が放出されるなど世界でも類を見ない原子力災害となり、当地方の一部は避難指示区域となった。現在も南相馬市の一部及び飯館村全域が「帰宅困難区域」、「居住制限区域」、「避難指示解除準備区域」とされ、多くの住民が避難生活を余儀なくされているが、平成27年3月に常磐自動車道が全線開通となり、被災地の復興が加速されることを期待している。

#### 4 位置図及び県内消防本部管轄区域



#### 5 圏域の面積、世帯数、人口

(平成28年4月1日現在)

市町村	区分	面積 (km <sup>2</sup> )	世帯数	人口		
				男	女	計
相馬市		197.67	14,034	17,648	18,086	35,734
南相馬市	原町区	198.49	16,310	21,194	21,409	42,603
	小高区	91.95	3,408	4,824	5,285	10,109
	鹿島区	108.06	3,617	5,391	5,438	10,829
	計	398.50	23,335	31,409	32,132	63,541
新地町		46.35	2,717	3,985	4,032	8,017
飯館村		230.13	1,871	3,098	3,106	6,204
合計		872.65	41,957	56,140	57,356	113,496

※ 人口及び世帯数は住民基本台帳に基づく。

# 相馬地方広域消防沿革

- |       |    |   |             |
|-------|----|---|-------------|
| 昭和47. | 4  | 相馬市、原町市、小高町、鹿島町、新地町、飯館村の2市3町1村からなる相馬地方広域消防が発足、1本部、2署4分署を設置する。<br>消防職員120名 消防ポンプ自動車10台 救急自動車3台<br>指令車1台 指揮車2台 無線局6局 移動局17局<br>初代消防長に渡邊清憲が就任する。 | <b>1972</b> |
|       | 9  | 化学消火剤（エアフォーム）を2,000ℓ備蓄する。   |             |
|       | 11 | 消防ポンプ自動車（ニッサンFH60）2台を購入し、新地分署、飯館分署に配置する。  |             |
| 昭和48. | 2  | 危険物火災に備え、化学消防ポンプ自動車（いすゞ、水槽1,500ℓ、薬槽500ℓ）を購入し、消防本部に配置する。   | <b>1973</b> |
|       | 4  | 第2代消防長に岸 近が就任する。<br>原町消防署が橋本町から、消防本部へ移転併設となる。<br>双葉地方広域市町村圏組合と消防相互応援協定を締結する。<br>消防本部内の機構改革を行い、庶務係を総務係に、警防救急係を警防係に名称を変更する。                     |             |
|       | 6  | 指揮車（ニッサンブルーバードU）5台を購入し、相馬消防署、小高分署、鹿島分署、新地分署、飯館分署に配置する。<br>原町消防署にマイクロ型救急自動車を配置する。  |             |
|       | 9  | 飯館分署に救急自動車を配置する。<br>伊達地方消防組合と消防相互応援協定を締結する。<br>消防ポンプ自動車（ニッサンFH60）を購入し、鹿島分署に配置する。  |             |
| 昭和49. | 1  | 亘理地区消防事務組合と消防相互応援協定を締結する。   | <b>1974</b> |
|       | 6  | 仙南地域広域行政事務組合と消防相互応援協定を締結する。   |             |
|       | 8  | 第24回福島県水防演習が鹿島町の真野川にて実施される。<br>空気充填機1台を購入し、消防本部に設置する。   |             |
|       | 9  | 昭和49年度福島県総合防災訓練が原町市で実施される。  |             |
|       | 12 | 水槽付消防ポンプ自動車（いすゞ、水槽2,000ℓ）1台を購入し、相馬消防署に配置する。   |             |
| 昭和50. | 8  | 第5回福島県下消防職員親善卓球大会を相馬市（相馬女子高）で開催する。  | <b>1975</b> |
|       | 11 | 相馬地方防火管理連絡協議会が設立される。  |             |
|       | 12 | 民間クレーン業者（松島、山王）と協力契約する。   |             |
| 昭和51. | 4  | 第3代消防長に吉田嘉基が就任する。<br>相馬地方消防設備保守協会が設立される。  | <b>1976</b> |
|       | 7  | 指揮車（ニッサンブルーバード）を購入し、原町消防署に配置する。   |             |
|       | 10 | 消防ポンプ自動車（ニッサンFH60）を購入し、相馬消防署に配置する。  |             |
| 昭和52. | 4  | 消防本部の機構改革で、総務課、消防課の2課制とする。  | <b>1977</b> |
|       | 6  | 救助訓練塔を消防本部前庭に仮設する。  |             |
|       | 10 | 消防ポンプ自動車（ニッサンFH60）を購入し、原町消防署に配置する。  |             |
|       | 12 | 日本損害保険協会より救急自動車（トヨタ2B型）が寄贈され、相馬消防署に配置   |             |

する。

- |       |    |  |             |
|-------|----|--|-------------|
| 昭和53. | 5  | 東京海上火災保険会社より広報車（トヨタカーリーナバン）が寄贈され、原町消防署に配置する。   | <b>1978</b> |
|       | 7  | 職員定数条例の一部を改正、3名の増員を図り123名とする。  |             |
|       | 8  | 広報車1台（トヨタコロナバン）を購入し相馬消防署に配置する。<br>指令車（ニッサンセドリック）を購入し、消防本部に配置する。                                      |             |
|       | 9  | 救急自動車（トヨタ2B型）を購入し、原町消防署に配置する。  |             |
|       | 11 | 水槽付消防ポンプ自動車（いすゞ、水槽2,000ℓ）を購入し、小高分署に配置する。   |             |
| 昭和54. | 10 | 新地分署庁舎の事務室（42㎡）を増築する。<br>相馬地方広域消防検閲式を実施する。   | <b>1979</b> |
|       | 11 | 相馬地方少年婦人防火委員会が設立された。   |             |
|       | 12 | 水槽付消防ポンプ自動車（いすゞ、水槽2,000ℓ）1台、消防ポンプ自動車2台を購入し、水槽付消防ポンプ自動車を鹿島分署に、消防ポンプ自動車を相馬消防署と原町消防署に配置する。              |             |
| 昭和55. | 4  | 第4代消防長に泉 茂が就任する。<br>職員定数条例を一部改正、1名の増員をはかり124名とする。  | <b>1980</b> |
|       | 8  | 日本損害保険協会より消防ポンプ自動車（トヨタランドクルーザーA1級）が寄贈され、原町消防署に配置する。  |             |
|       | 9  | 昭和55年度福島県総合防災訓練が相馬市で実施される。   |             |
|       | 11 | 日本防火協会より相馬地方婦人防火クラブに防火広報車（ニッサンキャラバン）が寄贈される。<br>相馬地方広域消防検閲式を実施する。                                     |             |
| 昭和56. | 2  | 圏域内関係者と相馬地方広域消防の間で、ガス漏れ及び爆発事故防止対策に関する覚書を締結する。<br>日本損害保険協会より救急自動車（トヨタ2B型）が寄贈され、飯館分署に配置する。             | <b>1981</b> |
|       | 3  | 福島県共済農業協同組合連合会より救急自動車（ニッサン2B型）が寄贈され、原町消防署に配置する。  |             |
|       | 6  | 相馬郡医師会の協力により救急I課程講習会を開催、職員45名、双葉広域消防職員17名が受講し資格を取得する。  |             |
|       | 7  | 職員定数条例を一部改正、2名を増員し126名とする。   |             |
|       | 10 | 第9回福島県下消防職員親善剣道大会を原町市（県営原町体育館）で開催する。   |             |
|       | 11 | 消防器具搬送車（いすゞバン）2台、査察車（ニッサンバルサー）1台を購入し、相馬消防署、原町消防署に器具搬送車、消防本部に査察車を配置する。<br>昭和56年度福島県相双地方防災訓練を小高町で実施する。 |             |
| 昭和57. | 4  | 職員定数条例を一部改正、2名増員し128名とする。  | <b>1982</b> |
|       | 6  | 指揮兼広報車（ニッサンバルサー）2台を購入し、相馬消防署、鹿島分署に配置する。  |             |
|       | 9  | 昭和57年度福島県総合防災訓練が原町市で実施される。   |             |
|       | 10 | 消防ポンプ自動車（ニッサンBD1型）を2台購入し、新地分署、飯館分署に配置する。   |             |
| 昭和58. | 4  | 第5代消防長に吉田信雄が就任する。  | <b>1983</b> |
|       | 6  | 指揮兼広報車（ニッサンバルサー）2台を購入し、原町消防署、飯館分署に配置（更   |             |

新)する。

- 9 救急自動車(トヨタ2B型)を購入し相馬消防署に配置(更新)する。
- 12 昭和58年度福島県相双地方防災訓練が鹿島町で実施される。  
山之内製薬株式会社より救急自動車(ニッサン2B型)1台が寄贈され、小高分署に配置する。  
小高分署で救急業務を開始する。

- |       |    |  |             |
|-------|----|--|-------------|
| 昭和59. | 1  | 消防無線電話基地局2基(新地分署、飯館分署)、移動局1基、携帯局10基を整備する。                | <b>1984</b> |
|       | 2  | 相馬地方婦人消防大会が小高町で開催される。                                    |             |
|       | 6  | 鹿島町藤加工所より救難用ゴムボートが寄贈され、鹿島分署に配置する。<br>相馬地方広域消防職員観閲式を実施する。 |             |
|       | 10 | 救急自動車(トヨタ2B型)を1台購入し、鹿島分署に配置する。<br>鹿島分署で救急業務を開始する。        |             |
|       | 11 | 消防ポンプ自動車(トヨタBD1型)を購入し、鹿島分署に配置(更新)する。                     |             |

- |       |    |  |             |
|-------|----|--|-------------|
| 昭和60. | 2  | 日本自動車工業会より救急自動車(トヨタ2B型)が寄贈され、新地分署に配置する。<br>新地分署で救急業務を開始する。                     | <b>1985</b> |
|       | 4  | 組織機構改革し、相馬消防署に鹿島分署、新地分署を、原町消防署に小高分署、飯館分署を編入する。<br>職員定数条例を一部改正、2名の増員を図り130名とする。 |             |
|       | 8  | 救命ボートを購入し、相馬消防署に配置する。  |             |
|       | 11 | 相馬地方幼年消防大会が原町市(県営原町体育館)で開催される。   |             |
|       | 12 | 指令車(ニッサンローレル)を購入し、消防本部に配置(更新)する。<br>指揮兼広報車(トヨタカローラバン)を購入し、原町消防署に配置(更新)する。      |             |

- |       |   |  |             |
|-------|---|--|-------------|
| 昭和61. | 8 | 日本消防協会より救急自動車(トヨタ2B型)が寄贈され、原町消防署に配置する。 | <b>1986</b> |
|-------|---|--|-------------|

- |       |    |  |             |
|-------|----|--|-------------|
| 昭和62. | 1  | 消防無線電話2基購入、救急自動車(原町消防署)、器具搬送車(相馬消防署)に配置する。<br>相馬地方奥様防災博士連絡協議会が設立される。 | <b>1987</b> |
|       | 3  | 消防本部前庭に救助訓練塔を設置する。   |             |
|       | 4  | 第6代消防長に鈴木一男が就任する。  |             |
|       | 8  | 第17回福島県下消防職員親善卓球大会が原町市(県営原町体育館)で開催される。                               |             |
|       | 10 | 指揮兼広報車(トヨタカローラバン)を購入し、相馬消防署に配置(更新)する。                                |             |
|       | 11 | 消防無線電話移動局3基購入、指揮車(原町消防署)、器具搬送車(原町消防署)、水槽付消防ポンプ自動車(鹿島分署)に装備する。        |             |

- |       |    |   |             |
|-------|----|---|-------------|
| 昭和63. | 1  | 水槽付消防ポンプ自動車(いすゞ、水槽2,000ℓ)を購入し、相馬消防署に配置(更新)する。     | <b>1988</b> |
|       | 3  | 相馬地方危険物安全協会が設立される。                                |             |
|       | 8  | 相馬消防署新地分署車庫に防寒防犯のためのシャッターを取り付ける。                  |             |
|       | 10 | 原町市幼年消防大会が県営原町体育館で開催される。<br>相馬地方婦人消防隊連絡協議会が設立される。 |             |

- 1 1 福島県相双地方総合防災訓練が飯舘村で実施される。
- 1 2 救助工作車（いすゞⅡ型）を購入し、原町消防署に配置（新規）する。
- 
- 平成 元. 3 福島県共済農業協同組合連合会より救急自動車（ニッサン2B型）が寄贈され、原町消防署に配置する。 **1989**
- 5 第4回福島県下消防大会が原町市で開催される。
- 6 指揮兼広報車（トヨタカローラバン）2台を購入し、相馬消防署新地分署、原町消防署小高分署に配置（更新）する。
- 8 財団法人日本消防協会より指揮兼広報車が寄贈され、消防本部に配置する。
- 
- 平成 2. 2 消防無線電話移動局2基購入し、水槽付消防ポンプ自動車（相馬消防署）と指揮兼広報車（相馬消防署鹿島分署）に配置する。 **1990**
- 3 財団法人日本損害保険協会より水槽付消防ポンプ自動車（三菱、水槽2,000ℓ）が寄贈され、原町消防署に配置（更新）する。
- 4 第7代消防長に佐藤芳夫が就任する。
- 7 指揮兼広報車（トヨタカローラバン）2台を購入し、相馬消防署、原町消防署飯舘分署に配置（更新）する。
- 8 平成2年度福島県総合防災訓練が相馬市で実施される。
- 9 財団法人日本防火協会より防火広報車（ニッサンキャラバン）が寄贈され、消防本部に配置する。
- 救急自動車（2B型4WD）を購入し、原町消防署飯舘分署に配置（更新）する。
- 1 0 第9回県下消防職員親善野球大会が原町市で開催される。
- 1 1 相馬地方母と子の防火大会が原町市（県営原町体育館）で開催される。
- 
- 平成 3. 6 指揮兼広報車（トヨタカローラバン）を購入し、相馬消防署鹿島分署に配置（更新）する。 **1991**
- 1 0 救助工作車（三菱Ⅱ型）を購入し、相馬消防署に配置（新規）する。
- 
- 平成 4. 2 相馬地方消防設備保守協会15周年記念式典が原町市で開催される。 **1992**
- 福島総合警備保障株式会社より防火広報車1台が寄贈され、原町消防署に配置する。
- 4 職員定数条例を一部改正、3名を増員し133名とする。
- 6 指揮兼広報車（トヨタカローラバン）を購入し、消防本部に配置する。
- 消防本部指揮兼広報車を原町消防署に配置替えする。
- 8 平成4年度福島県総合防災訓練が原町市で実施される。
- 1 0 消防ポンプ自動車（三菱CD1型）2台を購入し、相馬消防署、原町消防署に配置（更新）する。
- 消防無線電話移動局5基を購入し装備する。
- 1 1 完全週休2日制の実施を開始する。
- 1 2 30日相馬消防署勤務の大井利文消防司令補が救急現場にて殉職する。
- 
- 平成 5. 1 故大井利文消防司令長の相馬地方広域市町村圏組合告別式が鹿島町勝縁寺で執り行われる。 **1993**
- 2 高圧空気充填機を購入し、消防本部に配備する。
- 日本自動車工業会より救急自動車（ニッサン2B型4WD）が寄贈され、相馬消防署に配車（更新）する。
- 3 高度救急資器材一式を購入し、原町消防署に配備する。

- 4 第8代消防長に只野清治が就任する。  
職員定数条例を一部改正、8名増員し141名とする。
- 7 高度救急資器材一式を購入し、相馬消防署に配備する。  
救助隊管理者査閲を実施する。
- 10 指令車（トヨタクラウン）を購入し、消防本部に配置する。  
化学消防ポンプ自動車（三菱Ⅱ型、水槽1,300ℓ、泡原液500ℓ）を購入し、原町消防署に配置（更新）する。  
平成5年度福島県相双地方総合防災訓練が新地町で実施される。
- 12 原町消防署に緊急自動車出動表示灯を設置する。

- 平成 6. 1 救急自動車（ニッサン2B型4WD）を購入し、原町消防署小高分署に配 **1994**  
置（更新）する。
- 3 消防無線電話基地局1基、携帯無線局3基を更新配備する。
  - 4 職員定数条例を一部改正、6名増員し147名とする。
  - 10 水槽付消防ポンプ自動車（三菱、水槽2,000ℓ）を購入し、原町消防署小高分署に  
配置（更新）する。  
消防ポンプ自動車（三菱CD-1型）を購入し、相馬消防署に配置（更新）する。
  - 12 故大井利文消防司令長の顕彰碑を建立する。

- 平成 7. 2 高度救急資器材一式を購入し、原町消防署飯館分署に配備する。 **1995**  
消防無線電話移動局3基、携帯無線局3基を更新装備する。
- 4 救急救命士（草刈 薫）第1号が誕生する。
  - 8 第20回県下消防職員予防、警防、救急実務研究会が開催される。
  - 10 平成7年度福島県相双地方総合防災訓練が小高町で実施される。  
水槽付消防ポンプ自動車（日野、水槽2,000ℓ）を購入し、相馬消防署鹿島分署に配  
置（更新）する。  
消防ポンプ自動車（三菱CD1型）を購入し、原町消防署小高分署に配置（更新）  
する。  
高度救急資器材一式を購入し、原町消防署小高分署に配備する。
  - 12 福島県緊急消防援助隊を編成する。

- 平成 8. 2 消防無線電話基地局2基、移動無線局2基、携帯無線局3基を購入し、 **1996**  
更新配備する。
- 4 第9代消防長に新谷榮正が就任する。  
消防本部の機構改革を実施し、総務課に総務係と企画調整係、予防課に予防係と危険  
物係、警防課に警防救急係と通信指令係を設け3課6係とする。  
救急救命士に1人（菅野忠孝）が合格、計2人となる。
  - 6 永井清美氏（相馬市）を第1号民間応急手当指導員に認定する。
  - 7 相馬地方広域消防管理者査閲を実施する。
  - 9 救急応急手当指導発表会を開催する。
  - 11 第12回福島県防火大会が原町市で開催される。  
平成8年度福島県相双地方総合防災訓練が鹿島町で実施される。  
消防ポンプ自動車（三菱CD1型）2台を購入し、原町消防署、相馬消防署新地分署  
に配置（更新）する。

救急救命士に2人（高倉健一、小谷津芳秀）が合格、計4人となる。  
相馬（市）消防署発足40周年。

- 平成 9. 2 消防無線電話基地局1基、移動無線局3基、携帯無線局3基を購入し、**1997**  
更新配備する。  
救急自動車（ニッサン2B型）を購入し、相馬消防署鹿島分署に配置（更新）する。
- 3 高度救急資器材一式を購入し、相馬消防署鹿島分署に配備する。
- 5 福島県共済農業協同組合連合会より、救急自動車（トヨタ2B型）1台が寄贈され、相馬消防署新地分署に配置する。
- 6 相馬地方広域消防管理者査閲を実施する。
- 10 高度救急資器材一式を購入し、相馬消防署新地分署に配備（更新）する。
- 11 消防本部旗が寄贈される。  
消防ポンプ自動車（三菱CD1型）2台を購入し、相馬消防署鹿島分署、原町消防署飯館分署に配置（更新）する。  
救急救命士に1人（太田秀明）が合格、計5人となる。

- 平成10. 1 消防無線電話基地局1基、移動無線局3基、携帯無線局3基を購入し、**1998**  
更新配備する。  
福島県消防防災航空隊員として1名（高橋友幸）を事前派遣する。
- 4 職員定数条例を一部改正、1名増員し148名とする。  
福島県消防防災航空隊員として1名（高橋友幸）を派遣する。  
相馬地方広域市町村圏組合職員章が制定され、全職員に貸与する。
- 5 第51回福島県下消防大会が相馬市で開催される。
- 6 相馬地方広域消防管理者査閲を実施する。
- 7 救急救命士に1人（河村幸一郎）が合格し、計6人となる。
- 9 救急救命シミュレーション発表会を原町市で開催する。  
指揮兼広報車（トヨタカローラバン）2台を購入し、相馬消防署、原町消防署に配置（更新）する。
- 10 応急手当指導員養成講習会を開催、職員全員が資格を取得する。
- 11 救急救命士に1人（高原和博）が合格、計7人となる。
- 12 高規格救急自動車（トヨタハイメディック）、高度訓練用救急資器材一式を購入し、原町消防署に配置、運用を開始する。  
消防無線電話全局の呼び出し名称を改正、運用開始する。

- 平成11. 4 第10代消防長に萩原勝が就任する。**1999**  
救急救命士に1人（五賀和広）が合格、計8人となる。
- 6 指揮兼広報車（ホンダパートナー4WD）2台を購入し、相馬消防署新地分署、原町消防署小高分署に配置（更新）する。  
相馬地方広域消防管理者査閲を実施する。  
連絡車（ホンダライフ）を購入し、消防本部に配置（新規）する。
- 8 ポケットベルを全職員が携帯し、運用を開始する。
- 9 福島県消防緊急援助隊集結野営訓練に消火部隊1隊が参加する。  
第1回救急シンポジウムを原町市で開催する。
- 10 第19回全国豊かな海づくり大会が相馬市で開催され、消防特別警備隊を編成する。

平成11年度福島県相双地方総合防災訓練が飯館村で実施される。

- 1 2 新地分署に出動表示灯を設置する。  
コンピューター西暦2000年問題に係る危機管理体制を配備する。

- 平成12. 1 火災撲滅運動の一環として、相馬地方全世帯に「無火災宣言の家」ステッカーを配布する。 **2000**
- 3 消防無線電話中継施設を鹿島町に設置し、不感地帯の解消を図る。  
財団法人日本消防協会から救急自動車（ニッサン2B型）が寄贈され、原町消防署飯館分署に配置（更新）する。
- 4 第11代消防長に米山光喜が就任する。  
財団法人日本消防協会に実務研修として1年間、職員1名（高野孝一）を派遣する。
- 6 相馬地方広域消防管理者査閲を実施する。
- 7 指揮兼広報車（ホンダパートナー4WD）2台を購入し、相馬消防署、原町消防署飯館分署に配置（更新）する。  
あぶくま信用金庫50周年記念事業で、心肺蘇生法訓練用人形6体が寄贈される。
- 8 平成12年度福島県総合防災訓練が相馬市で実施される。
- 9 第2回救急シンポジウムを原町市で開催する。
- 10 社団法人日本損害保険協会から化学消防ポンプ自動車（三菱）が寄贈され、相馬消防署に配置（新規）する。
- 1 2 高規格救急自動車（ニッサンパラメディック）と高度訓練用救急資器材一式を購入し、相馬消防署に配置する。

- 平成13. 2 救急救命士に1人（米本民男）が合格、計9人となる。 **2001**
- 3 相馬消防署に車庫を新築する。
- 4 機構改革により4分署の副分署長制を廃止、当直司令2名体制とする。
- 5 相馬地方広域消防管理者査閲を実施する。  
飯館村建物火災を福島県消防防災ヘリコプターが発見、通報する。
- 6 指揮兼広報車（ホンダシビック、パートナー4WD）3台を購入し、消防本部、原町消防署、相馬消防署鹿島分署に配置（更新）する。
- 9 第41回福島県消防協会相馬支部幹部大会の席上、消防団幹部（班長以上の階級で3年以上勤続者）に防火管理者認定証を交付する。  
第3回救急シンポジウムを原町市（サンライフ原町）で開催する。
- 10 第20回福島県下消防職員親善野球大会が鹿島町で開催される。
- 11 原町市立病院から福島県立医大まで、福島県消防防災ヘリコプターにより救急患者を初めて搬送する。  
福島県消防防災ヘリコプターによる救急患者搬送現場検証訓練を実施する。

- 平成14. 1 相馬消防署に出動表示灯を設置する。 **2002**
- 4 救急救命士1人（佐々木弘光）が合格、計10人となる。
- 5 相馬地方広域消防発足30周年記念管理者査閲を実施する。  
災害用エアテントを購入し、消防本部に配備する。
- 9 第4回救急シンポジウムを相馬市（はまなす館）で開催する。  
救急自動車（トヨタ2B型4WD）を購入、原町消防署に配置（更新）する。
- 10 平成14年度相双地方総合防災訓練が新地町で実施される。

- 1 1 相馬地方自主防災組織推進大会を原町市スポーツセンターで開催する。  
相馬地方広域消防30周年式典を原町市で開催する。  
相馬地方広域消防発足30周年記念誌「相馬広域消防のあゆみ」を発刊する。

平成15.

- 1 相馬地方広域消防水難救助隊が37名で発足する。
- 2 水難救助隊用ウェットスーツ6着他水難救助用資機材を購入、相馬、原町両署に配備する。
- 4 第12代消防長に木村健次郎が就任する。  
福島県消防防災航空隊に消防士長 武田真弘を派遣する。  
救急救命士1人(大河内敏栄)が合格、計11人となる。
- 5 相馬地方広域消防検閲式を実施する。
- 7 災害救援車(ニッサンシビリアン)を購入し、消防本部に配置する。  
双葉地方広域市町村圏組合消防本部と合同研修会を開催する。
- 8 福島県緊急消防援助隊集結訓練、福島県総合防災訓練が原町市で開催される。
- 9 第5回救急シンポジウムを原町市で開催する。
- 10 パソコンによる消防ネットワークシステムの運用を開始する。
- 11 福島県消防長会主催第1回消防職員駅伝大会で当本部が優勝する。

**2003**

平成16.

- 3 現場指揮に関する職員研修会を開催する。
- 5 救急救命士に1人(大洲紀一)が合格、計12名となる。
- 6 相馬地方広域消防検閲式を実施する。
- 7 双葉地方広域市町村圏組合消防本部と合同研修会を浪江町で開催する。
- 9 第6回救急シンポジウムを原町市で開催する。
- 10 新潟中越地震災害に緊急消防援助隊2隊7名が初出動する。  
原町消防署飯舘分署に高規格救急自動車(トヨタハイメディック)を配置(新規)する。
- 11 救急救命士に1人(庄司智久)が合格、計13人となる。  
福島県消防長会主催第2回消防職員駅伝大会で当本部が優勝する。

**2004**

平成17.

- 2 福島県消防職員意見発表大会で林貴之副士長が最優秀賞となる。
- 4 第13代消防長に渡部和俊が就任する。  
福島県消防防災航空隊に消防士長 小林友樹を派遣する。  
「焼死者火災多発警報」を発令し特別警戒体制をとる。  
(3月から4月に火災多発、死者7名、火傷者4名)  
救急救命士に1人(小泉英明)が合格、計14名となる。
- 6 相馬地方広域消防検閲式を実施する。
- 7 相馬地方震災対策推進会議を開催する。
- 8 16日宮城県沖を震源とする震度5強の地震発生により非常配備体制を発令する。
- 9 第7回救急シンポジウムを原町市で開催する。
- 10 救助工作車(日野)を購入し、原町消防署に配置する。  
相馬、双葉職員合同研修及び交流会を実施する。
- 11 仙台市から「地震防災アドバイザー」京栄二郎氏を講師に招き防災講演会を開催する。  
救急救命士に1人(志賀 毅)が合格、計15名となる。
- 12 水槽付消防ポンプ自動車(日野、水槽2,000ℓ)を購入し、相馬消防署に配置する。

**2005**

平成18.

- 1 原町市、小高町、鹿島町が合併して南相馬市が誕生したことにより

**2006**

原町消防署の名称が南相馬消防署に変更される。

また、南相馬消防署所轄の分署とともにその名称も変更される。

南相馬消防署小高分署、南相馬消防署鹿島分署、南相馬消防署飯館分署

- 2 携帯 119 番の受信を開始する。
- 3 河村幸一郎救命士が薬剤投与実施の救命士に認定第 1 号となる。  
庄司智久救命士が気管挿管病院の実習を修了第 1 号となる。
- 4 講師を招き職員教養（原子力防災について）を南相馬市鹿島区で開催する。  
救急救命士に 1 人（岡 裕一）が合格、計 16 名となる。
- 6 相馬地方広域消防検閲式を実施する。  
相馬地方防火安全協会が結成発足される。
- 9 第 8 回救急シンポジウムを相馬市で開催する。
- 10 双葉地方広域市町村圏組合消防本部と合同研修会を浪江町で開催する。
- 11 高規格救急自動車（トヨタハイメディック）を購入し、南相馬消防署小高分署に配置する。

平成 19 . 2 住宅用火災警報器設置推進大会を南相馬市鹿島区で開催する。

**2007**

- 4 救急救命士に 2 人（濱名 修、梅田真史）が合格、計 18 名となる。
- 5 福島県消防殉職者慰霊祭及び第 60 回福島県消防大会が南相馬市で開催される。  
平成 19 年度福島県水防訓練が南相馬市鹿島区（真野川河川敷）で実施される。
- 6 相馬地方広域消防検閲式を実施する。
- 8 地震災害対応訓練を実施する。
- 9 第 9 回救急シンポジウムを南相馬市で開催する。  
指令車（トヨタプリウス）を購入し、消防本部に配置（更新）する。

平成 20 . 1 福島県ドクターヘリが運用開始され、当本部管内の労災事故で県内

**2008**

- 初出動の要請となる。
- 2 水槽付消防ポンプ自動車（日野、水槽 2,000 ㍓）を購入し南相馬消防署に配置（更新）する。  
内外部講師による職員研修を南相馬市鹿島区で開催する。
- 4 第 14 代消防長に井上秀雄が就任する。  
救急救命士に 2 人（鈴木伸洋、田村英二）が合格、計 20 名となる。  
化学災害対応のため活動要領と防護資機材の取り扱いについて研修会を 2 回実施する。
- 6 相馬地方広域消防検閲式を実施する。  
14 日午前 8 時 43 分に岩手・宮城内陸地震（震度 6 強）が発生し、緊急消防援助隊（4 隊 15 名）が岩手県一関市（1 泊）へ出動する。
- 7 24 日午前 0 時 26 分に岩手県沿岸北部地震（震度 6 強）が発生し、緊急消防援助隊（2 隊 7 名）が岩手県盛岡市へ出動する。  
地震当日開催予定の第 37 回東北支部消防救助技術指導会（青森市）が、地震発生のため中止となり、参加予定のロープブリッジ救出チームが青森市から帰ることとなる。  
相馬地方震災対策推進会議を開催する。
- 9 第 10 回救急シンポジウムを南相馬市鹿島区で開催する。
- 12 高規格救急自動車（トヨタハイメディック）を購入し、南相馬消防署鹿島分署に配置する。

平成21.

- 2 (財)日本消防協会理事長秋本敏文氏(元消防庁長官)を招き、消防職団員を対象とした防災講演会が開催される。
- 3 第15代消防長に森茂雄が就任する。  
福島県消防防災航空隊に消防士長 中里岳文を派遣する。  
(株)近代消防社代表取締役三井栄志氏を招き、消防職員研修会(防災講演)及び防災懇談会(近代消防掲載記事インタビュー)を開催する。  
救急OAシステムが導入され運用開始する。  
救急救命士に2人(菅野茂則、菊地隆史)が合格、計22名となる。
- 6 相馬地方広域消防検閲式を計画したが、雨により中止となる。
- 8 消防ネットワークシステムのサーバー1台を更新、1台増台し2台で運用する。
- 9 第11回救急シンポジウムを相馬市で開催する。

2009

平成22.

- 1 相馬消防署新庁舎の落成式(20日)及び開署式(22日)が挙行される。  
※平成21年3月27日着工、平成21年12月28日竣工
- 2 消防ポンプ自動車(日野)を購入し、南相馬消防署に配置(更新)する。
- 3 南相馬消防署小高分署新庁舎の落成式(27日)及び開署式(30日)が挙行される。  
※平成21年5月29日着工、平成22年2月23日竣工
- 4 第16代消防長に山田 敏が就任する。  
救急救命士に2人(杉 幸一、渡邊 亮)が合格、更に、専門学校で養成を受けた後に消防職員を拝命した1人(桑折健志)が合格し、計25名となる。
- 6 高規格救急自動車(ニッサンパラメディック)を購入し、南相馬消防署に配置(更新)する。  
相馬地方広域消防検閲式を計画したが、雨により延期する。
- 9 福島県緊急消防援助隊集結訓練、福島県総合防災訓練が相馬市で実施される。  
第12回救急シンポジウムを南相馬市で開催する。
- 10 福島県相双地方(新地町)総合防災訓練が新地町役場周辺で開催される。
- 11 相馬地方広域消防検閲式を実施する。  
北海道・東北ブロック緊急消防援助隊訓練が郡山市で開催される。  
住宅防火対策推進シンポジウムを南相馬市鹿島区のさくらホールにおいて開催する。

2010

平成23.

- 1 高規格救急自動車(トヨタハイメディック)を購入し、相馬消防署新地分署に配置(更新)する。これで、全所属に高規格救急自動車が配備となる。
- 2 新潟県小千谷市消防団長金子正男氏を招き、消防職団員を対象とした防災講演会を開催する。
- 3 11日(金)14:46東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)発生  
14:49~大津波警報発令、15:40~大津波発生(相馬市9.3m)  
※震源地~三陸(牡鹿半島)沖約130km、深さ24km、マグニチュード9.0、  
震度~新地町6強、相馬市・南相馬市・飯館村6弱(最高震度~栗原市7)  
各地で死傷者が発生し、緊急消防援助隊、県内応援隊を要請する。  
地震と津波の影響で東京電力福島第一原子力発電所が水素爆発を起こし、放射性物質が大気中に放出されたことにより、当該発電所から半径20km圏内(南相馬市小高区、南相馬市原町区の一部)が避難指示となり、南相馬消防署小高分署は、その機能

2011

を南相馬消防署へ移転する。

20から30km圏内が屋内退避となる。

- 4 救急救命士（横山良平）が合格し、計26名となる。

退職予定の所属長4名（加藤警防課長、齋藤相馬署長、佐藤南相馬署長、森小高分署長）は大地震のため、嘱託職員としてさらに2ヶ月間雇用することとなった。

計画的避難区域に飯館村全域が、緊急避難準備区域に20Kmから30Km圏内が設定される。

- 5 嘱託職員4名の離任式を行う。

- 6 平成23年度相馬地方広域消防辞令交付式を行う。

救助工作車（相馬消防署）・高規格救急自動車（横浜市長から寄贈（無償譲渡））の交付・配車式を行う。

- 8 ㈱タダノよりクレーン付4tトラックが寄贈され消防本部に配置する。

- 9 東日本大震災により平成23年救急救命士国家試験を受験できなかった者に対しての追加試験があり、救急救命士（遠藤洋）が合格し、計27名となる。

30日「緊急時避難準備区域」が解除される。

- 10 東日本大震災に伴う消防活動検証の結果を消防長に答申する。

- 12 相馬地方地震対策計画の一部を見直す。

平成24.

- 1 18日東日本大震災福島県消防殉職者慰霊祭が南相馬市民会館「ゆめ

2012

はっと」で開催される。

- 2 児玉龍彦東京大学教授を招いて「放射線と健康障害」の職員研修を原町区福祉会館で開催する。

- 3 相馬地方地震対策計画に基づく地震対策訓練を実施する。

- 4 職員定数条例を一部改正し、消防職員定数152名とする。

新規採用職員で、初の女性消防職員1名（救急救命士の資格有）が採用され、救急救命士が計28名となる。

3月28日にJA共済連福島より高規格救急自動車（トヨタハイメディック）の寄贈を受け、相馬消防署に配置する。

8日に常磐自動車道の南相馬ICと相馬IC間が開通となる。

16日に小高区の警戒区域解除、避難指示区域の見直しにより、昨年3月14日から閉庁していた南相馬消防署小高分署の通常業務を開始する。

福島県消防学校へ教官として櫻井正貴消防士長を派遣する。（平成26年3月31日まで）

- 5 高規格救急自動車（ニッサンパラメディック）を購入し、大津波で全損した相馬消防署高規格救急自動車に替え配置（更新）する。

横浜市長から寄贈（無償譲渡）された高規格救急自動車を消防本部に予備車として配置する。尚、平成24年度から常磐自動車道の一部開通により、高速道路救急対応救急車1台増車・救急隊1隊増隊し、救急車9台（本部配置予備車1台含む）、救急隊8隊（相馬消防署は救急隊1隊から2隊に増隊）による運用となる。

- 7 17日に飯館村は区域再編により、計画的避難区域から帰還困難区域、居住制限区域、避難解除準備区域の3区域に見直される。

- 9 第13回救急シンポジウムを南相馬市で開催する。

11日に福島県警と合同捜索を実施する。（相馬、南相馬警察署管内）

12, 13日警戒区域等における大規模林野火災を想定した訓練を実施する。

- 平成25. 2 消防庁国民保護・防災部防災課消防団専門官 青木浩氏を招いて、 **2013**  
消防職団員を対象とした平成24年度消防関係者防災研修会をさくらホールで開催する。  
第36回福島県消防職員意見発表会で、新地分署寺島政和消防士長が最優秀賞となる。
- 3 相馬地方地震対策計画に基づく地震対策訓練を実施する。  
鹿島駅構内でJR, 警察、消防合同でJR列車事故対応訓練を実施する。  
11, 13日に福島県警と合同捜索を実施する。(南相馬警察署管内)  
消防ポンプ自動車(CD-1)を1台購入し相馬消防署に配備(更新)する。  
27日に消防救急デジタル無線開通式を消防本部会議室で開催する。
- 4 1日から消防救急デジタル無線が正式運用開始となる。  
救急救命士に2人(伊藤友英、但野 充)が合格、更に専門学校で養成を受けた後消防職員を拝命した1人(遠藤好彦)が合格し、計31名となる。  
消防救急デジタル無線立石山中継所への落雷により電源設備等が破損する。
- 5 南相馬市防災センター(消防本部・南相馬消防署併設)の建設工事が着工となる。  
全国消防長会東北支部総会が岩手県盛岡市で開催され、席上第36回全国消防長会東北支部意見発表があり、福島県代表として新地分署 寺島政和 消防士長が出場する。  
飯館村で実施された多数傷病者対応訓練(DMAT訓練)に参加。
- 6 相馬地方広域消防職員研修会「公務員の倫理等に関する研修」を道の駅南相馬で開催する。
- 7 天皇皇后両陛下の飯館村行幸啓に際し、有事に備えた救急隊増隊を実施する。
- 9 多数傷病者事故対応訓練を南相馬(ダイユーエイト駐車場)及び相馬(相馬消防署)で実施する。  
第14回救急シンポジウムを相馬市はまなす館で開催する。
- 11 東京ドームで開催された消防団120年・自治体消防65周年記念大会に出席する。

- 平成26. 2 豪雪により、国道115号線や県道原町・川俣線が通行止めとなり **2014**  
相馬地方が孤立。勤務交代できず飯館分署内で待機する職員あり。  
消防職団員を対象とした平成25年度消防関係者防災研修会を「さくらホール」で開催予定であったが、中通りが豪雪の為東北新幹線が運休。東京から来福予定の講師が到着できず中止となる。
- 3 相馬地方地震対策計画の基づく地震対策訓練を実施する。  
鹿島駅構内でJR, 警察、消防合同でJR列車事故対応訓練を実施する。  
11日に福島県警と合同捜索を実施する。(南相馬警察署管内)
- 4 第17代消防長に草刈 薫が就任する。  
職員定数条例を一部改正し、消防職員定数148名とする。  
救急救命士に2人(佐藤 学、林 貴之)が合格し、計33名となる。  
福島県消防学校へ教官として庄司栄伸消防司令補を派遣する。(平成28年3月31日まで)
- 6 第37回福島県消防救助技術大会において、草野隆洸副士長(ロープブリッジ渡過)、佐藤弘隆副士長、佐藤貴洋副士長(ロープ応用登はん)が第1位となり第43回全国救助技術大会に出場を決める。(8月20日広島県に発生した土砂災害対応のため、8

月27日の全国大会は中止となった。)

地方公務員災害補償基金による職員のためのメンタルヘルスセミナーを2日間にわたり道の駅南相馬で開催する。

- 7 飯館村草野小学校グラウンドにおいて、第39回相馬地方消防操法大会を開催する。
- 8 東日本大震災以後、被災者に対し免除してきた消防手数料徴収を開始する。
- 9 第15回救急シンポジウムを南相馬市さくらホールで開催する。  
震災後、許可車両以外通行止めとなっていた国道6号線は、一般車(自動車のみ)の通行が可能となる。
- 10 指揮兼広報車(トヨタラッシュ)を3台購入し、相馬消防署、南相馬消防署、飯館分署に配備(更新)する。
- 11 飯館村須萱地内において、避難区域内における大規模火災対応訓練を開催する。  
双葉地方広域市町村圏組合消防本部との合同で常磐道現地調査を実施する。  
亘理地区行政事務組合消防本部との合同で常磐道事故対応訓練を宮城・福島県境で実施する。  
新地町農村環境改善センターにおいて、第38回相馬地方広域消防職員意見発表会を開催する。
- 12 喜多方地方広域市町村圏組合消防本部 高久警防課長を講師に迎え、高速道事故対応研修会を開催する。  
常磐自動車道浪江IC以北が開通する。  
小型水槽付消防ポンプ自動車(CD-1 CAFS付)を1台購入し新地分署に配備(更新)する。

平成27.

- 1 高機能消防指令施設仮運用、南相馬市消防・防災センターにおいて業務を開始する。
- 2 防災システム研究所山村武彦氏を招き、消防職団員を対象とした平成26年度消防関係者防災研修会を南相馬市さくらホールで開催する。  
常磐自動車道南相馬鹿島スマートICが開通となる。
- 3 常磐自動車道浪江ICと常磐富岡IC間が開通し全線開通となる。  
24日に南相馬市消防・防災センター落成式と高機能消防指令施設開通式を、南相馬市と相馬地方広域市町村圏組合の合同で挙げる。
- 4 救急救命士に2人(中里岳文、但野賢哉)が合格し、計35名となる。  
福島県消防防災航空隊に消防士長 佐藤彰洋を派遣する。(平成30年3月31日まで)
- 5 全国消防長会技術委員会が熊本市で開催される。  
避難区域大規模火災対応訓練が檜葉町で開催される。  
福島県防災通信連絡訓練が実施される。  
全国消防長会が浜松市で開催される。
- 6 福島県消防協会浜通り3支部連絡協議会が相馬市「かんのや」で開催され、併せて南相馬市消防防災センター視察を実施される。
- 8 指揮兼広報車プリウスα(ハイブリットカー)3台を購入し、それぞれ本部、相馬消防署、南相馬消防署へ配備する。  
福島県総合防災訓練が雲雀ヶ原祭場をメイン会場として開催される。

**2015**

9 標準報酬制度が導入される。

台風17号、18号襲来により当地方に甚大な被害をもたらすおそれが発生したことから消防長特命大雨特別警戒が発令される。

救急シンポジウムが相馬市「はまなす館」にて開催される。

1.1 元総務大臣 増田寛也氏 公開講座が相馬市民会館で開催される。

福島県消防学校創立60周年記念式典、記念講演会、記念祝賀会が福島市で開催され消防長が出席する。

平成28.

1 小型水槽付消防ポンプ自動車2台（CD-1 CAFS付）と災害救援

**2016**

車を購入し、ポンプ車は小高・飯館両分署に配備、災害救援車を本部に配備する。

南相馬市制10周年記念式典が「ゆめはっと」で開催される。

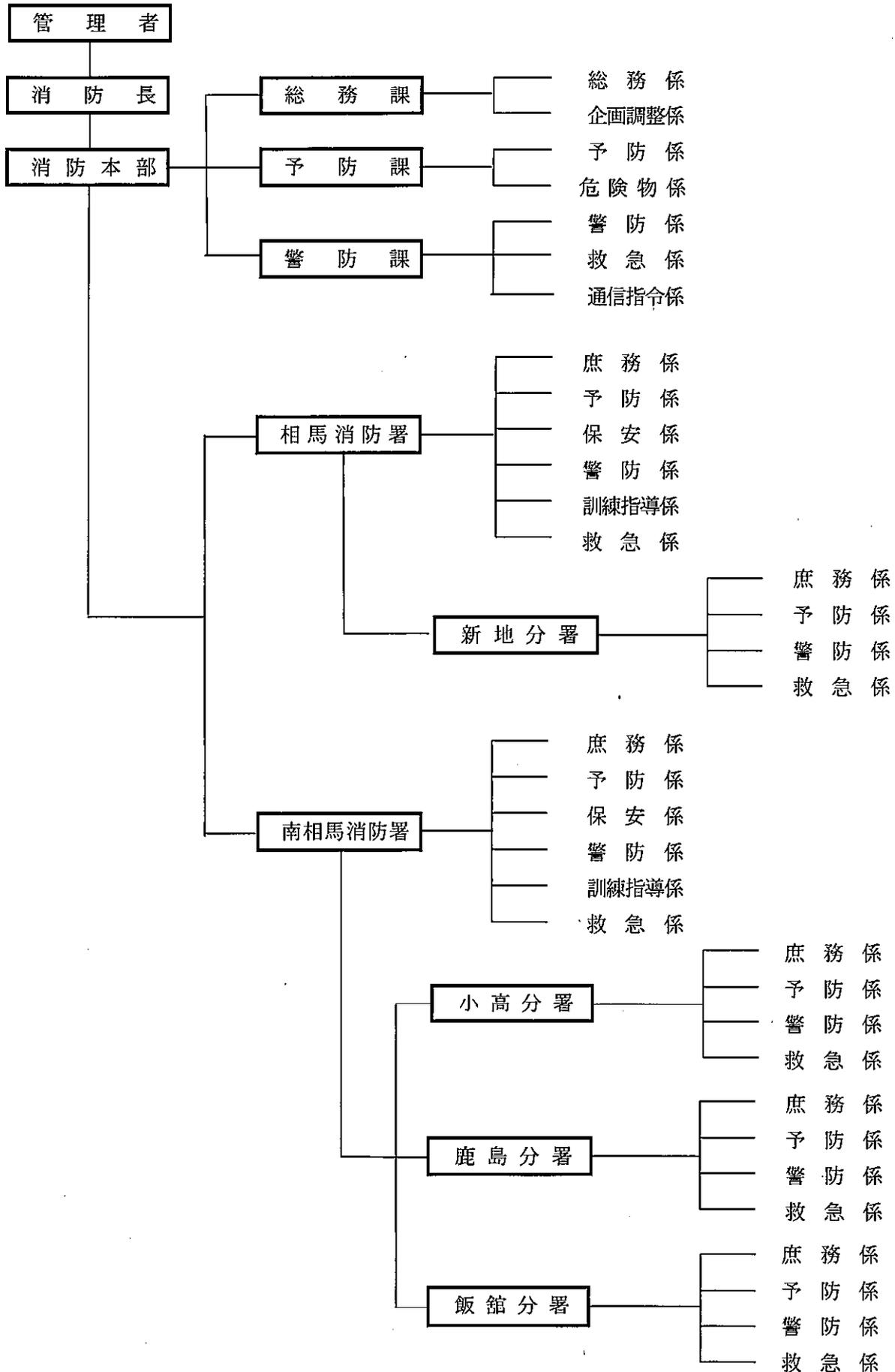
3 当消防本部編集の「東日本震災記録～あの日を忘れない～」が完成し各関係機関へ配布する。

# 相馬地方広域消防歴代管理者・消防長等一覧表

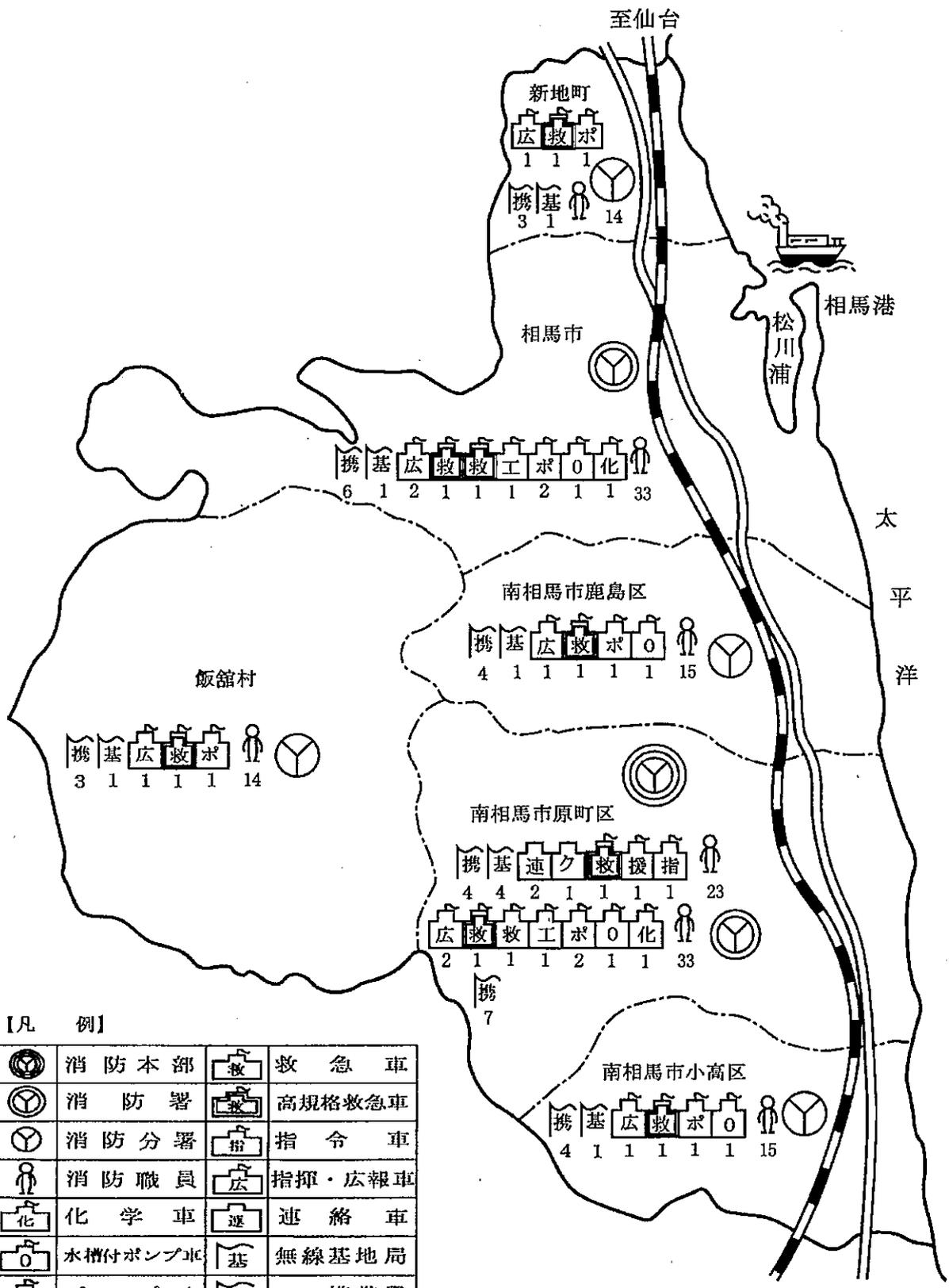
(平成28年4月1日現在)

	管 理 者	消 防 本 部				相馬消防署 署 長	原町消防署 署 長
		消 防 長	次 長	総務課長	消 防 課 長		
昭和47年度	山田 貢 (原町市長)	渡邊 清憲	岸 近			泉 茂	打田 勝喜
昭和48年度		岸 近	打田 勝喜				
昭和49年度	鈴木重郎治 (小高町長)	吉田 嘉基	飯塚 盛男				吉田 信雄
昭和50年度			泉 茂	飯塚 盛男			
昭和51年度	今野 繁 (相馬市長)	吉田 信雄		泉 茂	吉田 信雄	橋 稔	鈴木 一男
昭和52年度			泉 茂	吉田 信雄			
昭和53年度	吉田 信雄	橋 稔	只野 清治	鈴木 一男	只野 清治	佐藤 芳夫	
昭和54年度			鈴木 一男				荒 健二郎
昭和55年度	泉 茂	吉田 信雄	吉田 信雄	佐藤 芳夫	荒 健二郎	鈴木 孝雄	
昭和56年度			佐藤 芳夫				只野 清治
昭和57年度	鈴木 一男	佐藤 芳夫	只野 清治	佐藤 芳夫	鈴木 孝雄		
昭和58年度						佐藤 芳夫	只野 清治
昭和59年度	鈴木 一男	佐藤 芳夫	只野 清治	佐藤 芳夫	鈴木 孝雄		
昭和60年度						佐藤 芳夫	只野 清治
昭和61年度	鈴木 一男	佐藤 芳夫	只野 清治	佐藤 芳夫	鈴木 孝雄		
昭和62年度						佐藤 芳夫	只野 清治
昭和63年度	鈴木 一男	佐藤 芳夫	只野 清治	佐藤 芳夫	鈴木 孝雄		
平成元年度						佐藤 芳夫	只野 清治
平成2年度	門馬 直孝 (原町市長)	佐藤 芳夫	荒 健二郎	林 登喜夫	只野 清治	松田 武久	志賀 勝
平成3年度			只野 清治				
平成4年度	只野 清治	林 登喜夫	佐藤 正三	吉田 博	志賀 勝	吉田 博	本間 健一
平成5年度			吉田 博				
平成6年度	新谷 榮正	林 登喜夫	本間 健一	吉田 博	予 防 課 長	米山 光喜	佐藤 正三
平成7年度			吉田 博				
平成8年度	荒 和英 (新地町長)	佐藤 正三	萩原 勝	吉田 博	高野 政利	木村健次郎	本間 健一
平成9年度			萩原 勝				
平成10年度	鈴木 寛林 (原町市長)	萩原 勝	米山 光喜	渡部 喜一	新妻 智	西内 正雄	渡部 和俊
平成11年度			米山 光喜				
平成12年度	中野 一徳 (鹿島町長)	木村健次郎	森 茂雄	渡部 和俊	森 茂雄	井上 秀雄	西内 正雄
平成13年度			渡部 和俊				
平成14年度	渡部 和俊	井上 秀雄	西内 正雄	菅野 幸一	福島 昭	森 茂雄	小椋 一男
平成15年度			渡部 和俊				
平成16年度	渡部 和俊	井上 秀雄	西内 正雄	菅野 幸一	福島 昭	森 茂雄	小椋 一男
平成17年度			渡部 和俊				
平成18年度	渡辺 一成 (原町市長) ※平成18年1月1日 から南相馬市長	井上 秀雄	西内 正雄	森 茂雄	村井 俊幸	渡部 信行	中塚 章一
平成19年度	森 茂雄						
平成20年度	桜井 勝延 (南相馬市長)	山田 敏	高野 孝一	高野 孝一	只野 正夫	加藤 正人	佐藤 信義
平成21年度			高野 孝一				
平成22年度	草刈 薫	佐藤 久	草刈 薫	菅野 富茂	遠藤 光美	佐々木久人	草刈 薫
平成23年度			佐藤 久				
平成24年度	草刈 薫	佐藤 久	佐藤 久	高倉 健一	小谷津芳秀	佐々木久人	遠藤 吉行
平成25年度			佐藤 久				
平成26年度	小谷津芳秀	小谷津芳秀	菅原照見	菅原照見	菅野忠孝	高倉健一	
平成27年度							小谷津芳秀
平成28年度	小谷津芳秀	小谷津芳秀	菅原照見	菅野忠孝	高倉健一		

# 相馬地方広域消防組織図



# 相馬地方広域消防現勢分布図



## 【凡 例】

	消防本部		救急車
	消防署		高規格救急車
	消防分署		指令車
	消防職員		指揮・広報車
	化学車		連絡車
	水槽付ポンプ車		無線基地局
	ポンプ車		携帯局
	救助工作車		災害救援車
	クレーン付4t車		

## 相馬地方広域市町村圏勢の推移

区 分	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 28 年
面 積(km <sup>2</sup> )	872. <sup>65</sup>				
人 口	117,229	115,817	114,802	114,221	113,494
世 帯 数	41,042	41,077	41,300	41,957	42,153

(注)人口、世帯数は、3月31日現在の数値

## 消 防 予 算 の 推 移

区分 年度別	組合総予算額 (当初) 千円	消防費予算額 (当初) 千円	構 成 比 %	消 防 費	
				1 世帯当り 円	人口 1 人当り 円
24	1,459,270	1,310,688	89.82	31,935	11,181
25	1,636,669	1,493,285	91.23	36,353	12,893
26	1,522,716	1,370,149	89.98	33,176	11,935
27	1,603,798	1,428,423	89.07	34,045	12,506
28	1,850,236	1,654,134	89.40	39,241	14,575

## 消 防 施 設 等 整 備 状 況

※ 1 件百万円以上のもの

(平成 27 年度)

区 分	数量	事業費(千円)	該 当 所 属
小型水槽付消防ポンプ自動車	2	82,512	小高分署、飯館分署
災 害 救 援 車	1	12,852	消防本部
指令車、指揮兼広報車	3	11,016	消防本部、相馬・南相馬消防署
指 揮 兼 広 報 車	3	8,910	小高・鹿島・新地分署
ネットワークサーバー	1	2,160	消防本部
パソコン及びディスプレイ	15	1,620	各所属

※新庁舎に係るものは別に記載。

# 消 防 庁 舎

区 分		所 在 地	敷地面積(m <sup>2</sup> )	延面積(m <sup>2</sup> )	構 造
消 防 本 部		南相馬市原町区高見町一丁目 272	7,561.16	2,792.15	鉄骨造・制震造
		Tel 0244-22-4164 4165 Fax 0244-22-5790			3階建(平成27年建築)
相 馬 消 防 署	本 署	相馬市中野字堂ノ前 371-1	3,292.00	1,336.45	鉄筋コンクリート造
		Tel 0244-36-2181 2182 Fax 0244-35-6474			2階建(平成22年建築)
	新地分署	相馬郡新地町谷地小屋字萩崎 41	233.58	222.65	鉄筋コンクリート造
		Tel 0244-62-2117 2118 Fax 0244-62-5060			2階建(昭和46年建築)
南 相 馬 消 防 署	本 署	消防本部に同じ(南相馬市消防・防災センター内)			鉄骨造・制震造
		Tel 0244-22-2186 2187 Fax 0244-26-0023			3階建(平成27年建築)
	小高分署	南相馬市小高区本町二丁目 78	1,139.92	564.20	鉄筋コンクリート造
		Tel 0244-44-2212 Fax 0244-44-2080			平屋建(平成22年建築)
	鹿島分署	南相馬市鹿島区西町一丁目 2	345.00	424.63	鉄筋コンクリート造
		Tel 0244-46-5118 5119 Fax 0244-46-1500			2階建(昭和43年建築)
	飯館分署	相馬郡飯館村草野字大師堂 14	1,257.40	199.70	鉄骨モルタル造
		Tel 0244-42-0119 0319 Fax 0244-42-1115			平屋建(昭和47年建築)

# 職 員 配 置 状 況

(平成28年4月1日現在)

区 分		階級別	消 防 監	消 防 司 令 長	消 防 司 令	消 防 司 令 補	消 防 士 長	消 防 副 士 長	消 防 士	計
消 防 本 部	消 防 長		1							1
	次 長			1						1
	総 務 課			2	1	1				4
	予 防 課			1	2					3
	警 防 課			1	3	5	4			13
相 馬 消 防 署	本 署			1	4	10	6	7	5	33
	新 地 分 署				4	6	2	2		14
南 相 馬 消 防 署	本 署			1	4	10	5	9	4	33
	小 高 分 署				5	5	2	2	1	15
	鹿 島 分 署				4	5	2	4		15
	飯 館 分 署				4	6	2	1	1	14
計			1	5	32	48	24	25	11	146

# 階 級 別 年 齢 状 況

(平成28年4月1日現在)

階級別 年齢別	消 防 監	消 防 司 令 長	消 防 司 令	消 防 司 令 補	消 防 士 長	消 防 副 士 長	消 防 士	計
18才～20才							1	1
21～25						7	10	17
26～30					8	17		25
31～35				5	16	1		22
36～40				13				13
41～45			4	27				31
46～50			13	3				16
51～55		1	8					9
56才以上	1	4	7					12
計	1	5	32	48	24	25	11	146
平 均	60.0	56.4	51.1	39.9	31.1	26.6	22.0	38.3

# 職 員 市 町 村 別 居 住 状 況

(平成28年4月1日現在)

階級別 市町村別	消 防 監	消 防 司 令 長	消 防 司 令	消 防 司 令 補	消 防 士 長	消 防 副 士 長	消 防 士	計
相 馬 市		2	10	17	12	14	3	58
南 相 馬 市	1	3	15	20	6	10	6	61
原 町 区	1	3	12	13	5	8	4	46
小 高 区			1					1
鹿 島 区			2	7	1	2	2	14
新 地 町			4	4	1		2	11
飯 館 村								
その他	県 内		3	3	1	1		8
	県 外				4	4		8
合 計	1	5	32	48	24	25	11	146

# 階級・勤続年数別職員構成

(平成28年4月1日現在)

階級 勤続年数	消防監	司令長	司令	司令補	士長	副士長	消防士	総数
	1	5	32	48	24	25	11	146
1年未満							3	3
1年							3	3
2年					1	1	4	6
3年						9		9
4年					1	5	1	7
5年					1	3		4
6年					4	1		5
7年					2	6		8
8年					8			8
9年					4			4
10年				1				1
11年				2	2			4
12年				3	1			4
13年				1				1
14年				3				3
15年				1				1
16年				2				2
17年				3				3
18年				4				4
19年				4				4
20年				2				2
21年				1				1
22年				7				7
23年			5	8				13
24年			2	5				7
25年			1	1				2
26年			5					5
27年			3					3
28年			1					1
29年			1					1
30年			3					3
31年			2					2
32年		1	1					2
33年			2					2
34年	1	1						2
35年		1	2					3
36年		1	2					3
37年		1	2					3
38年								
39年								
40年								
41年								

# 年度別職員研修状況

区 分		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
消防大学校等	上級幹部科										
	幹部研修科			1							
	幹部科		2		2			1		1	
	予防科	1		1		1					
	警防科								1		
	救急科										1
	自主防災指導者			1							
	危機管理講習		1		1						
	救急救命士東京研修所	2	2	2	2	2		2	2	2	2
国民保護コース					1						
福島県消防大学校	初任教育	1	4	8	9	7	6	8	9	6	3
	初級幹部科	2	3	3	2	2				1	
	中級幹部科	2	3	3	2				1		1
	上級幹部科	1									
	救急科(救急標準課程)	5	6	4	5	6	6	6	6	6	6
	救命士養成補助教育科								2	2	2
	救命士気管挿管講習	2	3			2					
	火災調査科	2				2		1		2	
	救助課程(科)	2				2		2		2	
	警防科										2
	指揮隊長科								2	2	2
	その他	10	14	10	5	3		8		1	12
自治体研修センター等	係員(1・2部)										
	消防・救急緊急自動車運転技能者課程										1
	管理者研修危機管理コース										1
	法制執務講座		3	1		1					
	職場のメンタルヘルス講座					1					
	ファミリーテーター養成講座					1					
	政策財務講座		2	1							
	ヒューマンパワー講座					1					
	人事評価制度講座										3
	監督者研修										
	メンタルトレーニング実践講座		2	1	1	1					2
	リーダーシップ養成講座		2	2	1						
	問題解決力養成講座	2									
	政策法務研究講座	2									
	住民協働講座	2	2	2	1						
	地方自治法講座		3		1						
	発想力養成講座		3	1							
情報セキュリティ対策基礎							4	2	2		
給与制度講座							4				
エクセル講座							4	2	2		
計	36	55	47	32	33	12	40	27	29	38	

# 職員特殊技能その他の資格取得状況

(平成28年4月1日現在)

区 分		消防監	司令長	司令	司令補	士長	副士長	消防士	計
大型自動車	2種			1	1				2
	1種	1	5	31	47	22	19	1	126
中型自動車	限定なし								
	8t限定					2	2		4
普通自動車							4	11	15
自動2輪車		1	1	14	22	7	8	1	54
大型特殊自動車				7	5	1	1		14
けん引自動車				3	2				5
整備士	2級エンジン								
	3級ディーゼル								
危険物取扱者	甲種		2	1	1				4
	乙種	1	3	19	27	16	10	2	78
	丙種			4	3		1		8
消防設備士	甲種			1	2				3
	乙種			8	5	1			14
予防技術 資格者	防火査察			3	10	6	1		20
	消防用設備			3	3				6
	危険物			1	7	1	2		11
救急救命士		1	3	11	17	1	1	1	35
救急Ⅱ課程・標準課程			1	20	30	22	10		83
救急Ⅰ課程			1	1	1				3
特殊無線技士				13	26	11	19	6	75
アマチュア無線技士				3	1		1		5
電気工事士			1	1	1	1	2		6
ガス溶接			1	12	12	1		1	26
ボイラー技士			1	3	3	1	1	1	10
小型船舶操縦士		1	2	11	15				29
移動式クレーン特別教育		1	5	32	38	19	8		103
玉掛技能		1	5	25	41	19	10		101
クレーン運転士						1	1		2
潜水士			1	4			1		6
発破士免許									
毒・劇物取扱者				1	1				2
建築物応急危険度判定士									

## 消防相互応援協定状況

協 定 機 関	協 定 内 容	協 定 年 月 日
双葉地方広域市町村圏組合	火災救急相互応援	昭和48年4月1日
伊達地方消防組合	火災救急相互応援	昭和48年9月1日
亘理地区行政事務組合	火災救急相互応援	昭和49年1月1日
仙南地域広域行政事務組合	火災救急相互応援	昭和49年6月1日
福島・宮城広域災害時相互応援協定	物資等相互応援	平成8年8月28日
福島地方広域行政圏(17市町村)		
仙南地域広域行政圏(9市町村)		
亘理名取広域行政圏(2市2町)		
相馬地方広域市町村圏組合(6市町村)		
福島・宮城・山形5広域圏災害時相互応援協定	物資等相互応援	平成9年1月16日
福島地方広域行政圏(17市町村)		
仙南地域広域行政圏(9市町村)		
亘理名取広域行政圏(2市2町)		
相馬地方広域市町村圏組合(6市町村)		
置賜広域行政圏(8市町村)		
福島県広域消防相互応援 ----- 県内12市町村圏組合協定	大規模・特殊災害 相互応援	平成10年1月1日
火災原因調査に係る相互応援協定 ----- 県内12市町村圏組合	火災調査	平成12年4月1日
福島市消防本部	救急業務相互応援	平成25年3月7日
亘理地区行政事務組合	常磐自動車道消防相互応援	平成26年6月2日
双葉地方広域市町村圏組合	常磐自動車道消防相互応援	平成26年8月8日





**予 防 統 計**



# 防火対象物の現況

(平成28年3月31日現在)

項 別		種 別	防 火 対 象 物 数			防火管理者を必要とする対象物	
			特定防火 対象物	非特定防火 対象物	計	甲 種	乙 種
1	イ	劇 場 等	5		5	5	
	ロ	公 会 堂 等	52		52	38	7
2	イ	キャバレー等					
	ロ	遊 技 場 等	14		14	13	1
	ハ	性風俗関連特殊営業 を営む店舗等					
	ニ	カラオケボックス等	4		4	4	
3	イ	料 理 店 等	10		10	8	1
	ロ	飲 食 等	37		37	16	18
4		店 舗 等	138		138	103	17
5	イ	旅 館 等	108		108	70	4
	ロ	共 同 住 宅 等		682	682	214	4
6	イ	病 院 等	64		64	31	
	ロ	重度老人福祉施設等	32		32	27	1
	ハ	軽度老人福祉施設等	78		78	41	5
	ニ	幼 稚 園 等	34		34	25	2
7		学 校		178	178	60	
8		図 書 館 等		8	8	5	
9	イ	特 殊 浴 場					
	ロ	イ以外の公衆浴場		1	1	1	
10		停 車 場 等		2	2		
11		神 社 等		46	46	13	6
12	イ	工 場 等		647	647	68	
	ロ	映画スタジオ等					
13	イ	車 庫 等		17	17	1	
	ロ	飛行機格納庫					
14		倉 庫		260	260	14	
15		事 業 所	34	522	556	142	18
16	イ	一部特防(含)	121		121	79	11
	ロ	その他の複合用途		54	54	5	1
17		文 化 財		3	3		
合		計	731	2,420	3,151	983	96

# 防火対象物立入検査状況

(平成27年度)

項 別	種 別		対象物件数		実施件数		警告書 件 数	結 果 通知書 件 数	改 善 件 数
			I 種	Ⅲ種	I 種	Ⅲ種			
1	イ	劇 場 等	5		4			1	1
	ロ	公 会 堂 等	43	9	24	3		11	2
2	イ	キャバレー等							
	ロ	遊 技 場 等	14		8			5	
	ハ	性風俗関連特殊営業 を営む店舗等							
	ニ	カラオケボックス等	4		1			2	
3	イ	料 理 店 等	9	1	2			4	
	ロ	飲 食 等	35	2	12	2		3	
4		店 舗 等	124	14	46	6		23	
5	イ	旅 館 等	93	15	52	8		24	
	ロ	共 同 住 宅 等	366	316	111	59		6	1
6	イ	病 院 等	53	11	19			2	
	ロ	重度老人福祉施設等	30	2	12			4	
	ハ	軽度老人福祉施設等	54	24	27			7	1
	ニ	幼 稚 園 等	28	6	15	1		3	2
7		学 校	148	30	78			13	9
8		図 書 館 等	5	3	1			1	
9	イ	特 殊 浴 場							
	ロ	イ以外の公衆浴場	1		1				
10		停 車 場 等	1	1	1				
11		神 社 等	23	23	9	9		6	
12	イ	工 場 等	398	249	164	66		29	
	ロ	映画スタジオ等							
13	イ	車 庫 等	6	11	2	6		3	
	ロ	飛行機格納庫							
14		倉 庫	138	122	47	17		5	
15		事 業 所	373	183	111	52		20	3
16	イ	一部特防(含)	110	11	27	2		16	3
	ロ	その他の複合用途	35	19	3	4		2	
17		文 化 財		3		2			
合 計			2,096	1,055	777	237		190	22
一 般 家 庭			世帯数	41,957	立入検査実施件数			2,592	

※実施規定 I種査察は年1回以上、Ⅲ種査察は3年に1回以上の実施。

## 甲種防火管理者新規（再）講習実施状況

実施年月日	修了証交付者数	実施年月日	修了証交付者数
昭和49年～昭和57年	1,025	平成16年7月17日	79
昭和58年10月6日	129	平成16年10月17日	40
昭和59年10月5日	110	平成17年7月10日	62
昭和60年10月9日	106	平成17年12月7日	44
昭和61年10月8日	133	平成18年7月12日	83
昭和62年10月8日	112	平成18年12月6日 (再講習)	48
昭和63年10月5日	102	平成19年7月11日	87
平成元年10月5日	107	平成19年12月5日 (再講習)	9
平成2年10月2日	134	平成20年7月10日	85
平成3年10月8日	117	平成20年12月4日 (再講習)	8
平成4年10月7日	110	平成21年7月9日	82
平成5年10月7日	90	平成21年12月3日 (再講習)	4
平成6年10月7日	94	平成22年12月2日 (再講習)	14
平成7年10月5日	127	平成22年7月9日	86
平成8年10月17日	94	平成23年10月6日	55
平成9年10月16日	110	平成23年12月2日 (再講習)	21
平成10年10月8日	107	平成24年7月12日	69
平成11年10月7日	93	平成24年12月5日 (再講習)	19
平成12年10月12日	86	平成25年7月5日	75
平成13年7月8日	95	平成25年12月5日 (再講習)	12
平成13年10月3日	126	平成26年7月3日	88
平成14年7月14日	90	平成26年12月4日 (再講習)	11
平成14年10月4日	66	平成27年7月10日	86
平成15年7月13日	89	平成27年12月3日 (再講習)	28
平成15年10月17日	73	合 計	4,720

# 防火管理者の選任及び消防計画の届出状況

(平成28年3月31日現在)

項 別			防 火 管 理 者			消 防 計 画		
			選任を必要とする対象物数	選任済対象物数	選任の割合(%)	届出を必要とする対象物数	届出済対象物数	届出の割合(%)
1	イ	劇場等	5	5	100	5	5	100
	ロ	公会堂等	45	42	93	45	42	93
2	イ	キャバレー等						
	ロ	遊技場等	14	12	86	14	14	100
	ハ	性風俗関連特殊営業を営む店舗等						
	ニ	カラオケボックス等	4	3	75	4	3	75
3	イ	料理店等	9	9	100	9	9	100
	ロ	飲食等	34	29	85	34	29	85
4		店舗等	120	108	90	120	112	93
5	イ	旅館等	74	73	99	74	73	99
	ロ	共同住宅等	218	213	98	218	212	97
6	イ	病院等	31	30	97	31	31	100
	ロ	重度老人福祉施設等	28	27	96	28	27	96
	ハ	軽度老人福祉施設等	46	43	93	46	44	96
	ニ	幼稚園等	27	27	100	27	27	100
7		学 校	60	60	100	60	59	98
8		図書館等	5	5	100	5	5	100
9	イ	特殊浴場						
	ロ	イ以外の公衆浴場	1	1	100	1	1	100
10		停車場等						
11		神社等	19	16	84	19	16	84
12	イ	工場等	68	68	100	68	67	99
	ロ	映画スタジオ等						
13	イ	車庫等	1	1	100	1	1	100
	ロ	飛行機格納庫						
14		倉庫	14	14	100	14	14	100
15		事業所	160	137	86	160	134	84
16	イ	一部特防(含)	90	84	93	90	82	91
	ロ	その他の複合用途	6	6	100	6	6	100
17		文化財						
合 計			1,079	1,013	94	1,079	1,013	94

# 防火対象物定期点検報告制度実務状況

(平成28年3月31日現在)

種 別			点検を要する 防火対象物数		点検報告件数		認定件数	
			第1号該当	第2号該当	第1号該当	第2号該当	第1号該当	第2号該当
1	イ	劇 場 等	4		1		1	
	ロ	公 会 堂 等	28		17		7	
2	イ	キャバレー等						
	ロ	遊 技 場 等	7		4		1	
	ハ	性風俗関連特殊営業 を営む店舗等						
	ニ	カラオケボックス等						
3	イ	料 理 店 等						
	ロ	飲 食 等						
4		店 舗 等	30		20		4	
5	イ	旅 館 等	2	7		2	2	5
	ロ	共 同 住 宅 等						
6	イ	病 院 等	8	2	2	1	2	1
	ロ	重度老人福祉施設等						
	ハ	軽度老人福祉施設等	1					
	ニ	幼 稚 園 等	1				1	
7		学 校						
8		図 書 館 等						
9	イ	特 殊 浴 場						
	ロ	イ以外の公衆浴場						
10		停 車 場 等						
11		神 社 等						
12	イ	工 場 等						
	ロ	映画スタジオ等						
13	イ	車 庫 等						
	ロ	飛行機格納庫						
14		倉 庫						
15		事 業 所						
16	イ	一部特防(含)	7	2	2		5	
	ロ	その他の複合用途						
17		文 化 財						
合 計			88	11	46	3	23	6

# 防 火 対 象 物 階 層 別 調

(平成28年3月31日現在)

種 別			1階	2階	3階	4階	5階	6階	7階	8階	9階	10階	11階以上	計
1	イ	劇 場 等	2	2		1								5
	ロ	公 会 堂 等	30	18	2	2								52
2	イ	キャバレー等												
	ロ	遊 技 場 等	9	5										14
	ハ	性風俗関連特殊営業 を営む店舗等												
	ニ	カラオケボックス等	1	3										4
3	イ	料 理 店 等	1	7	2									10
	ロ	飲 食 等	15	21	1									37
4		店 舗 等	100	36	1	1								138
5	イ	旅 館 等	25	58	4	8	6	4	1	1		1		108
	ロ	共 同 住 宅 等	89	422	111	29	30	1						682
6	イ	病 院 等	10	34	8	6	2	3	1					64
	ロ	重度老人福祉施設等	20	5	5	1	1							32
	ハ	軽度老人福祉施設等	47	31										78
	ニ	幼 稚 園 等	25	9										34
7		学 校	73	63	38	4								178
8		図 書 館 等	3	3	1	1								8
9	イ	特 殊 浴 場												
	ロ	イ以外の公衆浴場	1											1
10		停 車 場 等	2											2
11		神 社 等	28	18										46
12	イ	工 場 等	409	206	22	9	1							647
	ロ	映画スタジオ等												
13	イ	車 庫 等	16	1										17
	ロ	飛行機格納庫												
14		倉 庫	182	73	4	1								260
15		事 業 所	233	254	44	13	5	4	2		1			556
16	イ	一部特防(含)	13	66	32	5	2	1	1	1				121
	ロ	その他の複合用途	10	35	5	2			1		1			54
17		文 化 財	3											3
合 計			1,347	1,370	280	83	47	13	6	2	2	1		3,151

## 市町村別建築同意処理状況

(平成27年度)

市区町村別		工事種別						計
		新築	増築	改築	その他	移転	用途変更	
南相馬市	原町区	245	69	0	0	0	5	319
	小高区	25	24	0	0	0	0	49
	鹿島区	153	24	0	0	1	0	178
	計	423	117	0	0	1	5	546
相馬市		274	58	1	1	0	4	338
新地町		60	1	0	0	0	0	61
飯館村		4	1	0	2	0	0	7
合計		761	177	1	3	1	9	952

## 年度別建築同意処理状況

年度別	種別				計
	専用住宅	併用住宅	特殊建築物	その他	
平成23年度	42	2	157	62	263
平成24年度	103	4	282	197	586
平成25年度	142	22	254	150	568
平成26年度	190	5	219	100	514
平成27年度	147	3	368	434	952

# 用途別建築同意処理状況

(平成27年度)

項 別		工事種別	新 築	増 築	改 築	その他	移 転	用途変更	計
1	イ	劇 場 等							
	ロ	公 会 堂 等	11	1					12
2	イ	キャバレー等							
	ロ	遊 技 場 等		1					1
	ハ	性風俗関連特殊営業 を営む店舗等							
	ニ	カラオケボックス等							
3	イ	料 理 店 等							
	ロ	飲 食 等	2						2
4		店 舗 等	10	1					11
5	イ	旅 館 等	20				1	2	23
	ロ	共 同 住 宅 等	82						82
6	イ	病 院 等	1						1
	ロ	重度老人福祉施設等	2						2
	ハ	軽度老人福祉施設等	3	2				1	6
	ニ	幼 稚 園 等	1						1
7		学 校		6		1			7
8		図 書 館 等							
9	イ	特 殊 浴 場							
	ロ	イ以外の公衆浴場	1	1					2
10		停 車 場 等	1						1
11		神 社 等	5						5
12	イ	工 場 等	19	7		2			28
	ロ	映画スタジオ等							
13	イ	車 庫 等							
	ロ	飛行機格納庫							
14		倉 庫	18						18
15		事 業 所	80	4					84
16	イ	一部特防(含)	1					1	2
	ロ	その他の複合用途	3						3
17		文 化 財							
合 計			260	23		3	1	4	291

# 消防用設備等の着工・設置届出件数

(平成27年度)

種 別  項 別			相 馬 消 防 署				南 相 馬 消 防 署							
			本 署		新地分署		本 署		小高分署		鹿島分署		飯舘分署	
			着工届	設置届	着工届	設置届	着工届	設置届	着工届	設置届	着工届	設置届	着工届	設置届
1	イ	劇 場 等					1				3			
	ロ	公 会 堂 等						1	1	2	5			
2	イ	キャバレー等					2							
	ロ	遊 技 場 等	2	5			4							
	ハ	性風俗関連特殊営業 を営む店舗等												
	ニ	カラオケボックス等												
3	イ	料 理 店 等												
	ロ	飲 食 等	2	1										
4		店 舗 等	1	7		1		1			1	3		
5	イ	旅 館 等	3	4			1	14	2	5	13	6		
	ロ	共 同 住 宅 等	8	32	1	6	8	17		2	5	44		
6	イ	病 院 等	4	6		1	48	215			1	1		
	ロ	重度老人福祉施設等					7	18			4	7		
	ハ	軽度老人福祉施設等	3	5								1		
	ニ	幼 稚 園 等					1							
7		学 校	1	1			1		1	1				
8		図 書 館 等					9	35						
9	イ	特 殊 浴 場					1	1						
	ロ	イ以外の公衆浴場	2	4										
10		停 車 場 等					1	4						
11		神 社 等		1			1					2		
12	イ	工 場 等	9	14	3	4	5	23	5	9		11	5	20
	ロ	映画スタジオ等												
13	イ	車 庫 等						6						
	ロ	飛行機格納庫						1						
14		倉 庫	1	12			4	35		13		1	1	21
15		事 業 所	13	25		20	7	65		8	1	4	2	37
16	イ	一部特防(含)	2	4		2		5			1	3	1	
	ロ	その他の複合用途		3			1	2						
17		文 化 財	3	4										
合 計			54	128	4	34	93	451	8	40	28	86	10	83

# 火災予防条例に基づく届出件数

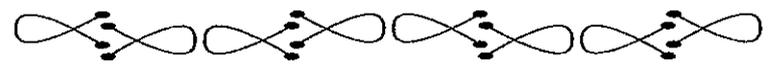
(平成27年度)

署別 届出別		相馬消防署		南相馬消防署			計	
		本署	新地分署	本署	小高分署	鹿島分署		飯館分署
圧縮アセチレンガス			1				1	2
液化石油ガス		30	5	52		24		111
防火管理	防火対象物使用開始届	61	12	145	14	37	41	310
	消防計画書	83	26	114	6	33	5	267
電気・火気使用等	熱風炉・かまど・ボイラー	9		9			2	20
	乾燥設備・火花を生じる機械設備			1		5	1	
	変電・発電・蓄電池設備	24	6	57	7	9	16	119
	ネオン管灯設備							
	水素ガスを充填する気球							
各種届出等	火災とまぎらわしい行為の届出	277	7	31	5	4	3	327
	煙火打上	43	17	18	5	14		97
	催物開催	1	3	3				7
	水道断水・減水	2		1				3
	道路工事	103	23	87	34	41	46	334
危険物等	少量危険物	16	3	25	3	11	9	67
	指定可燃物	3		8		2	5	18
	毒物・劇物							
合計		652	103	551	74	180	129	1,682





# 危險物統計



# 市町村別危険物施設数

(平成28年3月31日現在)

施設別 市区町村別		製 造 所	貯 蔵 所							取 扱 所					合 計	
			屋 内 貯 蔵 所	屋 外 タ ン ク 貯 蔵 所	屋 内 タ ン ク 貯 蔵 所	地 下 タ ン ク 貯 蔵 所	簡 易 タ ン ク 貯 蔵 所	移 動 タ ン ク 貯 蔵 所	屋 外 貯 蔵 所	小 計	給 油 取 扱 所	第 一 種 販 売 取 扱 所	第 二 種 販 売 取 扱 所	一 般 取 扱 所		小 計
相	馬 市	4	24	65	2	42		54	11	198	25			59	84	286
南 相 馬 市	原町区	7	33	37	2	45	1	32	6	156	37			43	80	243
	小高区		6	15		14		9		44	5			18	23	67
	鹿島区		7	3		10		15	1	36	14			10	24	60
	計	7	46	55	2	69	1	56	7	236	56			71	127	370
新	地 町		6	10		9		9		34	5			12	17	51
飯	館 村			6		4		7	1	18	6			10	16	34
合	計	11	76	136	4	124	1	126	19	486	92			152	244	741

※ 特定屋外タンク貯蔵所

- ① 相馬共同火力発電所  
重油 20,003Kℓ 2基
- ② 東北電力原町火力発電所  
軽油 2,980Kℓ 2基

## 数量別危険物施設数

(平成28年3月31日現在)

数量別 施設別	製造所	貯蔵所								取扱所				合計	
		屋内貯蔵所	屋外タンク貯蔵所	屋内タンク貯蔵所	地下タンク貯蔵所	簡易タンク貯蔵所	移動タンク貯蔵所	屋外貯蔵所	小計	給油取扱所	第一種販売取扱所	第二種販売取扱所	一般取扱所		小計
5倍以下		40	17	1	74	1	107	2	242	4			56	60	302
5～10以下		13	15	2	24		4	4	62	1			28	29	91
10～50	2	17	55	1	21		4	8	106	29			44	73	181
50～100	5	3	8		3		11		25	12			7	19	49
100～150		2	5		1				8	11			3	14	22
150～200		1	1					5	7	16				16	23
200～1,000	1		12		1				13	19			1	20	34
1,000～5,000			15						15				6	6	21
5,000～10,000									0				6	6	6
10,000倍を超えるもの	3		8						8				1	1	12
合計	11	76	136	4	124	1	126	19	486	92	0	0	152	244	741

# 類別危険物施設数

(平成28年3月31日現在)

種類	施設別	製造所	貯蔵							取扱					合計	
			屋内貯蔵所	屋外タンク貯蔵所	屋内タンク貯蔵所	地下タンク貯蔵所	簡易タンク貯蔵所	移動タンク貯蔵所	屋外貯蔵所	小計	給油取扱所	第一種販売取扱所	第二種販売取扱所	一般取扱所		小計
単独	第一類									0					0	0
	第二類	1	2	1						3				1	1	5
	第三類	3		20						20				10	10	33
	第四類	3	65	112	4	124	1	126	19	451	92			128	220	674
	第五類		3	1						4				1	1	5
	第六類			2						2				4	4	6
混在		4	6						6				8	8	18	
合計		11	76	136	4	124	1	126	19	486	92	0	0	152	244	741

施設別許可・完成検査・廃止届件数

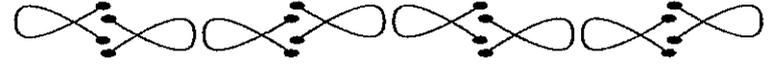
(平成28年3月31日現在)

数量別	施設別	製造所	貯蔵所							取扱所					合計	
			屋内貯蔵所	屋外タンク貯蔵所	屋内タンク貯蔵所	地下タンク貯蔵所	簡易タンク貯蔵所	移動タンク貯蔵所	屋外貯蔵所	小計	給油取扱所	第一種販売取扱所	第二種販売取扱所	一般取扱所		小計
許可	設置		5	13	1	4		11		34	4			10	14	48
	変更	8	2	3		4		8		17	10			13	23	48
完成検査	設置		3	6	1	2		10	1	23	3			6	9	32
	変更	8	2	2		4		10		18	13			13	26	52
廃止届		3	11	11		5		8	4	39	3			13	16	58





**火 災 統 計**

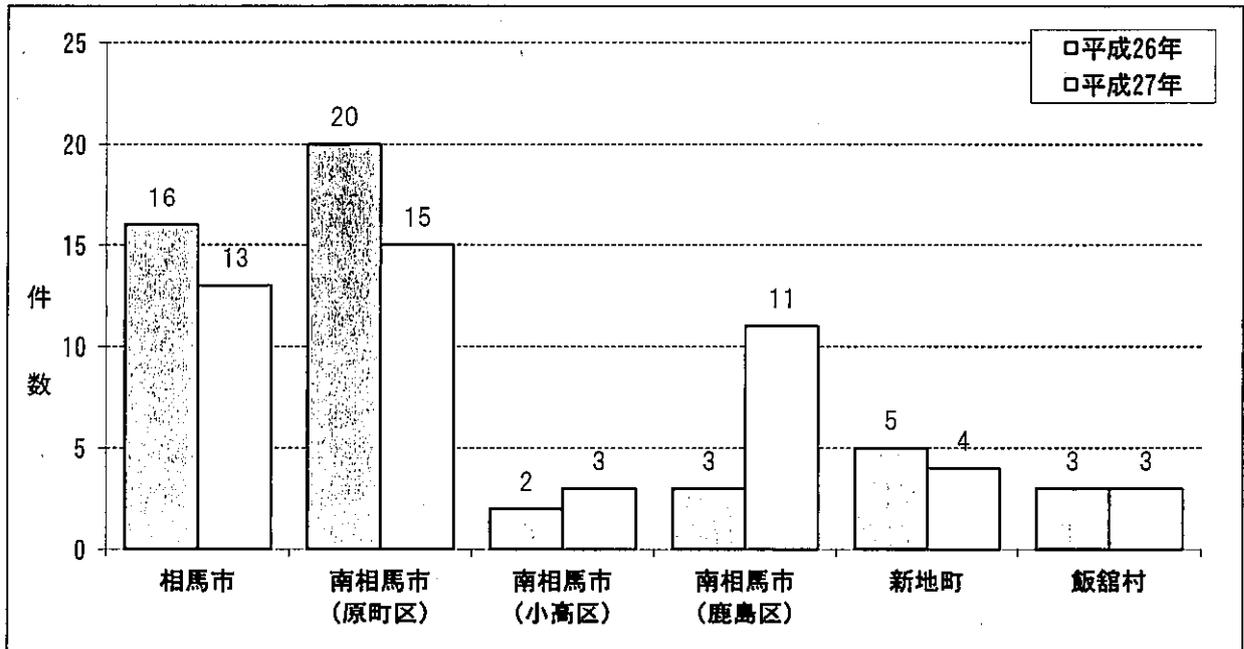


# 火災発生状況

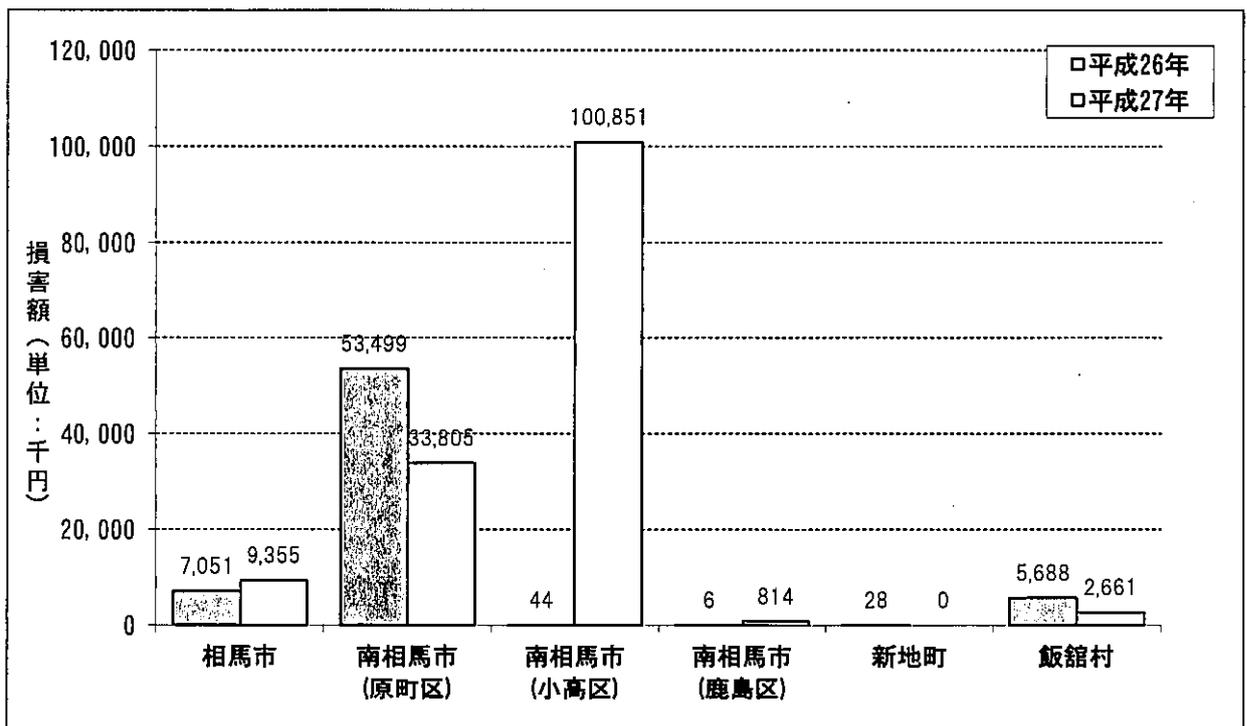
(平成27年)

1	火災件数	49	件
2	損害額	147,486	千円
3	建物焼失床面積	1,818	m <sup>2</sup>
4	林野焼失面積	81	a
5	焼死者	3	名
6	負(火)傷者	6	名

市町村別発生件数



市町村別損害額



# 市 町 村 別 火 災 発 生 状 況

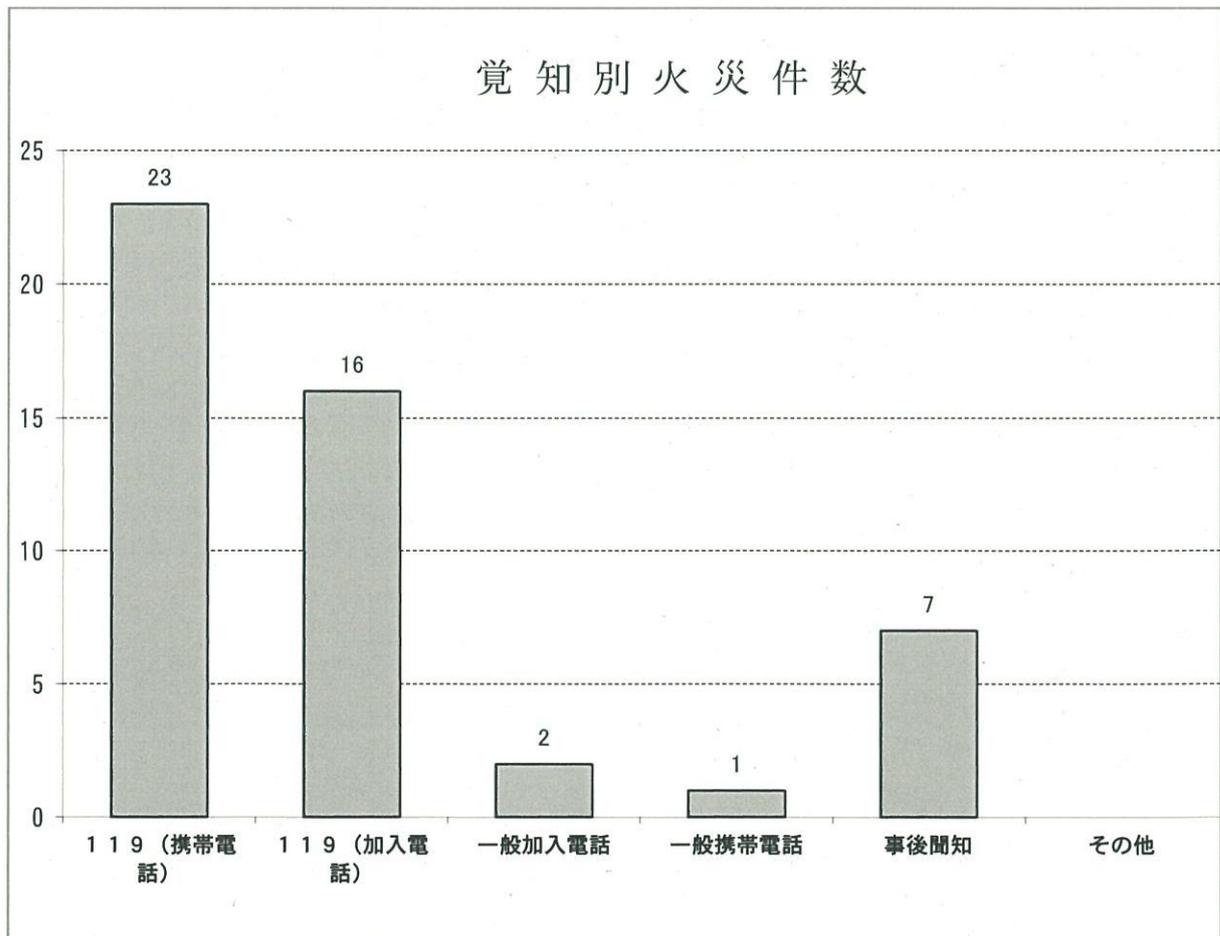
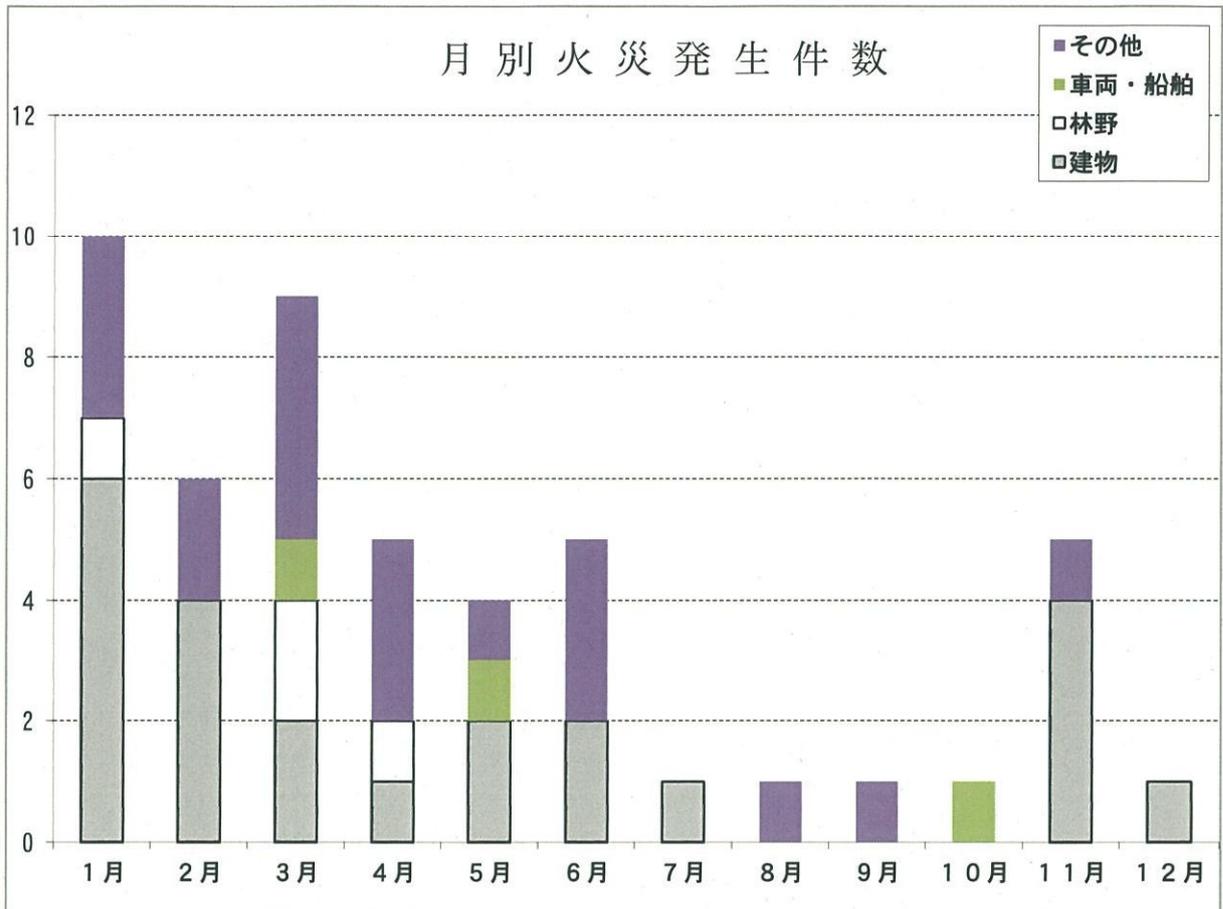
(平成27年)

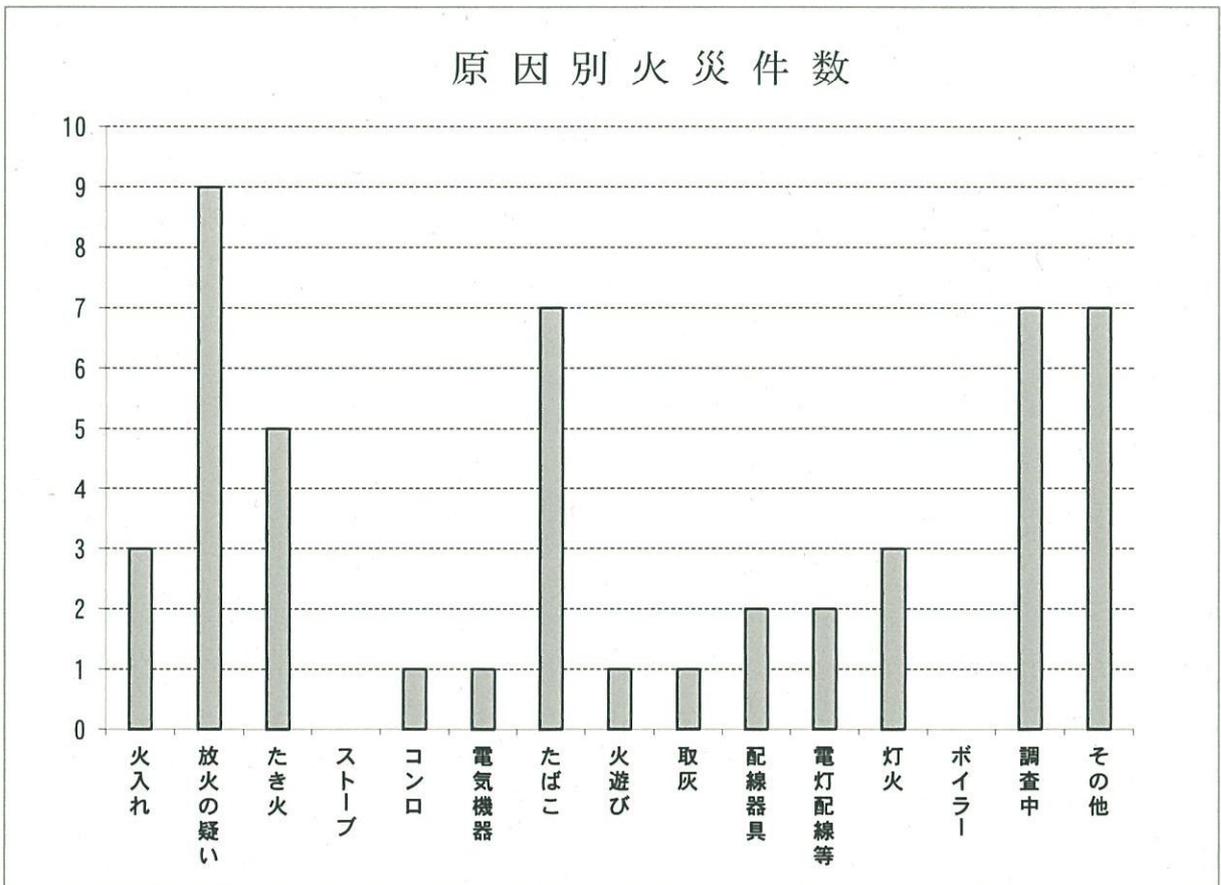
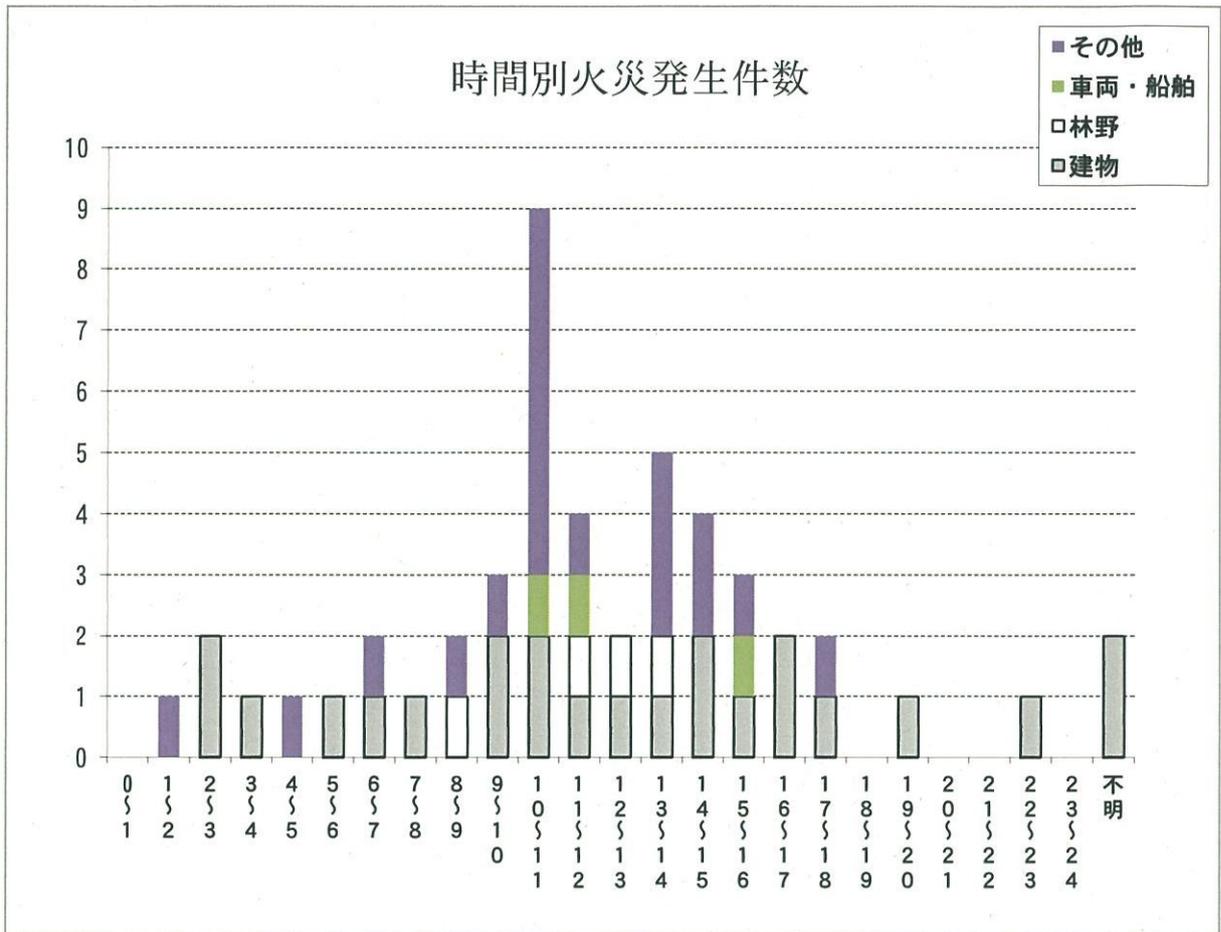
市町村別		相馬市	(南相馬市) 原町区	(南相馬市) 小高区	(南相馬市) 鹿島区	新地町	飯館村	計	
種 別	発 生 件 数	13	15	3	11	4	3	49	
火 災 種 別	建 物 火 災	5	10	1	5	1	1	23	
	林 野 火 災	2	1		1			4	
	車 両 火 災	1	1		1			3	
	船 舶 火 災							0	
	その他の火災	5	3	2	4	3	2	19	
焼 損 棟 数	火 元 棟	全 焼	1	5			1	7	
		半 焼	2					2	
		部 分 焼		3		2			5
		ぼ や		2	1	3	1		7
	類 焼 棟	全 焼	2	2					4
		半 焼	1						1
		部 分 焼		4					4
		ぼ や	1	1		1			3
り 災 世 帯	全 損	1	8				1	10	
	半 損	1						1	
	小 損		6			1		7	
	り 災 人 員	6	28			2	3	39	
死 傷 者	死 者		3					3	
	負 傷 者	1	3		2			6	
焼 失 面 積	建 物	床面積(m <sup>2</sup> )	378	1,229		6	205	1,818	
		表面積(m <sup>2</sup> )	12	4		3		19	
	林 野 (a)	51	2		27	1		81	
火 災 損 害 額 (単位/千円)	建 物	5,496	20,469		228		2,379	28,572	
	内 容 物	1,871	11,556	851	511		282	15,071	
	林 野							0	
	車 両							0	
	船 舶							0	
	そ の 他	1,988	1,780	100,000	75			103,843	
	計	9,355	33,805	100,851	814	0	2,661	147,486	

# 月 別 火 災 発 生 状 況

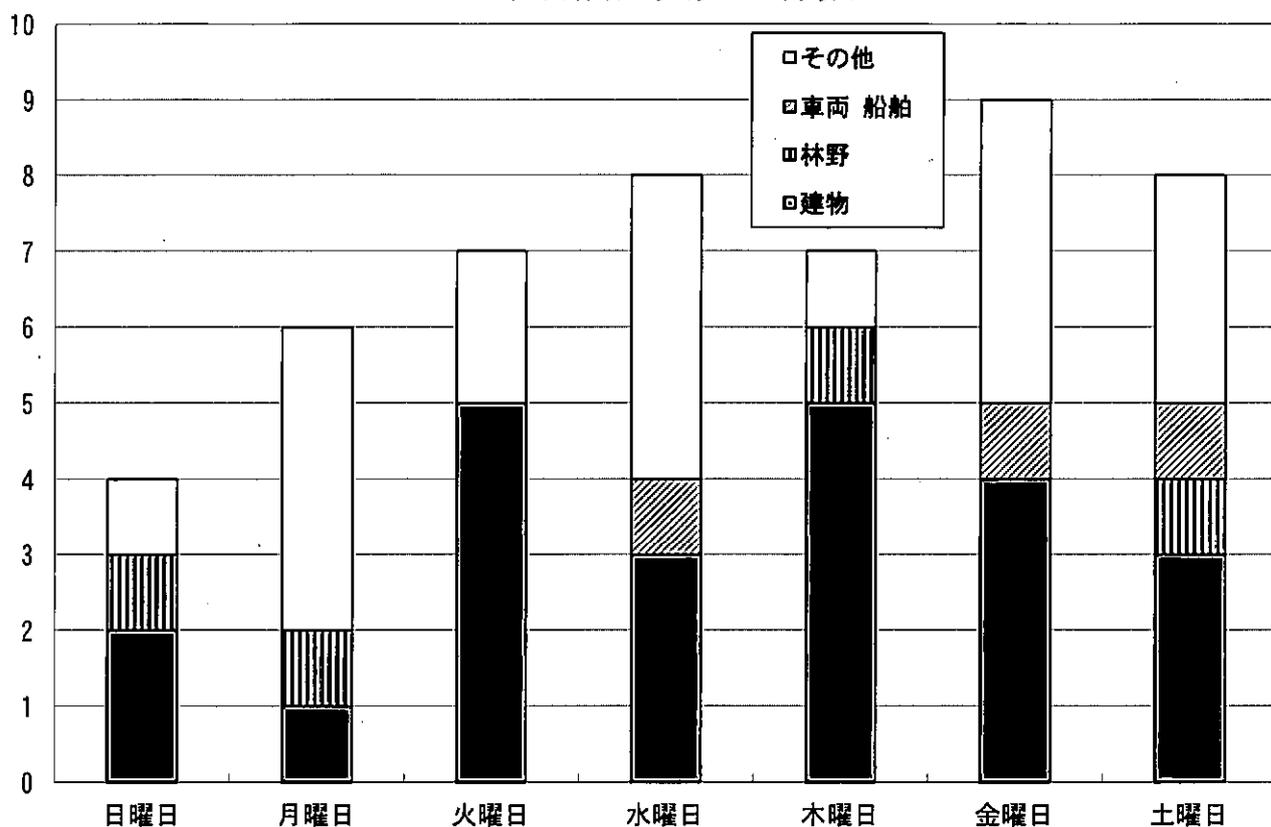
(平成27年)

月 別		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
種 別		月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	
<b>発 生 件 数</b>		10	6	9	5	4	5	1	1	1	1	5	1	49
火 災 種 別	建 物 火 災	6	4	2	1	2	2	1				4	1	23
	林 野 火 災	1		2	1									4
	車 両 火 災			1		1					1			3
	船 舶 火 災													0
	その他の火災	3	2	4	3	1	3		1	1		1		19
焼 損 棟 数	火 元	全 焼	2		1		1	1				2		7
		半 焼		1			1							2
	棟 類	部 分 焼	1	2		1		1						5
		ぼ や	3	1	1		1						1	7
	棟 焼 類	全 焼			2								2	4
		半 焼			1									1
		部 分 焼						2	2					4
		ぼ や				1	1		1					3
り 災 世 帯	全 損	2		1				1				6	10	
	半 損					1							1	
	小 損	3					1	3					7	
	り 災 人 員	12		4		2	2	8				11	39	
死 傷 者	死 者	1						1				1	3	
	負 傷 者	1	1	1								2	1	6
焼 失 面 積	建 物	床面積 (m <sup>2</sup> )	302	6	350		28	396	70			666		1,818
		表面積 (m <sup>2</sup> )		16		3								19
	林 野 (a)	1		51	2	27								81
火 災 損 害 額 (単 位 / 千 円)	建 物	3,956	351	4,750	11	642	3,517	5,132				10,213		28,572
	内 容 物	666	511	2,235		487	2,535	435				8,202		15,071
	林 野													0
	車 両													0
	船 舶													0
	そ の 他		258	1,988		75	155	119		100,000	854	394		103,843
	計	4,622	1,120	8,973	11	1,204	6,207	5,686	0	100,000	854	18,809	0	147,486





曜日別火災発生件数



過去5年間の火災発生状況

年別 区分	平成27年	平成26年	平成25年	平成24年	平成23年
火災件数	49	49	65	39	66
人口	113,494	112,124	114,802	115,817	117,229
出火率 (人口1万人当り)	4.4	4.4	5.7	3.4	5.6
損害額(千円)	147,486	66,316	254,877	34,027	117,636
火災一件当りの 損害額(千円)	3,010	1,353	3,921	872	1,782
建物火災一件当り の焼損床面積(m <sup>2</sup> )	37	46	232	67	89
建物火災一件当り の損害額(千円)	583	2,239	12,037	1,968	2,896
林野火災一件当り の焼損面積(a)	1.1	0	15	0	148.6
林野火災一件当り 損害額(千円)	0	0	0	0	0

# 消防車両の配置状況

(平成28年4月1日)

区分 所属	No.	車 両 名	登 録 番 号	メーカ	年式	ポンプ	登 録 年 月 日	経 過 年 数	備 考		
本 部	1	指 令 車	800 す 3766	トヨタ	19		19. 8. 31	8			
	2	指 揮 車	800 す 9926	トヨタ	27		27. 8. 21	0			
	3	災 害 救 援 車	800 せ 175	トヨタ	28		28. 1. 15	0			
	4	連 絡 車	580 め 1816	ダイハツ	26		26. 7. 3	1			
	5	クレーン付4tトラック	100 す 7832	いすゞ	20		23. 7. 26	4	㈱タダノより寄贈		
	6	高規格救急自動車(予備車)	800 す 6395	いすゞ	13		23. 6. 7	4	全国消防長会寄贈		
相 馬 消 防 署	本 署	7	化学消防ポンプ自動車	800 は 91	ニッサン	12	日本ドライ	12. 9. 20	15	日本損害保険協会寄贈	
		8	水槽付消防ポンプ自動車	800 は 467	日 野	17	森 田	17. 12. 12	10	水槽2,000ℓ、CAFS	
		9	消 防 ポンプ自動車	88 す 7509	三 菱	8	NIKKI	8. 11. 29	19		
		10	消 防 ポンプ自動車	800 す 8005	日 野	25	ネイチャー	25. 2. 27	3		
		11	高規格救急自動車	800 す 7233	ニッサン	24		24. 5. 14	3		
		12	高規格救急自動車	800 す 7047	トヨタ	24		24. 3. 7	4	JA共済連福島寄贈	
		13	指 揮 兼 広 報 車	800 す 9924	トヨタ	27		27. 9. 4	0		
		14	査 察 兼 広 報 車	800 す 9446	トヨタ	26		26. 10. 14	1		
		15	救 助 工 作 車	800 は 788	日 野	23		23. 6. 6	4		
	新 地 分 署	16	小型水槽付消防ポンプ自動車	800 す 9590	日 野	26	森 田	26. 12. 16	1	水槽600ℓ、CAFS	
		17	高規格救急自動車	800 す 6158	トヨタ	22		23. 1. 14	5		
		18	指 揮 兼 広 報 車	800 す 9954	トヨタ	27		27. 9. 4	0		
	南 相 馬 消 防 署	本 署	19	化学消防ポンプ自動車	88 や 4043	三 菱	5	森 田	5. 9. 28	22	
			20	水槽付消防ポンプ自動車	800 は 614	日 野	20	日本ドライ	20. 1. 30	8	水槽2,000ℓ
			21	消 防 ポンプ自動車	800 す 5502	日 野	22	日本ドライ	22. 1. 22	6	
			22	消 防 ポンプ自動車	88 す 8964	三 菱	9	森 田	9. 10. 9	19	
			23	高規格救急自動車	800 す 5739	ニッサン	22		22. 5. 19	5	
			24	救 急 自 動 車	800 さ 7953	トヨタ	14		14. 8. 29	13	
25			指 揮 兼 広 報 車	800 す 9925	トヨタ	27		27. 8. 21	0		
26			査 察 兼 広 報 車	800 す 9445	トヨタ	26		26. 10. 14	1		
27			救 助 工 作 車	800 は 453	日 野	17		17. 10. 17	10		
小 高 分 署		28	水槽付消防ポンプ自動車	88 す 4585	いすゞ	6	森 田	6. 10. 7	21	水槽2,000ℓ	
		29	小型水槽付消防ポンプ自動車	800 せ 184	日 野	28	森 田	28. 1. 28	0	水槽600ℓ、CAFS	
		30	高規格救急自動車	800 す 3121	トヨタ	18		18. 11. 17	9		
		31	指 揮 兼 広 報 車	800 す 9952	トヨタ	27		27. 9. 4	0		
鹿 島 分 署		32	水槽付消防ポンプ自動車	88 す 5793	日 野	7	森 田	7. 10. 4	20	水槽2,000ℓ	
		33	消 防 ポンプ自動車	88 す 8963	三 菱	9	森 田	9. 10. 9	18		
	34	高規格救急自動車	800 す 4792	トヨタ	20		20. 12. 16	7			
	35	指 揮 兼 広 報 車	800 す 9953	トヨタ	27		27. 9. 4	0			
	飯 館 分 署	36	小型水槽付消防ポンプ自動車	88 せ 185	日 野	28	森 田	28. 1. 28	0	水槽600ℓ、CAFS	
		37	高規格救急自動車	800 す 763	トヨタ	16		16. 10. 25	11		
		38	指 揮 兼 広 報 車	800 さ 9444	トヨタ	26		26. 10. 10	1		



**警 防 統 計**



# 消 防 活 動 状 況 (1)

(平成27年)

種 別		署分署別		南 相 馬 消 防 署				合 計
		相 馬 消 防 署	新 地 分 署	本 署	小 高 分 署	鹿 島 分 署	飯 館 分 署	
建 物 火 災	件 数	6	1	15	1	10	1	34
	延 人 員 数	77	11	181	9	38	14	330
	車 両 延 台 数	26	4	55	3	12	5	105
	活 動 延 時 間	13:22	1:45	28:19	2:49	20:08	2:25	68:48
林 野 火 災	件 数	5		3		3		11
	延 人 員 数	41		21		10		72
	車 両 延 台 数	13		6		3		22
	活 動 延 時 間	6:59		2:36		4:01		13:36
車 両 火 災	件 数	1		2		1		4
	延 人 員 数	11		18		10		39
	車 両 延 台 数	4		6		3		13
	活 動 延 時 間	1:50		4:50		3:56		10:36
船 舶 火 災	件 数							
	延 人 員 数							
	車 両 延 台 数							
	活 動 延 時 間							
そ の 他 の 火 災	件 数	14	3	9	2	9	2	39
	延 人 員 数	111	22	56	15	35	40	279
	車 両 延 台 数	28	12	17	6	14	13	90
	活 動 延 時 間	16:05	4:42	18:16	5:10	11:47	2:39	58:39
怪 偵 察 出 動	件 数	6	5	8		2	1	22
	延 人 員 数	34	17	52		8	1	112
	車 両 延 台 数	12	5	17		3	1	38
	活 動 延 時 間	3:45	2:51	4:48		0:53	0:27	12:44
風 水 害 等	件 数	19	3	4				26
	延 人 員 数	54	71	11				136
	車 両 延 台 数	20	28	4				52
	活 動 延 時 間	28:08	38:04	5:58				72:10
演 習 訓 練	件 数	339	26	510		117	208	1200
	延 人 員 数	2350	124	3267		493	805	7039
	車 両 延 台 数	188	35	301		74	78	676
	活 動 延 時 間	393:50	30:39	414:43		128:40	167:53	1135:45
練 指 導	件 数	141	47	154	12	70	5	429
	延 人 員 数	242	313	395	77	255	15	1297
	車 両 延 台 数	91	94	149	26	110	8	478
	活 動 延 時 間	99:50	72:10	126:10	10:35	55:30	6:30	370:45

# 消 防 活 動 状 況 (2)

(平成27年)

種 別		相 馬 消 防 署		南 相 馬 消 防 署				合 計
		本 署	新地分署	本 署	小高分署	鹿島分署	飯館分署	
広 報	件 数	14	7	59	93	15	51	239
	延 人 員 数	37	16	118	238	15	149	573
	車 両 延 台 数	14	10	65	128	15	82	314
	活 動 延 時 間	16:25	7:15	58:40	98:10	15:00	75:00	270:30
警 防 調 査	件 数	95	15	63	78	23	157	431
	延 人 員 数	295	45	204	311	111	540	1506
	車 両 延 台 数	99	24	81	140	48	262	654
	活 動 延 時 間	134:55	17:00	72:45	121:39	28:40	280:55	655:54
特 別 警 戒	件 数	62	30	63	25	5	76	261
	延 人 員 数	169	53	172	45	5	249	693
	車 両 延 台 数	62	35	76	32	5	130	340
	活 動 延 時 間	79:40	33:35	94:07	27:10	5:00	100:25	339:57
搜 索	件 数	4	1	1			1	7
	延 人 員 数	59	3	12			22	96
	車 両 延 台 数	21	1	3			6	31
	活 動 延 時 間	16:13	4:03	9:22			13:03	42:41
誤 報 等	件 数	16	1	8	3	5	2	35
	延 人 員 数	116	7	65	9	17	7	221
	車 両 延 台 数	41	2	20	3	6	3	75
	活 動 延 時 間	8:41	0:54	4:02	1:41	2:37	1:35	19:30
緊 急 援 助	件 数							
	延 人 員 数							
	車 両 延 台 数							
	活 動 延 時 間							
そ の 他	件 数	30	22	170	15	26	30	293
	延 人 員 数	314	131	472	52	43	97	1109
	車 両 延 台 数	110	50	173	20	113	33	499
	活 動 延 時 間	85:06	56:14	166:46	14:07	46:54	27:43	396:50

# 消 火 活 動 状 況

(平成27年)

区 分		建 物	林 野	船 舶	車 両	そ の 他	合 計
火 災 件 数		23	4		3	19	49
焼失面積 (㎡)	焼失面積	1,818.00	81	/	/	/	/
	火災1件の 平均焼失面積	79.04	20.25	/	/	/	/
出動台数 (台)	総出動台数	87	17		13	76	193
	火災1件の 平均出動台数	3.78	4.25		4.33	4.00	3.94
出動人員 (人)	総出動人員	276	53		39	208	576
	火災1件の 平均出動人員	12.00	13.25		13.00	10.95	11.76
放水車両 (台)	総放水台数	30	10		5	22	67
	火災1件の 平均放水台数	1.30	2.50		1.67	1.16	1.37
使用ホース (本)	総使用ホース	259	62		34	106	461
	火災1件の 平均使用本数	11.26	15.50		11.33	5.58	9.41
放水時間 (時分)	総放水時間	24:16	2:37		3:59	8:15	39:07
	火災1件の 平均放水時間	1:03	0:39		1:19	0:26	0:47
放水量 (t)	総放水量	764.50	81.0		30.50	173.10	1049.10
	火災1件の 平均放水量	33.24	20.25		10.17	9.11	21.41

# 救 助 活 動 状 況

(平成27年)

区 分		出 動 件 数	活 動 件 数	救 助 人 員	出 動 人 員 ( 人 )				出 動 車 両 ( 台 )			
					消 防 隊 員	救 助 隊 員	救 急 隊 員	計	ポ ン プ 車 等	救 助 工 作 車	救 急 車	計
事 故 種 別	火災事故											
	交通事故	54	21	22	42	139	194	375	17	53	63	133
	水難事故	4	1	1	26	15	12	53	8	4		16
	自然災害	1				6		6	1	1		2
	機械事故	4	2	2	5	11	12	28	2	4	4	10
	その他の 事故	24	12	19	46	78	68	192	20	19	23	62
合 計		87	36	44	119	249	286	654	48	81	94	223
相馬 消防署	本 署	40	15	16	69	121	135	325	24	40	43	107
	新地分署											
南相馬 消防署	本 署	47	21	28	50	128	151	329	24	41	51	116
	小高分署											
	鹿島分署											
	飯館分署											

# 訓 練 実 施 状 況

(平成27年)

区 分		実施回数 (回)	実施時間 (時間)	実施人員 (人)	月 平 均		
					実施回数 (回)	実施時間 (時間)	実施人員 (人)
訓 練 種 別	規 律	2	0:40	37	0.2	0:03	3.1
	運 転	287	328:00	1,062	23.9	27:20	88.5
	消防用器具操法	196	217:25	979	16.3	18:07	81.6
	消防ポンプ操法	87	114:30	522	7.3	9:32	43.5
	図 上 訓 練	85	73:15	627	7.1	6:06	52.3
	各種警防訓練	410	474:24	2,481	34.2	39:32	206.8
	体力練成訓練	404	237:30	2,845	33.7	19:47	237.1
	救急処置訓練	237	218:49	1,200	19.8	18:14	100.0
合 計		1,708	1664:33	9,753	142.3	138:42	812.8
相馬消防署	本 署	503	538:04	3,696	41.90	44:50	308.00
	新 地 分 署	210	259:49	847	17.50	21:39	70.60
南相馬消防署	本 署	510	414:43	3,267	42.50	34:33	272.30
	小 高 分 署	118	134:24	490	9.80	11:12	40.80
	鹿 島 分 署	117	128:40	493	9.80	10:43	41.10
	飯 館 分 署	250	188:53	960	20.80	15:44	80.00

# 消 防 資 器 材 の 保 有 状 況

(平成28年4月1日現在)

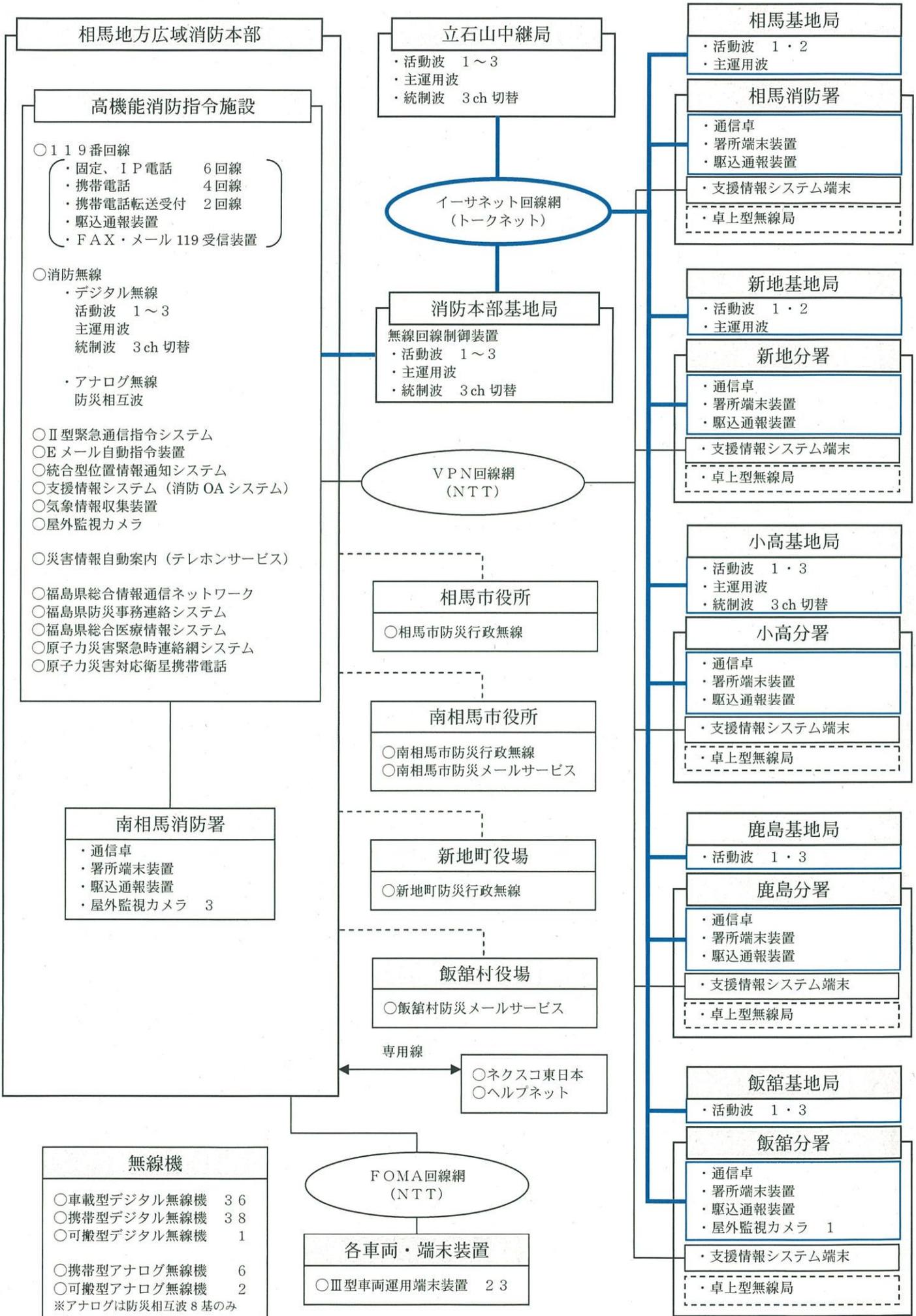
種 別 \ 所 属		本 部	相 馬 消 防 署		南 相 馬 消 防 署			計	
			本 署	新 地 分 署	本 署	小 高 分 署	鹿 島 分 署		飯 館 分 署
消 火 用 器 具	ホ ー ス カ ー		3	1	2	1	1	1	9
	高 発 泡 ノ ズ ル				2		1		3
	低 発 泡 ノ ズ ル		2	1	2	1	1	1	8
	ロ ー タ リ ー ノ ズ ル				1				1
	無 反 動 管 そ う		4	1	5	1	1	1	13
	フ ォ グ ガ ン		2		3	1	2	1	9
	ジ ェ ッ ト シ ュ ー タ ー		12	6	17	6	6	6	53
	ホ ー ス ( 6 5 m m )		85	20	91	40	30	30	296
	ホ ー ス ( 5 0 m m )		130	45	113	85	73	65	511
	水 幕 ホ ー ス		3	3	3	3	2	2	16
	デ ィ ス ク ス ト レ ー ナ ー		2	1	1	3	1	1	9
	ウ ォ ー タ ー チ ャ ー ジ ャ ー			1		1	1	1	4
	簡 易 水 槽 ( 1,000 ℓ )		1		1	1			3
	か ぎ 付 梯 子		2		1				3
	二 連 梯 子		2		1		1		4
	三 連 梯 子		3	1	3	2	1	1	11
救 助 用 器 具	万 能 斧		2	1	2	2	1	1	9
	空 気 式 救 助 マ ッ ト		1		1				2
	マ ッ ト 型 ジ ャ ッ キ		1		1				2
	救 命 ゴ ム ボ ー ト		1		1		1		3
	救 命 胴 衣		11		14		6	1	32
	救 命 索 発 射 銃		1		1				2
	救 助 用 縛 帯		1		3				4
	舟 型 担 架		2		1				3
	緩 降 器		1		1				2
	ロ ー プ 登 降 機		2		2				4
	油 圧 ス プ レ ッ ダ ー		1		1				2
	油 圧 切 断 機		1		1				2
	油 圧 ジ ャ ッ キ		1		1				2
	簡 易 式 ウ ィ ン チ		1		1				2
エ ン ジ ン カ ッ タ ー		1		1				2	
エ ア ー ソ ー		1		1				2	
チ ェ ー ン ソ ー		1	1	1	1	1	1	6	
ハ ン マ ー ド リ ル		1		1				2	

種別	所属	本部	相馬消防署		南相馬消防署			計	
			本署	新地分署	本署	小高分署	鹿島分署		飯館分署
救助用器具	削岩機		1		1			2	
	エアーカッター		1		1			2	
	ボルトクリッパー		1		3		2	6	
	ガス溶断機				1			1	
	空気呼吸器	2	16	10	19	11	6	9	73
	安全マット	2	1		1				4
救急用器具等	高度救命処置用資機材一式		2	1	1	1	1	1	7
	AED(自動体外式除細動器)		3	2	3	2	2	2	14
	患者監視装置		2	1	2	1	1	1	8
	自動式心肺蘇生装置		2	1	2	1	1	1	8
	ショックパンツ		1	1	2	1	2	1	8
	室内紫外線殺菌装置		1	1	1	1	1	1	6
	EOG方式ガス滅菌器		1						1
	レサシアン		4	1	2	1	1	3	12
	リトルアン		12	4	19	3	9	5	52
	AEDトレーナー		13	5	14	4	9	7	52
高度訓練用資機材一式		1		1				2	
その他の器具等	有毒性ガス測定器		3	1	1				5
	酸素濃度測定器		2		1	1	1		5
	放射線測定器		1	1	2	1	1	1	7
	可燃性ガス測定器		2		1				3
	火災原因調査用ガス検知器				1				1
	高低圧用検電器		2	1	2	1	1	1	8
	原因調査用資機材ケース			1					1
	ポケット型線量計	203	33	14	33	15	15	14	327
	サーベイメーター	46	5	3	3	3	1	5	66
	電離箱式サーベイメーター	1	1		1				3
	耐熱防護服		2	1	2	2	1		8
	耐電用防護服		4		2				6
	指揮隊ベスト		3	3	3	3	3	3	18
	クリーニングベスト	6	18	5	14	5	5	5	58
	化学防護服(陽圧式)		10		4				14
	放射能防護服		3		3				6
	発動発電機	1	3	2	4	2	2	2	16
	送排風機		1		1				2
	投光器	1	5	1	3	2	1	1	14
	可搬式温風機	1							1
可搬式冷風機	1							1	
エアーテント	2							1	
除染テント	1							1	
ホース巻取り機				1		1		2	

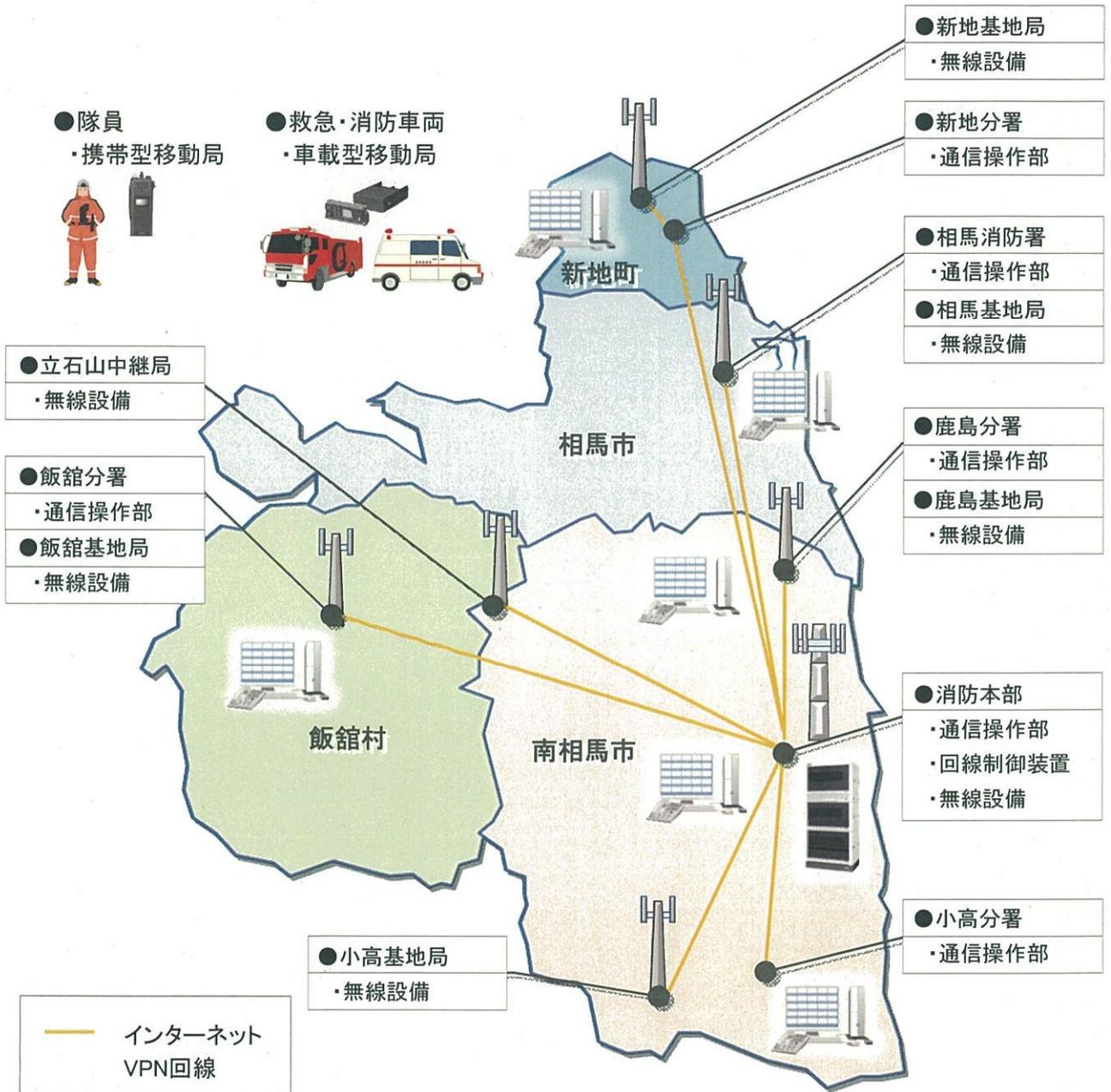
種別	所属	本部	相馬消防署		南相馬消防署			計
			本署	新地分署	本署	小高分署	鹿島分署	
その他の器具等	差込異径媒介					4		4
	マルチボールバルブ		1	1	1	1	1	6
	M C スイベル		3	1	3	1	1	10
	ヘリ用吹き流し					1		1
	現場指揮本部旗	1	1	1	1	1	1	7
	備蓄用泡消火薬剤		55	10	55	10	10	150
	A火災用泡消火薬剤	2	10	3				15
	緊急消防援助隊資器材搬送リュックサック	5						5
水難救助器具	ダイビング用ウェットスーツ一式		5		3			8
	レスキューチューブ		2		3			5
	ポーターボート		1		1			2
	ライフジャケット	11	18	10	18	9	10	85
	セフティーボード		3		2			5

# 通信系統図

平成28年6月1日現在



# ■消防救急デジタル無線 整備概要



# 通 信 施 設 状 況

(平成28年4月1日現在)

種 別 所 属	消 防 本 部	相 馬 消 防 署		南 相 馬 消 防 署				計
		本 署	新 地 分 署	本 署	小 高 分 署	鹿 島 分 署	飯 館 分 署	
固定,IP119専用電話	6							6
携帯119専用電話	4							4
メー ル 119	1							1
F A X 119	1							1
直 通 電 話	2	1	1	1	1	1	1	8
一 般 加 入 電 話	4	2	2	2	2	2	2	16
庁 内 電 話	20	16	4	16	9	4	4	73
電 話 フ ァ ッ ク ス	3	1	1	1	1	1	1	9
携 帯 電 話	3	2	1	2	1	1	1	11
指 令 用 放 送 設 備	1	1	1	1	1	1	1	7
非 常 用 サ イ レ ン		1	1		1	1	1	5
駆 け 込 み		1	1	1	1	1	1	6

# 無線機配備状況

(デジタル無線)

凡例 (搭載周波数) ①活動波1 ②活動波2 ③活動波3 ④主運用波4 ⑤主運用波1～7 ⑥統制波1～3

(平成28年4月1日現在)

所属	無線種別	呼出名称	製造社名	出力W	搭載周波数	備考		
消防本部	基地局	そうましようぼうたていしやまちゅうけい	日立	20	①②③④ ⑥			
	基地局	そうましようぼうほんぶ	日立	20	①②③④ ⑥			
	卓上型	そうましようぼうほんぶ1	日立	5	①②③④ ⑥			
	車載型	ほんぶしれい1	日立	5	①②③ ⑤⑥	ハイブリット車		
		ほんぶしれい2	日立	5	①②③ ⑤⑥			
		さいがいきゅうえん1	日立	5	①②③ ⑤⑥			
		ほんぶきゅうきゅう1	日立	5	①②③ ⑤⑥	高規格救急車(予備車)		
	携帯型	ほんぶ11	日立	2	①②③ ⑤⑥			
		ほんぶ12	日立	2	①②③ ⑤⑥			
		ほんぶ13	日立	2	①②③ ⑤⑥			
		ほんぶ14	日立	2	①②③ ⑤⑥			
		ほんぶ15	日立	2	①②③ ⑤⑥			
		ほんぶ16	日立	2	①②③ ⑤⑥			
	可搬型	ほんぶ21	日立	5	①②③ ⑤⑥			
	相馬消防署	本署	基地局	しょうぼうそうま	日立	20	①② ④	
			卓上型	しょうぼうそうま1	日立	5	①②③④ ⑥	
車載型		そうましき1	日立	5	①②③ ⑤⑥			
		そうましき2	日立	5	①②③ ⑤⑥			
		そうまポンプ1	日立	5	①②③ ⑤⑥			
		そうまポンプ2	日立	5	①②③ ⑤⑥			
		そうまタンク1	日立	5	①②③ ⑤⑥			
		そうまきゅうじよ1	日立	5	①②③ ⑤⑥	救助工作車		
		そうまかがく1	日立	5	①②③ ⑤⑥	化学車		
		そうまきゅうきゅう1	日立	5	①②③ ⑤⑥	高規格救急車		
		そうまきゅうきゅう2	日立	5	①②③ ⑤⑥	高規格救急車		
携帯型		そうま11	日立	2	①②③ ⑤⑥			
		そうま12	日立	2	①②③ ⑤⑥			
		そうま13	日立	2	①②③ ⑤⑥			
		そうま14	日立	2	①②③ ⑤⑥			
		そうま15	日立	2	①②③ ⑤⑥			
		そうま16	日立	2	①②③ ⑤⑥			
		そうま17	日立	2	①②③ ⑤⑥			
		そうま18	日立	2	①②③ ⑤⑥			
		そうま19	日立	2	①②③ ⑤⑥			
新地分署		基地局	しょうぼうしんち	日立	20	①② ④		
		卓上型	しょうぼうしんち1	日立	5	①②③④ ⑥		
		車載型	しんちしき1	日立	5	①②③ ⑤⑥		
	しんちポンプ1		日立	5	①②③ ⑤⑥			
	しんちきゅうきゅう1		日立	5	①②③ ⑤⑥	高規格救急車		
	携帯型	しんち11	日立	2	①②③ ⑤⑥			
しんち12		日立	2	①②③ ⑤⑥				
しんち13		日立	2	①②③ ⑤⑥				

所属	無線種別	呼 出 名 称	製造社名	出力W	搭載周波数	備 考		
南相馬消防署	本署	車載型	なんそうしき1	日立	5	①②③ ⑤⑥		
			なんそうしき2	日立	5	①②③ ⑤⑥		
			なんそうポンプ1	日立	5	①②③ ⑤⑥		
			なんそうポンプ2	日立	5	①②③ ⑤⑥		
			なんそうタンク1	日立	5	①②③ ⑤⑥		
			なんそうきゅうじょ1	日立	5	①②③ ⑤⑥	救助工作車	
			なんそうかがく1	日立	5	①②③ ⑤⑥	化学車	
			なんそうきゅうきゅう1	日立	5	①②③ ⑤⑥		
			なんそうきゅうきゅう2	日立	5	①②③ ⑤⑥	高規格救急車	
		携帯型	なんそう11	日立	2	①②③ ⑤⑥		
			なんそう12	日立	2	①②③ ⑤⑥		
			なんそう13	日立	2	①②③ ⑤⑥		
			なんそう14	日立	2	①②③ ⑤⑥		
			なんそう15	日立	2	①②③ ⑤⑥		
			なんそう16	日立	2	①②③ ⑤⑥		
			なんそう17	日立	2	①②③ ⑤⑥		
			なんそう18	日立	2	①②③ ⑤⑥		
			なんそう19	日立	2	①②③ ⑤⑥		
		小高分署	基地局	しょうぼうおだか	日立	20	① ③④ ⑥	
	卓上型		しょうぼうおだか1	日立	5	①②③④ ⑥		
	車載型		おだかしき1	日立	5	①②③ ⑤⑥		
			おだかポンプ1	日立	5	①②③ ⑤⑥		
			おだかタンク1	日立	5	①②③ ⑤⑥		
			おだかきゅうきゅう1	日立	5	①②③ ⑤⑥	高規格救急車	
	携帯型		おだか11	日立	2	①②③ ⑤⑥		
			おだか12	日立	2	①②③ ⑤⑥		
			おだか13	日立	2	①②③ ⑤⑥		
			おだか14	日立	2	①②③ ⑤⑥		
	鹿島分署		基地局	しょうぼうかしま	日立	20	① ③	
			卓上型	しょうぼうかしま1	日立	5	①②③④ ⑥	
			車載型	かしましき1	日立	5	①②③ ⑤⑥	
				かしまポンプ1	日立	5	①②③ ⑤⑥	
		かしまタンク1		日立	5	①②③ ⑤⑥		
		かしまきゅうきゅう1		日立	5	①②③ ⑤⑥	高規格救急車	
		携帯型	かしま11	日立	2	①②③ ⑤⑥		
			かしま12	日立	2	①②③ ⑤⑥		
かしま13			日立	2	①②③ ⑤⑥			
かしま14			日立	2	①②③ ⑤⑥			
飯館分署		基地局	しょうぼういいたて	日立	20	① ③		
		卓上型	しょうぼういいたて1	日立	5	①②③④ ⑥		
		車載型	いいたてしき1	日立	5	①②③ ⑤⑥		
			いいたてポンプ1	日立	5	①②③ ⑤⑥		
	いいたてきゅうきゅう1		日立	5	①②③ ⑤⑥	高規格救急車		
	携帯型	いいたて11	日立	2	①②③ ⑤⑥			
		いいたて12	日立	2	①②③ ⑤⑥			
		いいたて13	日立	2	①②③ ⑤⑥			

## 2 アナログ無線

消防本部	防災相互波として 可搬型 2基、携帯型 6基
------	------------------------

# 消 防 水 利 の 現 有 状 況

(平成28年4月1日現在)

種 別		所 属	相	南	小	鹿	新	飯	計
			馬	相	高	島	地	館	
			消	馬	分	分	分	分	
			防	馬	署	署	署	署	
			署	署					
消 火 栓	公 設	地 下 ( 単 )	299	704	43	158	6	34	1,244
		地 下 ( 双 )				8			8
		地 上 ( 単 )	171	2	179	5	193	174	724
		地 上 ( 双 )	1		4	1	57		63
	私 設	地 下 ( 単 )		1					1
		地 上 ( 単 )	2						2
防 火 水 槽	公 設	100 m <sup>3</sup> 以上	2		2	2	1		7
		40~100m <sup>3</sup> 未満	68	131	73	107	28	60	467
		20~40m <sup>3</sup> 未満	20	4	11	24	3		62
	私 設	100 m <sup>3</sup> 以上							
		40~100m <sup>3</sup> 未満	3	16	11	13		2	45
		20~40m <sup>3</sup> 未満			2			6	8
そ の 他	井 戸	40 m <sup>3</sup> 以上		4					4
		20~40m <sup>3</sup> 未満							
	河 川 ・ 溝 等								
	海 ・ 湖								
	プ ー ル		11	16	6	5	4	4	46
	濠 ・ 池 等								
	下 水 道								
そ の 他		50	30					80	
合 計			627	908	331	323	292	280	2,761





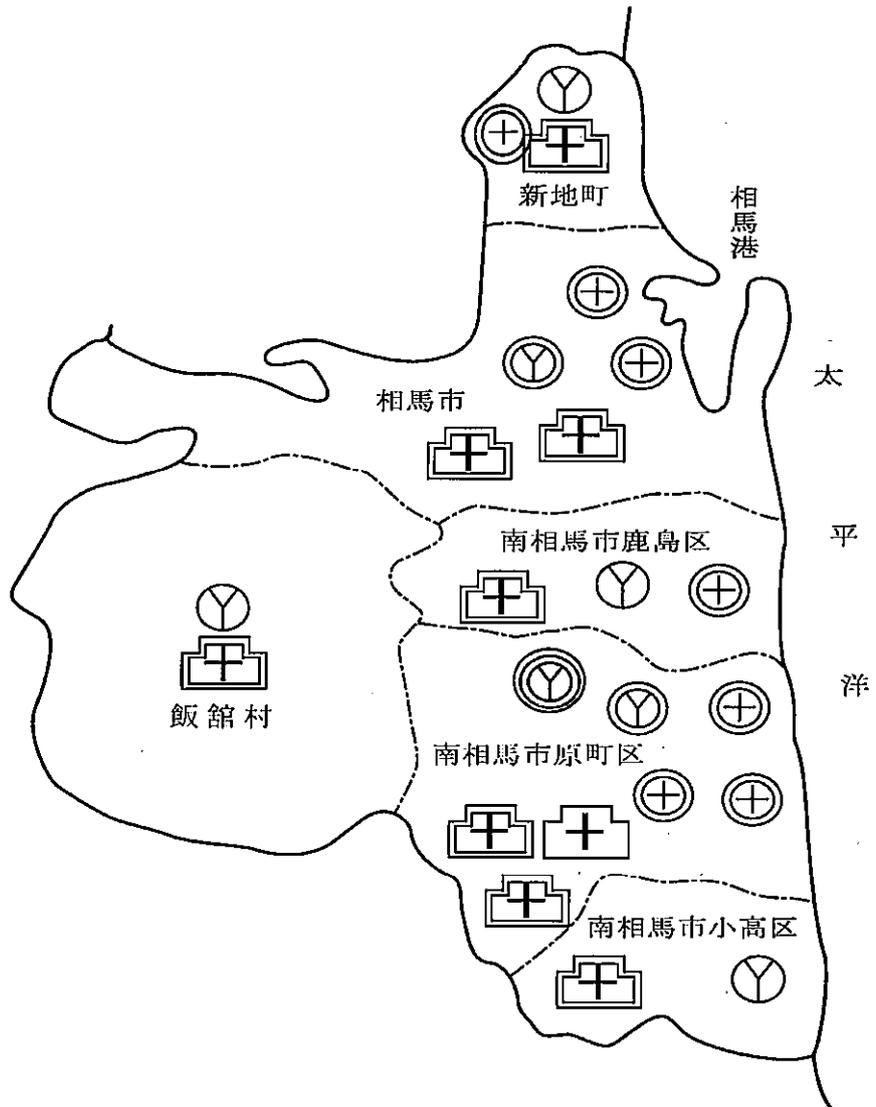
**救 急 統 計**



# 相馬地方救急現勢分布図

凡 例

	消 防 本 部
	消 防 署
	消 防 分 署
	救 急 指 定 病 院
	高 規 格 救 急 車
	救 急 車



## 救急出場件数及び搬送人員 (平成27年)

件 数		出場件数	搬送人員
所属別			
相 馬 消防署	本 署	1,323	1,180
	新 地 分 署	362	341
南相馬 消防署	本 署	2,047	1,809
	小 高 分 署	145	138
	鹿 島 分 署	563	508
	飯 館 分 署	73	62
合 計		4,513	4,038

## 救急隊別事故種別出場件数

(平成27年)

救急隊別 \ 事故種別	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他	計
相馬隊	3		1	113	15	10	170	9	14	832	156	1,323
南相馬隊				213	22	5	248	11	15	1,308	225	2,047
小高隊	1			18	7		18	2	5	77	17	145
鹿島隊	1			58	2	1	56		3	405	37	563
新地隊			1	31	6	4	49	1	3	205	62	362
飯舘隊				13	16		6			37	1	73
計	5		2	446	68	20	547	23	40	2,864	498	4,513

## 傷病程度別搬送人員数

(平成27年)

傷病程度 \ 事故種別	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他	計
死亡				8	2		6		6	114		136
重症	1			24	12		56			283	164	540
中等症	2			103	30	3	213	6	10	1,195	293	1,855
軽症	2			315	25	17	199	11	4	903	30	1,506
その他										1		1
計	5			450	69	20	474	17	20	2,496	487	4,038

※その他のその他は防災ヘリ収容

## 年齢区分別搬送人員数

(平成27年)

年齢区分 \ 事故種別	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他	計
新生児											12	12
乳幼児				17			14	1		67	9	108
少年				22		14	13		1	45	7	102
成人	4			278	62	5	130	15	14	690	188	1,386
老人	1			133	7	1	317	1	5	1,694	271	2,430
計	5			450	69	20	474	17	20	2,496	487	4,038

## 曜 日 別 出 場 件 数

(平成27年)

曜 日	日	月	火	水	木	金	土	計
件 数	584	661	643	695	628	658	644	4,513

## 時 間 別 出 場 件 数

(平成27年)

事故種別 区 分		火 災	自 然 災 害	水 難	交 通	労 働 災 害	運 動 競 技	一 般 負 傷	加 害	自 損 行 為	急 病	そ の 他	計
時 間 別 内 訳	0～2				7			25	2	3	153	5	195
	2～4	1			3			22	4	2	84	5	121
	4～6				10			21			166	5	202
	6～8	1		1	45	6		48		4	268	5	378
	8～10	1		1	68	12	3	60		1	353	74	573
	10～12	1			59	15	5	68		5	323	114	590
	12～14				78	9	3	73		6	292	100	561
	14～16	1			51	12	6	60		6	242	69	447
	16～18				63	10	1	62	2	3	255	59	455
	18～20				40	1	1	54	4	3	309	26	438
	20～22				12	1	1	28	5	2	263	20	332
	22～24				10	2		26	6	5	156	16	221
計	5		2	446	68	20	547	23	40	2,864	498	4,513	

## 覚 知 別 出 場 件 数

(平成27年)

種 別	119番	一般電話	駆け付け	その他	計
件 数	3,840	587	21	65	4,513

(119番は携帯119番IP電話も含む)

## 救急隊員の行った応急処理状況

(平成27年)

事故種別 区分	急病	交通事故	一般負傷	その他	合計
搬送人員	2,496	450	474	618	4,038
応急処置対象人員	2,481	437	469	603	3,990

事故種別 区分	急病	交通事故	一般負傷	その他	合計
止血	18	29	60	21	128
固定	11	195	78	42	326
人工呼吸	102	5	8	10	125
胸骨圧迫	11			3	14
うち自動	3				3
心肺蘇生	100	4	6	7	117
酸素吸入	739	30	48	180	997
気道確保	176	6	9	13	204
うちエアウェイ				1	1
うち食道閉鎖式エアウェイ	16		1	2	19
うち気管挿管	1		1	2	4
静脈路確保輸液	43	2	3	3	51
うち薬剤投与	25	2	1		28
除細動	13				13
異物除去	4		1		5
保温	1,487	189	247	378	2,301
被覆	4	41	67	16	128
在宅療法	48		1	26	75
血圧測定	2,293	405	437	530	3,665
聴診器聴取	866	105	92	68	1,131
血中酸素飽和度測定	2,317	423	442	535	3,717
心電図測定	1,187	54	76	138	1,455
その他の応急処置				3	3

# 福島県ドクターヘリ要請概要

(平成20年1月28日運用開始)

## 1 年別事故種別要請件数

年	事故種別												計
	火災	自然災害	水難	交通	労災	運動	一般	加害	自損	急病	転院	その他	
20	3			5	1		4			4	19		36
21			1		1		4			3	19		28
22				5	3		3			3	20		34
23	1			2	7		6		3	6	14		39
24				7	5		4		1	3	18		38
25				8	3		2			5	10		28
26				9	7	1	6		1	4	5		33
27	1			15	12		9		1	21	18		77
計	5		1	51	39	1	38		6	49	123		313

## 2 所属別事故種別要請件数 (平成27年中)

所属別	事故種別												計
	火災	自然災害	水難	交通	労災	運動	一般	加害	自損	急病	転院	その他	
相馬				6	4		3		1	3	2		19
新地				2	1		1			1			5
南相馬				4	3		2			6	15		30
小高	1			1	2		1			3			8
鹿島				2	1		1			8	1		13
飯舘					1		1						2
計	1			15	12		9		1	21	18		77

# 常磐自動車道関連事故対応状況

平成24年4月8日 相馬IC、南相馬IC間開通

平成26年12月6日 浪江ICから山元IC間開通

平成27年3月1日 常磐高速自動車道全線開通  
(常磐富岡ICから浪江IC間開通)

## ○救急出場

	発生日時	発生場所	種別	出動所属	傷病者	出動隊	出動人員	事故概要	備考
1	平成25年3月1日	相馬IC 下りランプ	交通	相馬 新地	1名	相馬指揮 相馬T1 相馬R1 相馬C1 新地救急	12名	乗用車の 運転操作ミ ス	重症 火災警戒出動有
2	平成26年3月19日	相馬～南相馬 IC間上り線 本線上	交通	相馬 南相馬	2名	南相馬T1 南相馬R1 南相馬救急 相馬救急	12名	乗用車の 運転操作ミ ス	重症、軽症 各1名
3	平成26年3月22日	相馬IC接道	交通	相馬	2名	相馬T1 相馬R1 相馬救急	9名	乗用車の 運転操作ミ ス	相馬ICをDrヘリ のヘリポートに選 定し活動
4	平成26年5月29日	南相馬IC 下りランプ	交通	本部 相馬 南相馬	1名	本部指揮 相馬C1 相馬R1 相馬救急 南相馬T1 南相馬R1	20名	8t特殊車 両、道路 外へ横転	軽症
5	平成27年1月30日	相馬～新地IC 間下り線 本線上	交通	相馬 新地	2名	相馬R1 相馬救急 新地P1	3名	普通ワゴン 車が積雪 路走行中 スリップ	中等症
6	平成27年6月9日	相馬IC	急病	相馬	1名	相馬救急	3名	本線走行 中体調不 良により相 馬IC事務 所に駆け 込み	中等症
7	平成27年6月22日	南相馬IC ～浪江IC間 本線上	交通	南相馬	1名	南相救急 南相R1	6名	普通ワゴン 車の単一 事故	同時出動の双葉 救急隊により搬送
8	平成27年7月11日	鹿島SA入口	交通	相馬 南相馬	1名	相馬R1 相馬救急 南相T1 南相救急 南相R1	15名	SAへ入ろ うとした大 形トラック の横転	死亡
9	平成27年8月11日	新地IC～山本 IC間	交通	本部 相馬 新地	1名	本部指揮 相馬R1 相馬T1 新地救急	12名	下り線走 行中对向 車線へは 見出し衝 突	中等症

10	平成27年9月13日	下り線南相馬ICランプ	交通	相馬南相馬	1名	南相T1 南相救急 南相R1 相馬救急 相馬R1	15名	大形バイクの転倒	死亡 双葉広域消防の出動有
11	平成27年9月20日	鹿島SA内	急病	鹿島	1名	鹿島救急	3名	女性胸の痛み	中等症
12	平成27年9月22日	相馬IC～新地IC間下り本線上	急病	相馬	1名	相馬T1 相馬救急	6名	両手足のしびれ	軽症
13	平成27年10月18日	鹿島SA下り	急病	鹿島	1名	鹿島救急	3名	背部痛	中等症
14	平成27年11月17日	鹿島SA下り	急病	鹿島	1名	鹿島救急 南相R1	6名	脳血管障害	重症
15	平成27年11月18日	新地IC～山本IC間下り本線上	交通	相馬南相馬	1名	相馬R1 相馬T1 南相救急	10名	大形トラックが軽乗用車に追突	軽症
16	平成27年12月2日	南相馬IC～相馬IC間下り本線上	労働災害	相馬	1名	相馬救急 相馬R1	6名	ネクスコ職員故障車両移動中受傷	中等症

○その他の出動

	発生日時	発生場所	種別	出動所属	傷病者	出動隊	出動人員	事故概要	備考
1	平成25年10月25日	相馬～南相馬IC間上り線本線上	偵察	本部相馬南相馬	なし	本部指揮 相馬T1 相馬C1 相馬R1 南相馬T1 南相馬C1 南相馬R1	21名	トラックの荷台から出火	現場確認できず

## 過去10年間の救急業務の推移

区 分	出場件数	搬送人員	一日平均 出場件数	内 訳(件数)				
				急病	交通事故	一般負傷	労働災害	自損行為
平成18年	3,852	3,719	10.6	急病	交通事故	一般負傷	労働災害	自損行為
				2,405	474	448	32	48
平成19年	3,954	3,781	10.8	急病	交通事故	一般負傷	労働災害	自損行為
				2,543	442	470	40	55
平成20年	3,815	3,568	10.5	急病	交通事故	一般負傷	労働災害	自損行為
				2,379	457	443	33	62
平成21年	3,797	3,523	10.4	急病	交通事故	一般負傷	労働災害	自損行為
				2,380	424	485	29	64
平成22年	4,148	3,808	11.4	急病	交通事故	一般負傷	労働災害	自損行為
				2,557	461	524	37	53
平成23年	3,740	3,415	10.2	急病	交通事故	一般負傷	労働災害	自損行為
				2,475	299	388	38	50
平成24年	3,796	3,515	10.4	急病	交通事故	一般負傷	労働災害	自損行為
				2,478	343	465	39	46
平成25年	3,811	3,478	10.4	急病	交通事故	一般負傷	労働災害	自損行為
				2,500	328	477	33	52
平成26年	4,317	3,819	11.8	急病	交通事故	一般負傷	労働災害	自損行為
				2,730	432	532	55	54
平成27年	4,513	4,038	12.4	急病	交通事故	一般負傷	労働災害	自損行為
				2,864	446	547	68	40

## 救命講習会の実施状況

所 属 年 別		相馬消防署		南 相 馬 消 防 署				計
		本 署	新地分署	本 署	小高分署	鹿島分署	飯館分署	
平成7年 ～ 平成17年	回 数	276	59	448	190	118	141	1,232
	受講者数	8,465	2,590	10,031	5,475	3,607	2,839	33,007
平成18年	回 数	47	7	41	24	17	11	147
	受講者数	1,526	144	831	555	235	263	3,554
平成19年	回 数	50	4	47	23	11	6	141
	受講者数	1,748	162	982	508	284	195	3,879
平成20年	回 数	74	10	89	26	13	12	224
	受講者数	2,202	252	1,656	523	299	270	5,202
平成21年	回 数	66	13	71	28	15	15	208
	受講者数	1,571	483	1,384	585	315	250	4,588
平成22年	回 数	58	15	47	24	17	11	172
	受講者数	1,445	403	974	503	387	173	3,885
平成23年	回 数	16	4	21	4	11	3	59
	受講者数	301	169	463	46	222	51	1,252
平成24年	回 数	37	8	29		8	1	83
	受講者数	1,131	323	508		215	6	2,183
平成25年	回 数	25	9	38	2	11		85
	受講者数	801	264	642	51	268		2,026
平成26年	回 数	38	8	39	11	11	4	111
	受講者数	1,041	338	757	373	246	44	2,799
平成27年	回 数	34	12	30	10	11	1	98
	受講者数	1,086	384	685	210	315	11	2,691
計	回 数	721	149	900	342	243	205	2,560
	受講者数	21,317	5,512	18,913	8,829	6,393	4,102	65,066

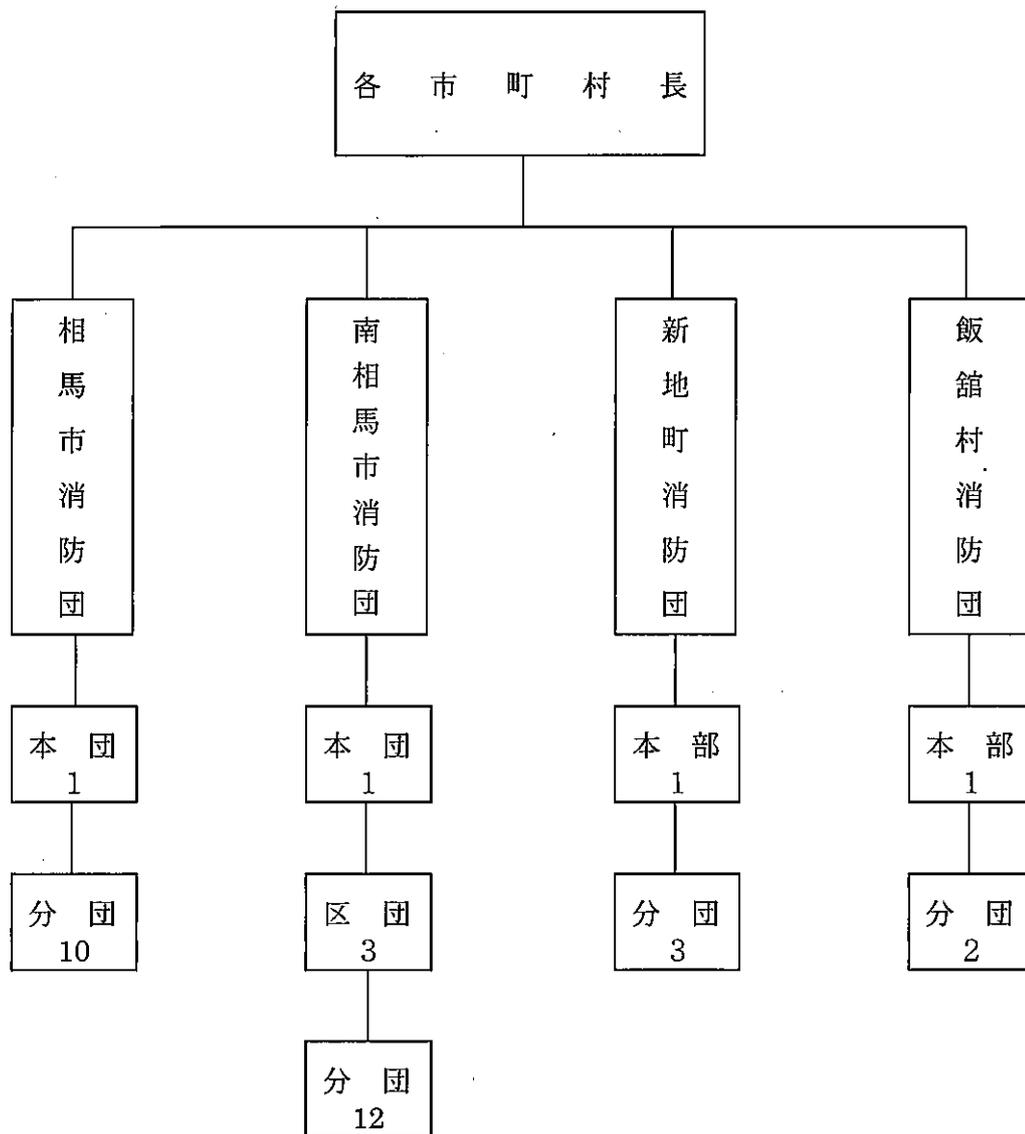


**消防団・関係団体等**



# 相馬地方広域市町村消防団の組織

(平成 28 年 4 月 1 日現在)



市町村消防団名	団 長 名	副 団 長 名	定 員	実 員
相馬市消防団	荒 忠 夫	山 田 行 雄 鎌 田 重 昭	554	523 (0)
南相馬市消防団	長 澤 初 男	山 見 重 信 片 岡 芳 廣	1,356	1,140 (11)
新地町消防団	後 藤 一 茂	角 田 正 悦	319	312 (12)
飯館村消防団	高 野 進	赤 石 澤 傳	265	229 (3)
合 計			2, 494	2, 260 (27)

※( )内は、女性消防団員数

## 階 級 別 実 員 数

(平成 28 年 4 月 1 日現在)

階 級 消防団名		団 長	副 団 長	副 区 団 長	分 団 長	副 分 団 長	部 長	班 長	団 員	計
相馬市消防団		1	2		12	12	2	49	445	523
南 相 馬 市 消 防 団	原町区団		1 (区団長兼務)	2 (うち分団長兼務1)	6	14	37	77	348	485
	小高区団		1 (区団長兼務)	1	4	11	30	41	256	344
	鹿島区団	1 (区団長兼務)		1	6	14	29	29	231	311
	計	1	2	4	16	39	96	147	835	1,140
新地町消防団		1	1		4	6	14	23	259	308
飯館村消防団		1	1		3	8	21	26	160	220
合 計		4	6	4	35	65	133	245	1,699	2,191

## 消 防 車 両 の 現 況

(平成 28 年 4 月 1 日現在)

種 別 市町村		水 槽 付 き ポンプ自動車	普 通 ポンプ自動車	小 型 動 力 積 載 付 車	小 型 動 力 ポン プ	広 報 車 等
相 馬 市			6	37	2	
南 相 馬 市	原 町 区	2	2	33	2	2
	小 高 区		2	27		
	鹿 島 区		3	27	1	
	計	2	7	87	3	2
新 地 町			3	15		1
飯 館 村			2	18	2	2
合 計		2	18	157	4	5

## 福島県消防協会相馬支部顧問

(平成28年4月1日現在)

役職名	氏名	在職名
顧問	御代典文	福島県相双地方振興局長
〃	佐藤実	南相馬警察署長
〃	齋藤圭一	相馬警察署長
〃	志賀丈彦	元福島県消防協会相馬支部長
〃	但野安俊	元福島県消防協会相馬支部長
〃	佐藤光孝	元福島県消防協会相馬支部長
〃	荒利喜	前福島県消防協会相馬支部長

## 福島県消防協会相馬支部役員

(平成28年4月1日現在)

役職名	氏名	在職名
支部長	長澤初男	南相馬市消防団長 兼鹿島区団長
副支部長	後藤一茂	新地町消防団長
〃	山見重信	南相馬市消防団副団長 兼原町区団長
常務理事	草刈薫	相馬地方広域消防本部消防長
理事	片岡芳廣	南相馬市消防団副団長 兼小高区団長
監事	荒忠夫	相馬市消防団長
〃	高野進	飯舘村消防団長

# 消防関係団体等の結成状況

(平成 28 年 4 月 1 日現在)

## 1 相馬地方

名 称	代 表 者 名	結成年月日	会 員 数
相馬地方女性消防隊連絡協議会	立谷品子	S63.10.1	6
相馬地方消防設備協会	片岡芳廣	S51.4.10	53
相馬地方防火安全協会	熊坂荘平	H18.6.29	439

## 2 各市町村女性消防隊

名 称	隊 長 名	結成年月日	隊 員 数
相馬市女性消防隊	吉田久美子	S41.10.21	5,769
南相馬市女性消防隊	田代豊美	H18.1.1	15,391
原町区隊	堀川榮子	S51.4.1	11,078
小高区隊	田代豊美	S50.10.30	2,264
鹿島区隊	和泉ひで子	S59.2.15	2,049
新地町女性消防隊	半田えみ子	S59.4.1	2,495
飯館村女性消防隊	石井美智子	S39.4.1	1,300

※相馬市女性消防隊長にあつては平成 28 年 4 月 17 日に選任されました。

## 3 自主防災組織

### (1)結成状況

市 町 村 別	行 政 区 数	結成行政区数	結 成 率(%)	
相馬市	74	73	98.6	
南相馬市	原町区	101	92	91.1
	小高区	39	39	100.0
	鹿島区	40	40	100.0
	小計	180	171	95.0
新地町	15	15	100.0	
飯館村	20	20	100.0	
合 計	289	279	96.5	

## (2)市町村別組織一覧

## 相馬市

番号	名 称	結成年月日	番号	名 称	結成年月日
1	細田地区自主防災自衛団	S63. 1. 3	37	尾浜地区防災会	H14. 7. 1
2	上古金自主防災会	H13. 4. 1	38	北原釜地区防災会	H14. 7. 1
3	石上地区自主防災会	H13. 3.11	39	南原釜地区防災会	H14. 7. 1
4	相馬市椎木自治会	H13. 4.14	40	台町地区自主防災会	H14. 7.12
5	雇用促進住宅自主防災会	H13. 4.15	41	八幡地区防災会	H14. 8. 1
6	塚部防災会	H13. 4. 1	42	中村西部第一区防災会	H14. 7.22
7	鎗町地区自主防災会	H13. 5.27	43	磯部大洲防災会	H14. 8. 1
8	初野防災会	H13. 6.15	44	松川地区防災会	H14. 8. 1
9	荒井町自主防災会(中村西部5区)	H13. 6.20	45	馬場野防災会	H14. 8. 1
10	袋町親交会自主防災会	H13. 6.21	46	程田防災会	H14. 8. 1
11	台行政区自主防災会	H13. 6.27	47	中村西部第2区防災会	H14. 7.27
12	岩子地区防災会	H13. 5. 1	48	山岸自主防災会	H14. 8. 1
13	玉野地区自主防災会(四行政区)	H13. 8.19	49	今田防災会	H14. 7.31
14	金谷原防災会	H13. 9. 1	50	粟津防災会	H14. 8.14
15	高松地区自主防災会	H13. 7. 8	51	物倉防災会	H14. 8.18
16	黒木地域防災会	H13.10.19	52	大上防災会	H14. 8.19
17	日下石防災会	H13. 4. 1	53	小田原防災会	H14. 8.19
18	立谷防災会	H13. 9.30	54	並木防災会	H14. 8.19
19	上立谷防災会	H13.11. 1	55	中村西部第11区防災会	H14. 7.15
20	上赤木防災会	H13.11. 1	56	中平防災会	H14. 8.26
21	下赤木防災会	H13.11. 1	57	柏崎地区防災会	H14. 8. 5
22	柚木防災会	H13.10. 8	58	新田防災会	H14. 9. 1
23	獺庭地区防災会(磯部第1区)	H14. 2.24	59	百槻自治会防災会	H14.10. 1
24	立切防災会(磯部第1区)	H14. 3. 6	60	坪ヶ迫自主防災会	H14. 9. 1
25	蒲庭地区防災会	H14. 3. 6	61	北飯渕防災会	H14. 9.14
26	磯部第4区自主防災会	H14. 3. 7	62	南飯渕防災会	H14.10. 1
27	成田地区自主防災会	H14. 1.27	63	小野地区自主防災会	H14. 9.15
28	磯部芹谷地地区防災会	H14. 4. 1	64	駅前中部5区防災会	H14.10.20
29	向町防災組織	H14. 4. 1	65	本笑防災会	H15. 1. 2
30	大坪地区自主防災会	H14. 1.16	66	刈敷田地区防災会	H15. 2.23
31	横川自主防災会	H14. 4. 1	67	中村西部10区自主防災会	H15. 3.30
32	緑ヶ丘団地防災会	H14. 5. 1	68	中村西部第9区防災会	H15. 2.16
33	西部12区防災会	H14. 5.20	69	和田地区防災会	H16. 9.11
34	新沼・北小泉地区防災会	H14. 6.20	70	駅前新和会自主防災会(中村西部5区)	H17. 9. 1
35	富沢防災会	H14. 4. 1	71	中村西部6区自主防災会	H18. 9. 1
36	須萱防災会	H14. 7. 1	72	中村西部8区防災会	H20. 7. 1

## 南相馬市(原町区)

番号	名 称	結成年月日	番号	名 称	結成年月日
1	小 沢 防 災 会	S62. 3. 1	35	雲 雀 ヲ 原 一 防 災 会	H14. 7. 1
2	深 野 防 災 会	H12. 4. 1	36	陣 ヲ 崎 一 防 災 会	H14. 7. 1
3	栄 町 一 防 災 会	H12. 5. 11	37	下 高 平 防 災 会	H14. 8. 25
4	馬 場 防 災 会	H12. 8. 1	38	上 渋 佐 防 災 会	H14. 9. 10
5	泉 防 災 会	H13. 4. 22	39	金 沢 防 災 会	H14. 10. 5
6	二 見 町 一 防 災 会	H13. 4. 1	40	高 見 町 防 災 会	H14. 12. 1
7	雲 雀 ヲ 原 三 防 災 会	H13. 4. 1	41	長 野 防 災 会	H15. 3. 16
8	青 葉 町 防 災 会	H13. 4. 1	42	橋 本 町 四 防 災 会	H15. 4. 1
9	大 甕 上 防 災 会	H13. 6. 1	43	西 町 防 災 会	H15. 4. 1
10	大 木 戸 一 防 災 会	H13. 9. 1	44	北 原 防 災 会	H15. 4. 1
11	仲 町 一 防 災 会	H13. 11. 1	45	二 見 町 二 防 災 会	H15. 4. 1
12	東 町 二 防 災 会	H13. 12. 1	46	北 泉 防 災 会	H15. 4. 1
13	大 甕 下 防 災 会	H14. 3. 3	47	上 町 防 災 会	H15. 4. 1
14	石 神 防 災 会	H14. 4. 1	48	上 高 平 二 防 災 会	H15. 4. 1
15	押 釜 防 災 会	H14. 4. 1	49	下 太 田 防 災 会	H15. 4. 1
16	大 谷 防 災 会	H14. 4. 1	50	橋 本 町 三 防 災 会	H15. 4. 1
17	仲 町 三 防 災 会	H14. 4. 1	51	南 町 三 防 災 会	H15. 4. 1
18	下 北 高 平 防 災 会	H14. 4. 1	52	益 田 防 災 会	H15. 4. 1
19	江 井 防 災 会	H14. 4. 1	53	旭 町 二 防 災 会	H15. 4. 30
20	桜 井 町 一 防 災 会	H14. 4. 1	54	南 町 二 防 災 会	H15. 5. 15
21	萱 浜 防 災 会	H14. 4. 1	55	北 新 田 防 災 会	H15. 5. 30
22	雫 防 災 会	H14. 4. 1	56	高 倉 防 災 会	H15. 7. 1
23	北 萱 浜 防 災 会	H14. 4. 1	57	東 町 一 防 災 会	H15. 7. 13
24	小 浜 防 災 会	H14. 4. 1	58	錦 町 二 防 災 会	H15. 8. 1
25	日 の 出 町 防 災 会	H14. 4. 1	59	北 長 野 防 災 会	H15. 10. 1
26	大 原 防 災 会	H14. 4. 1	60	仲 町 二 防 災 会	H15. 11. 1
27	雲 雀 ヲ 原 二 防 災 会	H14. 4. 1	61	堤 谷 防 災 会	H16. 1. 1
28	鶴 谷 防 災 会	H14. 4. 1	62	上 北 高 平 一 防 災 会	H16. 1. 19
29	中 太 田 防 災 会	H14. 4. 1	63	上 北 高 平 二 防 災 会	H16. 1. 28
30	上 太 田 防 災 会	H14. 4. 1	64	上 高 平 一 防 災 会	H16. 2. 1
31	本 陣 前 三 防 災 会	H14. 4. 1	65	信 田 沢 防 災 会	H16. 2. 1
32	高 防 災 会 ※ (高 一 ・ 高 二 行 政 区)	H14. 4. 14	66	牛 越 防 災 会	H16. 4. 1
33	国 見 町 防 災 会 ※ (国 見 町 一 ・ 国 見 町 二 行 政 区) (国 見 町 三 ・ 国 見 団 地 一 行 政 区)	H14. 5. 21	67	下 渋 佐 防 災 会	H16. 4. 1
			68	南 町 一 行 政 区 防 災 会	H16. 4. 16
			69	大 木 戸 防 災 会	H16. 6. 30
			70	下 江 井 防 災 会	H16. 8. 17
			71	矢 川 原 防 災 会	H16. 10. 1
34	上 北 高 平 三 防 災 会	H14. 6. 1	72	旭 町 一 防 災 会	H17. 4. 1

番号	名 称	結成年月日	番号	名 称	結成年月日
73	橋本町二防災会	H17. 4. 1	80	北町一防災会	H20. 6. 1
74	桜井町二防災会	H17. 4. 1	81	北町二行政区防災会	H20. 7. 1
75	小川町自主防災会	H17. 4. 1	82	本町一丁目防災会	H20. 9. 1
76	橋本町一丁目自主防災会	H17. 4.15	83	小木迫自主防災会	H21. 4. 1
77	片倉自主防災会	H19. 3. 1	84	陣ヶ崎二区防災会	H21. 4. 1
78	三島町自主防災会	H19. 4.14	85	本町二区防災会	H21. 4. 1
※	(三島町一・三島町二行政区)		86	南四防災会	H21. 4. 1
79	錦町一区自主防災会	H20. 4. 1	87	本町三防災会	H21.10. 1

※は合同で防災会を結成しており、行政区としては92である。

南相馬市(小高区)

番号	名 称	結成年月日	番号	名 称	結成年月日
1	塚原地区防災会	H 2. 4. 1	21	大田和防災会	H14. 4. 1
2	一区防災会	H13. 4. 1	22	南鳩原地区防災会	H14. 4. 1
3	二区防災会	H12.11. 1	23	金谷防災会	H14. 4. 1
4	三区防災会	H12.11. 1	24	摩辰防災会	H14. 4. 1
5	四区防災会	H12. 9. 1	25	女場自主防災会	H14. 4. 1
6	下蛭沢防災会	H13. 9. 1	26	飯崎行政区防災会	H14. 6. 1
7	五区防災会	H13. 9. 1	27	福岡防災会	H14. 6. 1
8	下浦防災会	H13.11. 1	28	小高防災会	H14. 6. 1
9	泉沢防災会	H13.11. 1	29	羽倉防災会	H14. 6. 1
10	岡田行政区自主防災会	H13.12. 1	30	大富防災会	H14. 8. 1
11	浦尻防災会	H14. 1. 1	31	角間沢自主防災会	H14. 8. 1
12	行津防災会	H14. 1. 1	32	角部内防災会	H14. 9. 1
13	小屋木防災会	H14. 2. 1	33	大井防災会	H14. 9. 1
14	川房行政区防災会	H14. 2. 1	34	村上自主防災会	H14. 9. 1
15	片草防災会	H14. 3. 1	35	上蛭沢防災会	H14. 9.10
16	吉名防災会	H14. 4. 1	36	川原田自主防災会	H14.11. 1
17	北鳩原防災会	H14. 4. 1	37	井田川行政区自主防災会	H14.10. 1
18	小谷防災会	H14. 4. 1	38	下耳谷自主防災会	H15. 6. 1
19	上浦防災会	H14. 4. 1	39	上耳谷自主防災会	H15. 9. 1
20	神山行政区防災会	H14. 4. 1			

南相馬市(鹿島区)

番号	名 称	結成年月日	番号	名 称	結成年月日
1	小山田防災会	H12. 6.30	7	南柚木防災会	H12. 9. 1
2	南屋形防災会	H12. 7.20	8	大谷地防災会	H12. 9.13
3	港防災会	H12. 8. 7	9	寺内防災会	H12. 9.27
4	江垂防災会	H12. 8.21	10	北海老防災会	H12.10. 1
5	上寺内防災会	H12. 9. 1	11	車川防災会	H12.10.13
6	塩崎防災会	H12. 9. 1	12	永田防災会	H12.10.18

番号	名 称	結成年月日	番号	名 称	結成年月日
13	白 坂 防 災 会	H12.10.20	27	南 海 老 防 災 会	H13. 9. 1
14	御 山 防 災 会	H12.12. 1	28	浮 田 防 災 会	H13. 9. 2
15	檜 原 防 災 会	H12.12.23	29	町 三 区 防 災 会	H13. 9. 4
16	上 栢 窪 防 災 会	H12.12.24	30	横 手 防 災 会	H13.10. 1
17	川 子 防 災 会	H12.12.26	31	牛 河 内 防 災 会	H13.11. 1
18	北 屋 形 防 災 会	H13. 1.24	32	山 下 防 災 会	H13.11. 7
19	栢 窪 防 災 会	H13. 3.25	33	岡 和 田 防 災 会	H13.12. 1
20	角 川 原 防 災 会	H13. 4. 1	34	町 四 区 防 災 会	H14. 3.22
21	北 右 田 防 災 会	H13. 6. 1	35	西 町 防 災 会	H14. 4. 1
22	台 田 中 防 災 会	H13. 6.11	36	鳥 崎 防 災 会	H14. 4. 1
23	南 右 田 防 災 会	H13. 6.21	37	新 町 防 災 会	H14. 4.10
24	大 内 防 災 会	H13. 7. 5	38	町 一 区 防 災 会	H14. 4.10
25	永 渡 防 災 会	H13. 8. 1	39	町 二 区 防 災 会	H14. 7.29
26	小 池 防 災 会	H13. 8. 1	40	小 島 田 防 災 会	H14. 8. 6

新地町

番号	名 称	結成年月日	番号	名 称	結成年月日
1	第 5 行政区 自主 防災 会	H14. 3. 4	5-2	第 7 行政区 自主 防災 会 (中島地区)	H14. 7.15
2	第 14 行政区 自主 防災 会	H14. 3. 5	9	第 12 行政区 自主 防災 会	H14. 8.12
3	第 9 行政区 自主 防災 会	H14. 4.12	10	第 6 行政区 自主 防災 会	H14. 8.30
4	第 15 行政区 自主 防災 会	H14. 4.23	11	第 3 行政区 自主 防災 会	H14.10. 4
5-1	第 7 行政区 自主 防災 会 (町地区)	H14. 5.17	12	第 10 行政区 自主 防災 会	H14.10.28
6	第 11 行政区 自主 防災 会	H14. 5.25	13	第 13 行政区 自主 防災 会	H14.10.28
7	第 8 行政区 自主 防災 会	H14. 6. 6	14	第 2 行政区 自主 防災 会	H14.10.29
8	第 4 行政区 自主 防災 会	H14. 7. 1	15	第 1 行政区 自主 防災 会	H15. 2.13

飯館村

番号	名 称	結成年月日	番号	名 称	結成年月日
1	宮 内 防 災 会	H12. 9. 3	11	八 木 沢 ・ 芦 原 防 災 会	H13. 7. 1
2	小 宮 防 災 会	H12. 9.10	12	20 区 防 災 会	H13. 8. 5
3	飯 樋 町 防 災 会	H13. 3.25	13	上 飯 樋 防 災 会	H14. 3.24
4	深 谷 防 災 会	H13. 3.25	14	蕨 平 防 災 会	H14. 4. 1
5	伊 丹 沢 防 災 会	H13. 4.17	15	草 野 防 災 会	H14. 4. 1
6	前 田 防 災 会	H13. 4.19	16	大 久 保 ・ 外 内 防 災 会	H14. 4. 1
7	長 泥 防 災 会	H13. 4. 1	17	大 倉 防 災 会	H14. 4. 1
8	関 根 ・ 松 塚 防 災 会	H13. 5.27	18	11 区 防 災 会	H14. 4. 1
9	比 曾 防 災 会	H13. 6. 3	19	白 石 自 主 防 災 会	H14. 7. 2
10	関 沢 防 災 会	H13. 6. 3	20	佐 須 自 主 防 災 会	H14.10.14

## 市町村別消防クラブ結成状況

(平成28年4月1日現在)

区分	幼年消防クラブ	少年消防クラブ	女性消防隊	計
市町村				
相馬市	816 (12)	1,193 (8)	5,769 (1)	7,778 (21)
原町区	631 (8)	850 (8)	11,078 (1)	12,559 (17)
小高区	0 (0)	188 (5)	2,264 (1)	2,452 (6)
鹿島区	313 (5)	92 (3)	2,049 (1)	2,454 (9)
新地町	124 (3)	124 (3)	2,495 (1)	2,743 (7)
飯舘村	37 (2)	75 (3)	1,300 (1)	1,412 (6)
計	1,921 (30)	2,522 (30)	24,955 (6)	29,398 (66)

※( )は組織数を示す。



**震 災 関 係**



# 東日本大震災(東北地方太平洋沖地震)概要

## 1 地震の概要

- (1) 発生日時 平成23年3月11日(金) 14時46分頃
- (2) 震源地 三陸沖(牡鹿半島)約130Km 深さ24km
- (3) 地震規模 マグニチュード 9.0
- (4) 震度 新地町6強、相馬市・南相馬市・飯館村6弱



## 2 初動対応等

- 14時48分 地震災害消防対策本部設置
- 14時49分 大津波警報発令 ※13日17:58～全ての津波注意報解除
- 15時35分 津波第1波到達確認(原町区渋佐地区)
- 15時50分 津波最大派7.3m以上観測(相馬検潮所)※9.3m超に修正
- 16時30分 緊急消防援助隊要請
- 16時46分 自衛隊災害派遣要請(県消防保安課で依頼)

## 3 初期活動概要(平成23年3月11日のみ)

- (1) 地震警戒調査・広報、津波警戒調査・広報、情報収集・被害調査・避難誘導等
- (2) 火災出動 5件(火災取扱件数 3件)
- (3) 救急出動 34件
- (4) 救助出動 24件
- (5) 油流出対応 1件

## 4 行方不明者捜索(平成23年3月11日～同年6月13日)

件数	活動隊数	活動延人員
799 件	1,031 隊	3,330 人



## 5 被害概要

(福島県発表・平成27年5月14日現在)

市町村別	死亡	行方不明	負傷者	建物全壊	半壊	一部破損
相馬市	484	0	11	1,004	833	3,397
南相馬市	1,105	0	59	2,245	1,766	3,457
新地町	119	0	3	439	138	669
飯館村	43	0	1	0	0	0
計	1,751	0	74	3,688	2,737	7,523

※死亡は震災関連死を含む。建物被害は住家被害のみ。

## 6 緊急消防援助隊等

- (1) 緊急消防援助隊 10都県 延べ725隊・2,652名  
(指揮支援隊、消火隊、救助隊、救急隊、後方支援隊指揮等)
- (2) 消防防災ヘリ 14府県 14機
- (3) 福島県広域消防相互応援隊(救急隊) 7本部 延べ51隊・214名



## 7 東京電力福島第一原子力発電所事故関係

- (1) 平成23年3月12日(土) 5:44  
10Km圏内避難指示(南相馬市小高区の一部)
- (2) 同年 3月12日(土)18:25  
20Km圏内避難指示(南相馬市小高区・原町区の一部)  
【3月14日(月)～小高分署が南相馬消防署に移転】
- (3) 同年 3月15日(金)11:06  
30Km圏内屋内退避(南相馬市小高区・原町区・鹿島区の一部、飯館村の一部)
- (4) 同年 4月21日(木)11:00  
警戒区域(20Km圏内)設定
- (5) 同年 4月22日(金) 9:44  
「計画的避難区域」指定(飯館村全域・南相馬市の一部)  
「緊急時避難準備区域」設定(南相馬市の一部20～30Km圏内、屋内退避指示は解除)
- (6) 同年 6月16日(木)  
「特定避難勧奨地点」として南相馬市の一部が対象
- (7) 同年 9月30日(金)18:11  
「緊急時避難準備区域」解除
- (8) 平成24年4月16日(月) 0:00  
警戒区域解除、避難指示区域見直し「帰還困難区域」・「居住制限区域」・「避難指示解除準備区域」に設定(南相馬市小高区・原町区の一部)  
【同日8:30～小高分署通常業務再開】

(9) 平成26年12月28日(日) 0:00  
南相馬市の「特定避難勧奨地点」解除

8 警戒区域内一時立入関係



南相馬市馬事公苑内



一時立入時の移動用バス

9 応急仮設住宅関係

・応急仮設住宅

(平成24年3月28日現在)

相馬地方管内	施設数	建設棟数	建設戸数	入居戸数	入居人数
相馬市	14	262	1,500	1,411	3,886
南相馬市					
原町区	4	73	522	687	809
鹿島区	28	394	2,175	1,945	5,428
新地町	8	573	573	0	1,451
計	54	1,302	4,770	4,043	11,574

・復興公営住宅等(予定を含む)

相馬地方管内	整備戸数	備考
相馬市	514	災害市営住宅
南相馬市	927	復興公営住宅(福島県)
原町区	220	災害公営住宅
鹿島区	90	〃
小高区	40	〃
新地町	104	災害公営住宅、防災集団移転団地
飯舘村	23	復興公営住宅 ※福島市飯野町に建設

10 警戒区域等大規模火災対応関係

(1) 福島県広域消防相互応援協定に基づく警戒区域及び計画的避難区域内の広域応援隊の活動指針決定(平成23年11月15日から適用)

(2) 平成24年3月13日(火)警戒区域内での大規模火災対応訓練に参加

① 場所 原子力災害対策現地本部、福島県災害対策本部、Jヴィレッジ、広野町総合グラウンド等

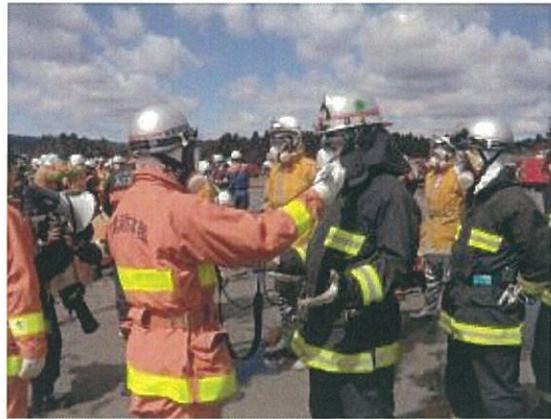
② 参加機関 県内11消防本部、福島県、福島県消防防災ヘリ、東京電力

③ 訓練内容 タイベック着脱、大容量放水システム・遠距離送水訓練、防災ヘリ空中消火、放射能スクリーニング

- ④ 当本部訓練概要 消火隊(南相馬消防署ポンプ車1台4名)、後方支援隊(消防本部指令車1台2名)により楢葉分署集結後、タイベック着脱、遠距離送水、放射能スクリーニング訓練を実施

(3) 平成26年5月15日 警戒区域内での大規模火災対応訓練に参加

- ① 場 所 双葉郡浪江町請戸地内 請戸川河岸  
 ② 参加機関 県内12消防本部、福島県、福島県消防防災ヘリ、東京電力  
 ③ 訓練内容 タイベック着脱、大容量放水システム・遠距離送水訓練、防災ヘリ空中消火、放射能スクリーニング  
 ④ 当本部訓練概要 消火隊(南相馬消防署ポンプ車1台4名)、ヘリ給水・安全管理隊(11名 雲雀ヶ原祭場地で活動)消火隊は浪江消防署集結後、タイベック着脱、遠距離送水、放射能スクリーニング訓練を実施



11 警戒区域等(双葉管内)調査

- (1) 平成24年4月24、25日、双葉管内の災害発生に備え、各所属の係長以上が参加し双葉管内の現況調査を実施する。(延べ46名)

12 福島県警との合同捜索の実施

- (1) 平成24年9月11日 10:00～15:00 相馬、南相馬警察署管内の沿岸部の合同捜索を実施する。各所属から15名参加する。  
 (2) 平成25年3月9日、11日 10:00～15:00 南相馬警察署管内の沿岸部の合同捜索を実施する。各所属から9名参加する。  
 (3) 平成25年9月11日 10:00～15:00 相馬、南相馬警察署管内の沿岸部の合同捜索を実施する。各所属から14名参加する。  
 (4) 平成26年3月11日 10:00～15:00 南相馬警察署管内の沿岸部の合同捜索を実施する。各所属から10名参加する。



### 13 警戒区域等における大規模林野火災訓練の実施

- (1) 平成25年9月11日、12日 9:00～12:00の両日、南相馬市原町区の祭場地にて、警戒区域の飯館村で大規模林野火災が発生したとの想定で、全職員が参加し県内応援の受援、防災ヘリの応援態勢の検証を実施した。

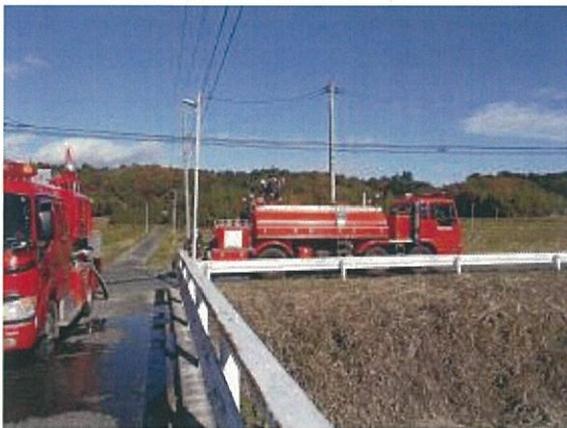


放水活動中



訓練概要説明

- (2) 平成25年11月22日 9:00～12:00、南相馬市原町区鶴谷地内にて、警戒区域で大規模林野火災が発生した想定で、全職員が参加し県内応援隊の受援、防災ヘリの応援態勢の検証を実施した。



双葉消防本部との中継送水訓練



福島県消防防災ヘリとの連携訓練

- (3) 平成26年11月20日、21日 9:30～12:00、避難区域の飯館村須萱地内で福島県消防防災航空隊及び伊達消防本部との合同による大規模火災対応訓練を実施。



現場指揮所に集合する応援本部員



遠距離中継送水訓練(航空隊撮影)



南相馬市消防・防災センター  
高機能消防指令施設関係



## ◎事業概要

○南相馬市消防・防災センター

### 事業経過

旧庁舎は、昭和47年に建設後、長い年月が経過し、職員数の増加やOA機器の配置により事務室も著しく狭隘な状態となっていたことや、3月11日の東日本大震災の影響により、倒壊こそ免れたものの、庁舎内外の至る所にクラックが入り、今後、大地震が発生した場合、庁舎が損壊し、消防・救急活動に支障をきたす事態が危惧されていたことから、建替えを行った。

- ・平成23年11月22日～平成24年 3月16日 基本設計の実施
- ・平成24年 5月30日～平成25年 1月31日 実施設計の実施
- ・平成25年 3月29日～平成26年10月31日 建設工事の実施

### 建物構造

庁舎は、災害時に拠点となりうる高い防災能力を有する施設であることが求められることから、重要度係数を1.5(耐震安全性分類Ⅰ類)とし、検討した結果、構造については鉄骨造・制震構造(制震ダンパー)とした。

また、3階の消防本部のサーバ室については免震床構造(フロア高 20cm)とし、後の機器更新にも対応できるよう本部事務室の床下も免震床対応可能とした。

- ・敷地面積:7,561.16㎡
- ・構造:鉄骨造・制震造3階建
- ・床面積:2,792.15㎡(庁舎棟2,751.68平米、倉庫棟40.47㎡)
- ・付帯施設:訓練塔(主塔・副塔)

### 総事業費 1,634,040千円

・庁舎建設工事関係

設計業務	41,987千円
工事監理業務	20,138千円
建築主体工事	850,064千円
電気設備工事	145,949千円
機械設備工事	125,857千円

### 実施事業者

- ・設計・施工監理 株式会社永山建築設計事務所
- ・建築主体工事 関場建設株式会社
- ・電気設備工事 株式会社ユアテック 相双営業所
- ・機械設備工事 伊藤冷機工業株式会社

○高機能消防指令施設

**事業経過**

平成20年6月～平成23年2月

副市町村長会議及び市町村担当課長会議において、消防本部庁舎並びに高機能消防指令施設の整備について、協議・検討を重ねる

平成23年

3月11日 東日本大震災の発生により整備計画の見直しを余儀なくされる

11月9日 管理者会議において、消防救急デジタル無線整備工事と一体的に整備することを決定

平成24年

2月9日 プロポーザル方式による施設整備を行うため、消防救急デジタル無線整備工事等選定委員会を設置

3月1日 「消防救急デジタル無線及び高機能消防指令施設整備工事」募集の公表

4月11日 消防救急デジタル無線整備工事等選定委員会において技術提案書を審査し、優先交渉権者を選定

4月17日 管理者会議において、「消防救急デジタル無線及び高機能消防指令施設整備工事」に係る優先交渉権者を決定

4月27日 工事請負契約の締結について組合議会の議決

4月27日 高機能消防指令施設整備工事監理業務委託

平成25年

4月1日 消防救急デジタル無線運用開始

平成26年

2月26日 工事変更請負契約の締結について組合議会の議決

平成27年

1月29日 高機能消防指令施設試験運用開始

3月24日 高機能消防指令施設開通式

**総事業費** 313,390千円

・高機能消防指令施設整備工事費 308,676千円

・高機能消防指令施設整備工事監理業務委託費 4,714千円

**実施事業者**

・施工 株式会社 日立製作所東北支社

・監理設計 株式会社 無線放送設計事務所

○南相馬市消防・防災センター、高機能消防指令施設



南相馬市消防・防災センター(消防本部、南相馬消防署併設)



高機能消防指令施設(通信指令室)

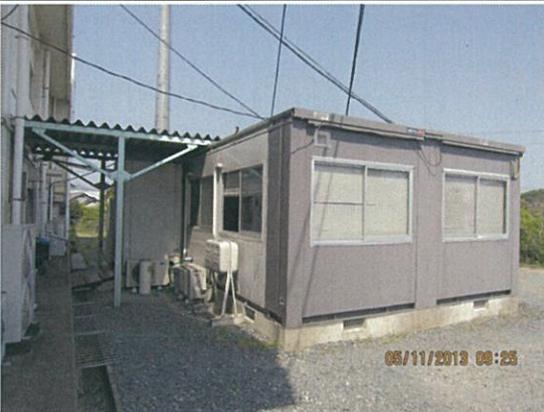
○旧庁舎関係



旧庁舎



訓練塔(主塔・副塔)



通信指令室



敷地全景

平成27年

---

# 消 防 年 報

---

発 行 平成28年6月

発行者

〒975-0033

福島県南相馬市原町区高見町一丁目272番地  
相馬地方広域消防本部

TEL 0244-22-4164

FAX 0244-22-5790

《編集》総務課

---